【第４次地域福祉計画策定に係る基礎調査】

地域福祉に関する市民アンケート調査

調査結果報告書

重層的支援体制整備事業
「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」

令和６年 12 月

――― 目　次 ―――

Ⅰ．調査方法と回収状況……3
Ⅱ．回答者属性……5
　1．性別……6
　2．年齢……7
　3．居住地区……9
　4．職業……10
　5．世帯構成……12
Ⅲ．調査結果の概要……15
Ⅳ．調査結果……21
　1．居住経緯……22
　2．市の住みよさ……24
　3．近所づきあいの程度……26
　4．近所づきあいへの満足度……29
　5．住民相互の助け合いの必要性……30
　6．近所づきあいへの考え方……31
　7．地域行事などへの参加状況……34
　8．日々の生活での悩みや不安……37
　9．福祉に関する情報源……39
　10．生活上の問題での相談先……41
　11．福祉サービスを安心して利用できるために必要なこと……45
　12．福祉サービスの利用意向……47
　　12-1．利用しない理由……48
　13．民生委員・児童委員の認知……49
　14．甲州市社会福祉協議会の認知……51
　15．ボランティア経験……52
　　15-1．活動内容……53
　16．ボランティアへの参加意向……55
　　16-1．参加意向活動……57
　17．社協活動の認知……59
　18．社協への期待……63
　19．困ったときに助けあえるまちとは……65
　20．福祉用語の認知……67
　21．重視すべき福祉分野……68
　22．生活困窮者への支援……70
　23．再犯防止計画の認知……71
　24．再犯防止活動の協力者認知……72

Ⅰ．調査方法と回収状況

Ⅰ．調査方法と回収状況

１．調査期間

2024 年８月８日（木）～８月 26 日（月）

２．調査方法

自記入式（郵送による配布）
回収は、郵送による返信およびＷｅｂでの回答による

３．対象者数

2,000 人
住民基本台帳から 18 歳以上の住民を無作為抽出

４．回収状況

	合計	郵送	Ｗｅｂ	
①配布数	2,000	2,000		
②未達返送	4	4		
③実配布	1,996	1,996		
④回収	979	766	213	
⑤回収率	49.0%	38.4%	10.7%	=④／③
⑥集計不能	2	2	0	
⑦有効回収	977	764	213	

※グラフ内の表記について

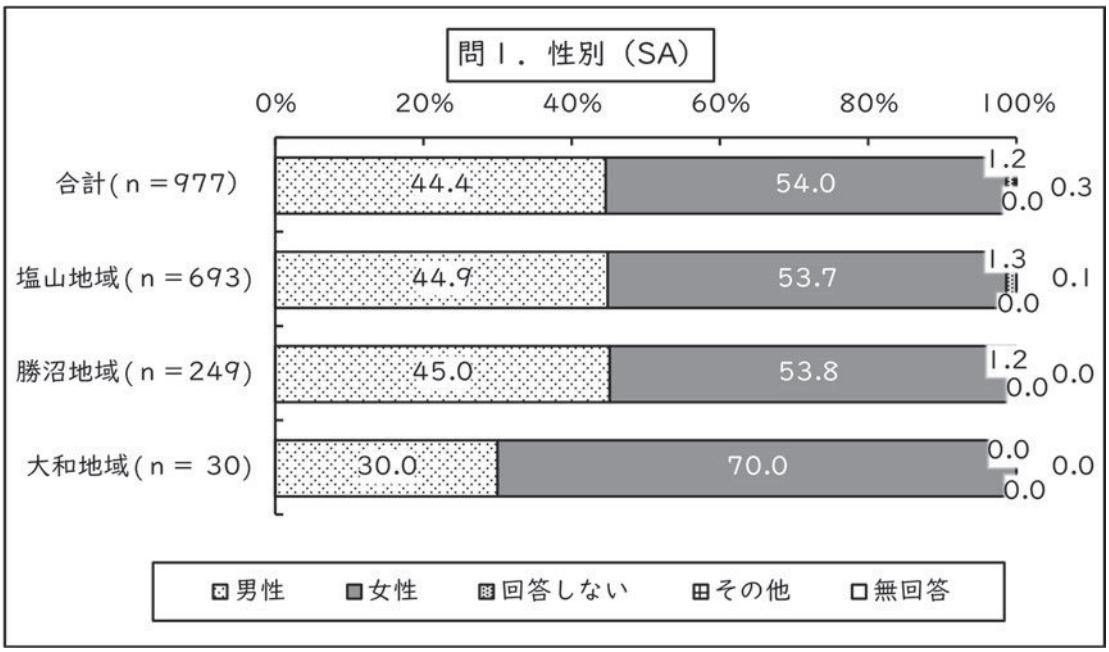
・(ｎ＝〇〇)　：回答者の数
・(SA)　シングルアンサー　：あてはまるもの、ひとつに回答
・(〇LA)　リミテッドアンサー：先頭数字の数まで回答（例 2LA：２つまで回答）
・(MA)　マルチプルアンサー：あてはまるもの、いくつでも回答
・前回比較　：2019 年（令和元年）８月に市が実施した「『第３次甲州市地域福祉計画』策定に関する市民意向調査」との比較のこと

Ⅱ．回答者属性

Ⅱ．回答者属性

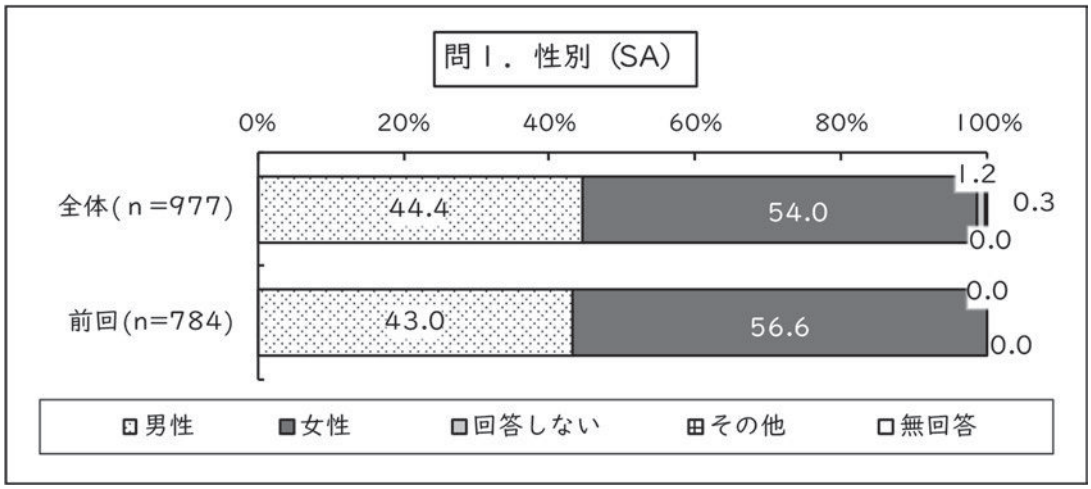
１．性別

○性別は、「男性」44.4%、「女性」54.0%の回答割合となっています。
○地域別では、「大和地域」で「男性」30%と少なくなっています。



※１　「回答しない」は、性別を“回答しない”とした人のこと。
※２　「無回答」は、いずれの項目にも回答しなかった人のこと。

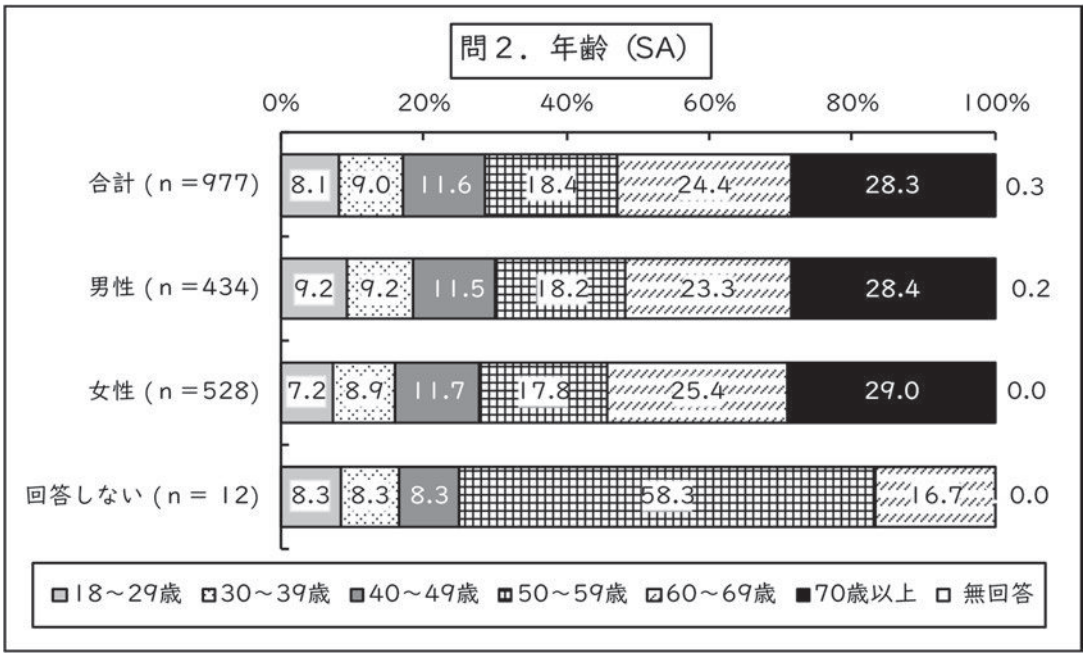
○前回に比べ大きな変化は見られません。



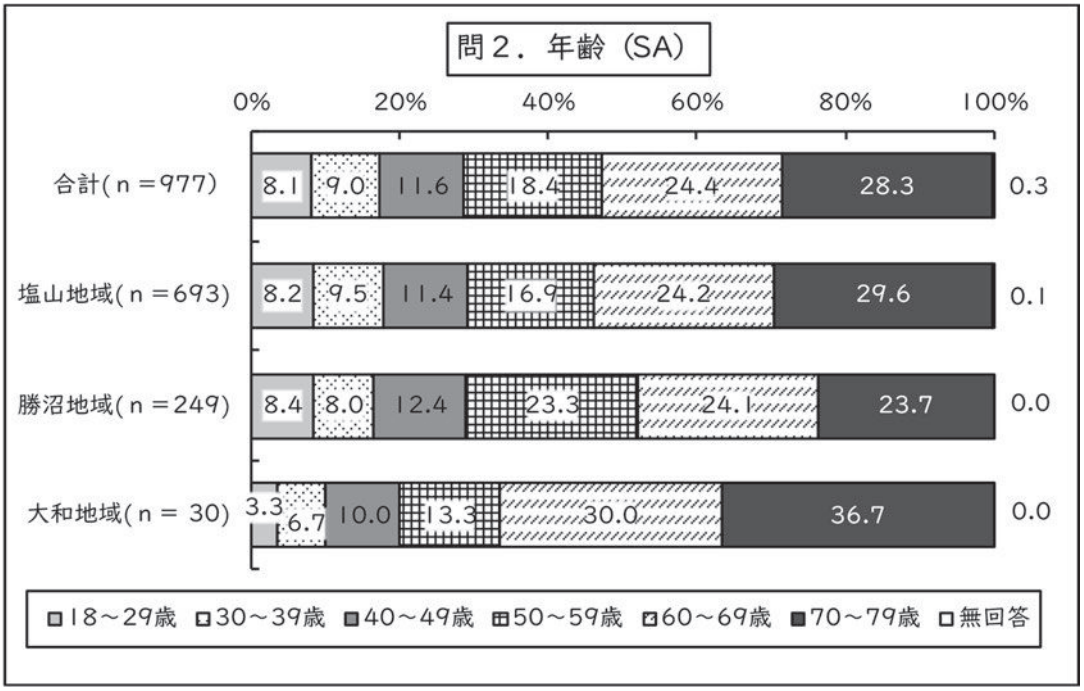
２．年齢

○年齢は、「70 歳以上」28.3%が最も多く、以下、「60～69 歳」24.4%、「50 歳～59 歳」18.4%と続き、60 歳以上が５割以上を占めています。

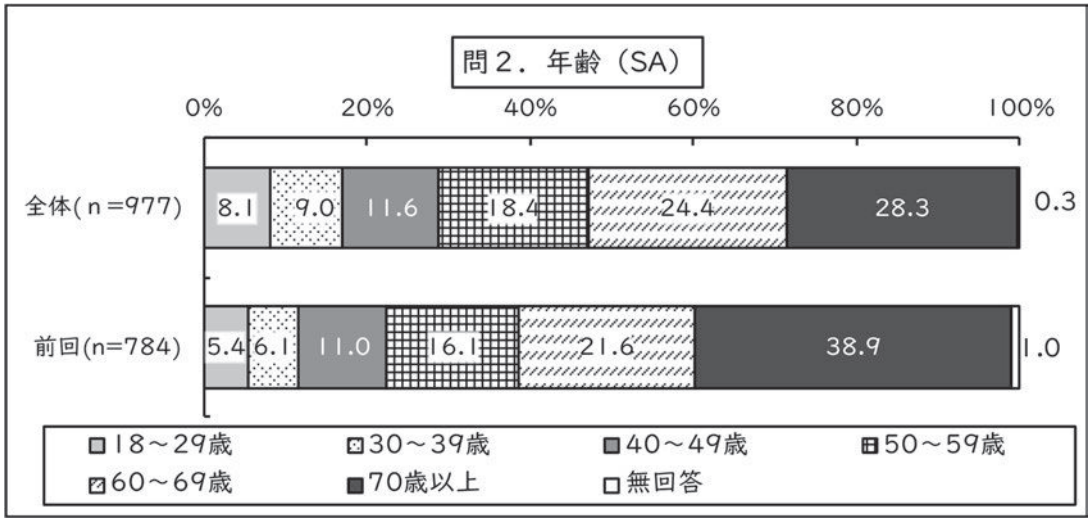
○性別での大きな違いは見られません。



○地域別では、「大和地域」で年齢が高く、「勝沼地域」で「50～59 歳」の回答が他の地域に比べて多い傾向になっています。

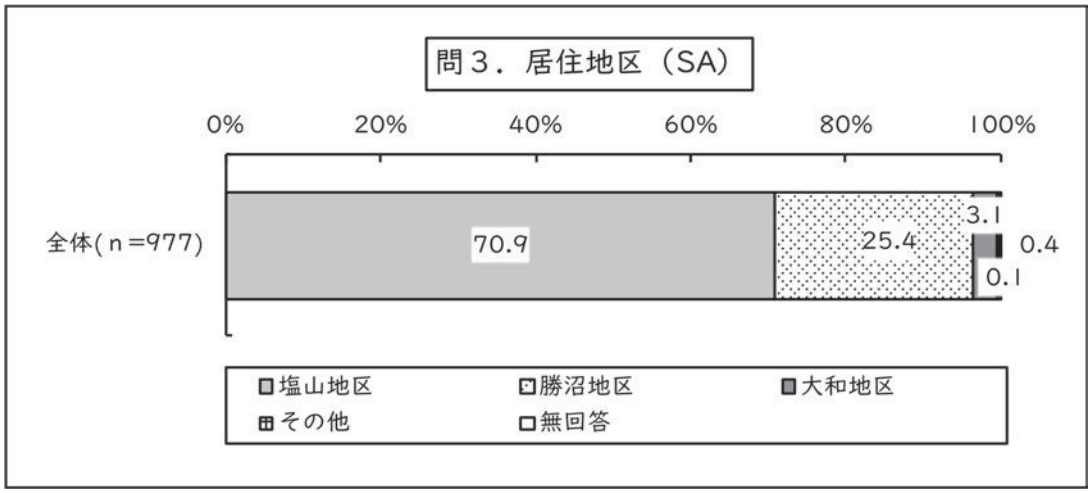


○前回との比較では、70 歳以上が減少し、60 歳代以下が増加しています。Web 回収を取り入れた事による、若い世代の回答の増加と回収率の増加によるものと推測されます。

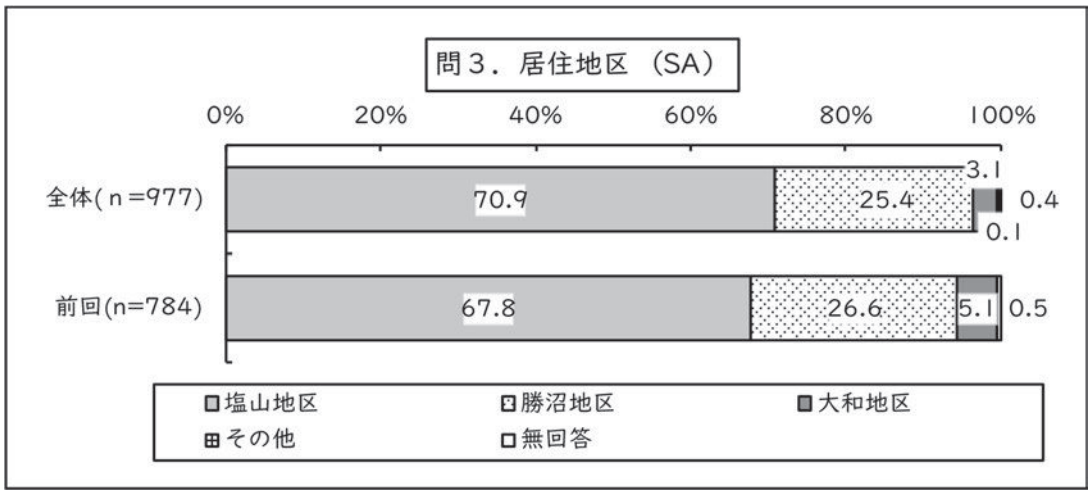


３．居住地区

○居住地区は、「塩山地区」70.9%が最も多く７割を占め、以下、「勝沼地区」25.4%、「大和地区」3.1%となっています。



○前回と比べて大きな変化は見られません。

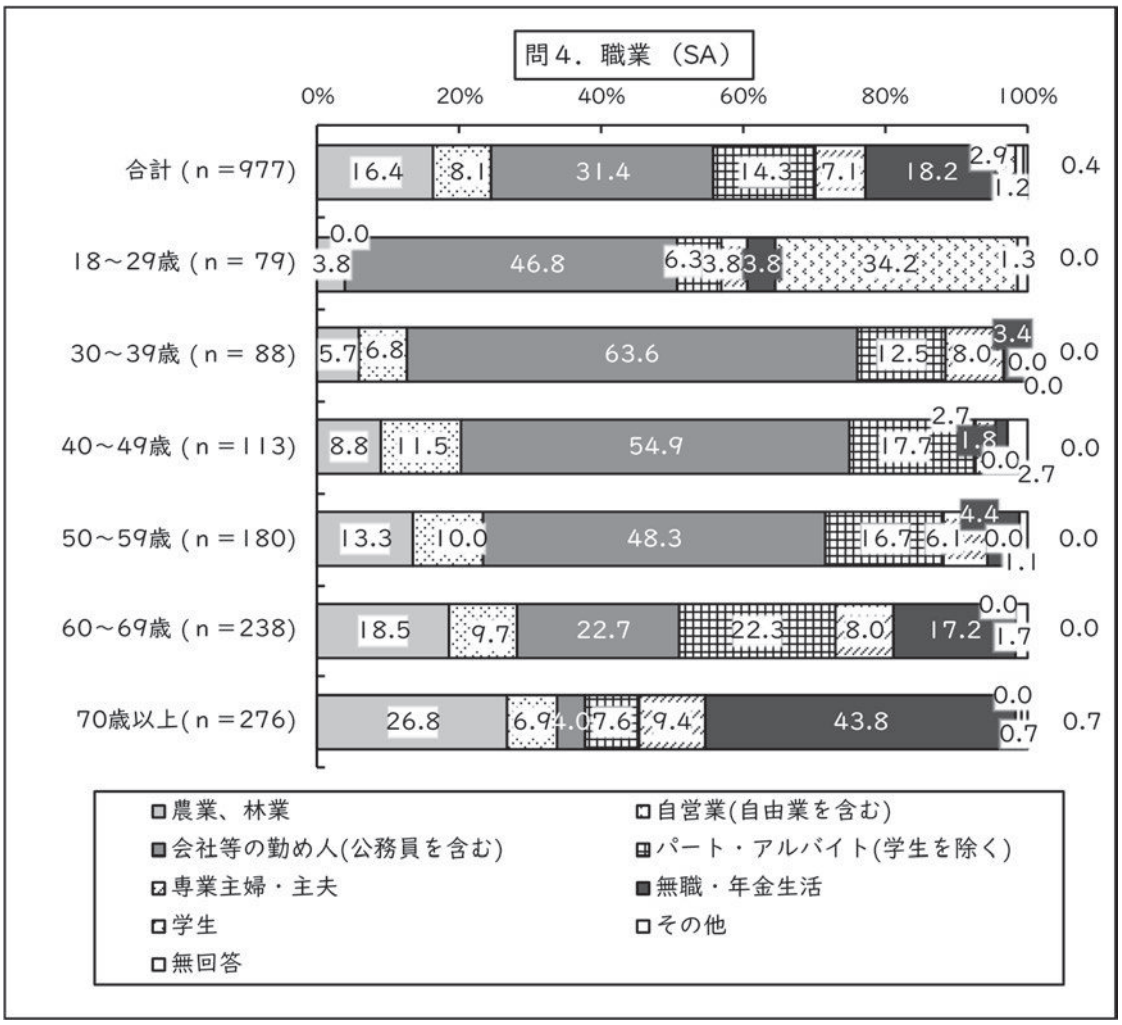


４．職業

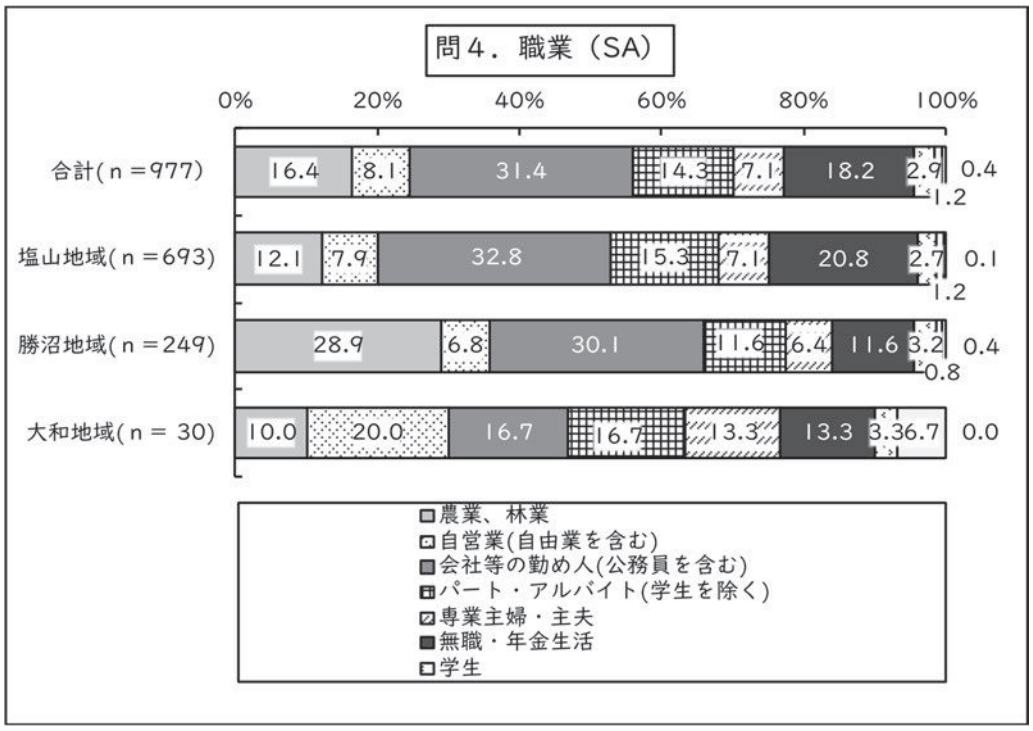
○全体では、「会社等の勤め人」31.4%が最も多く、以下、「無職・年金生活」18.2%、「農業、林業」16.4%、「パート・アルバイト」14.3%となっています。

○年齢別で見ると、「18～59 歳」までの各年代では「会社等の勤め人」が最も多くを占めています。また、「農業」は年代が高くなるほど増加しています。

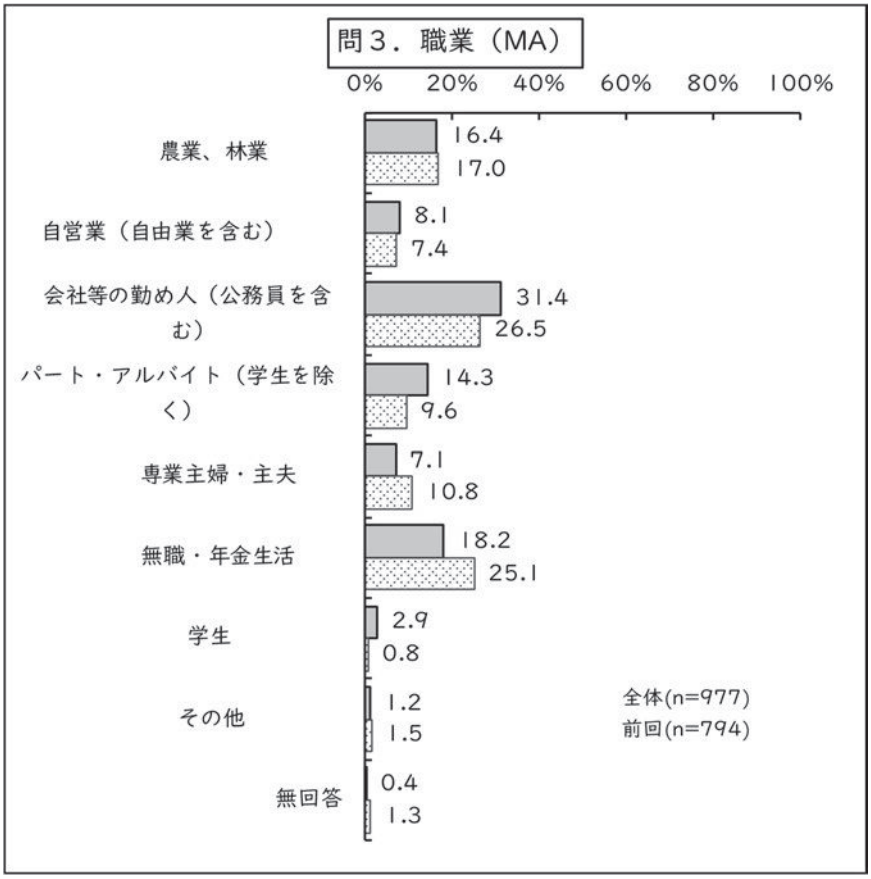
「学生」は「18 歳～29 歳」で、「無職・年金生活」は「70 歳以上」で多いことが特徴的です。



○地域別では、「勝沼地域」で「農業、林業」が約３割を占めています。



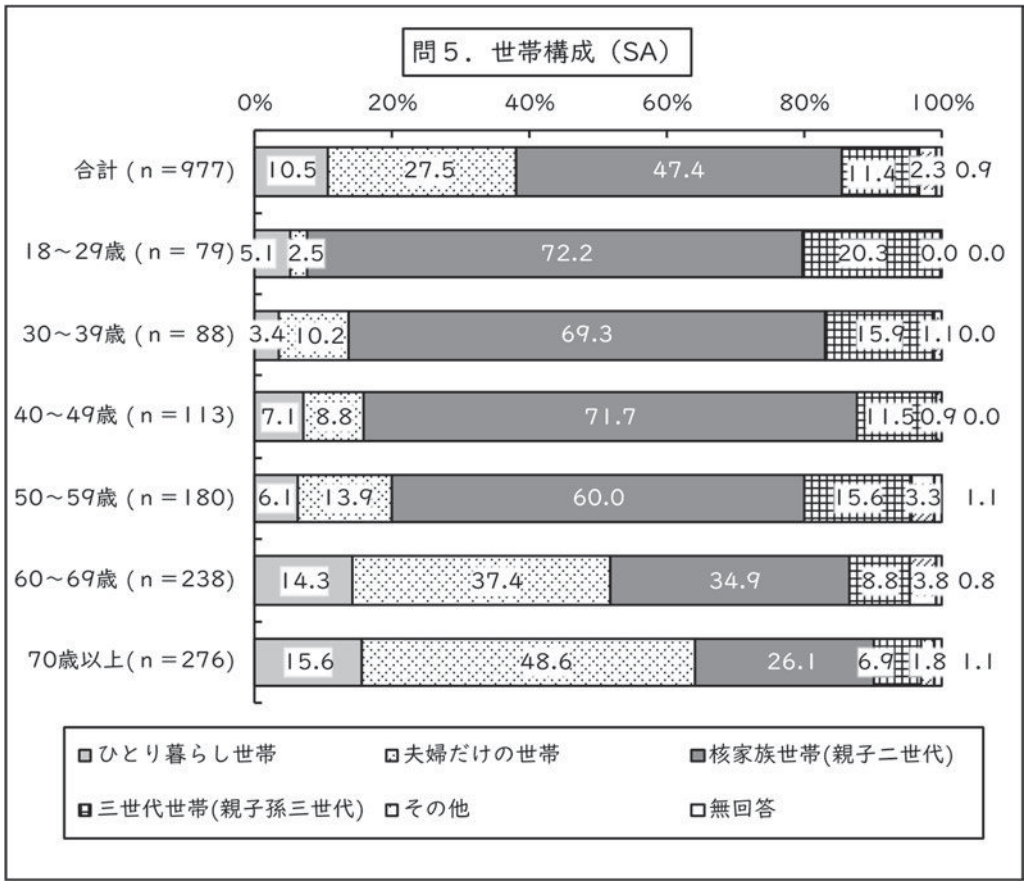
○前回に比べ、「会社等の勤め人（公務員を含む)」「パート・アルバイト」が多く、「無職・年金生活」が減少しています。



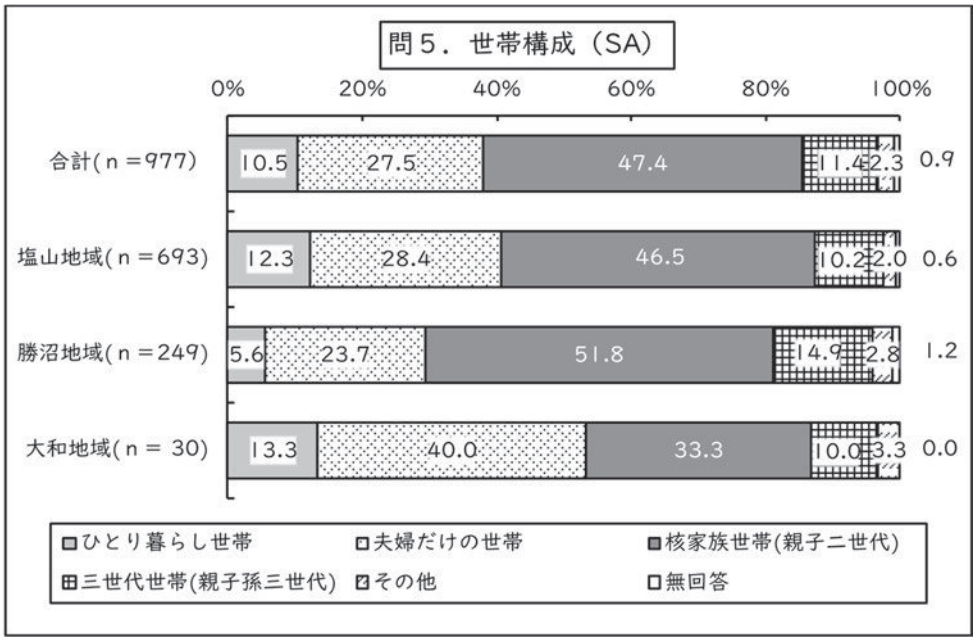
５．世帯構成

◯全体では「ひとり暮らし世帯」10.5%が約１割、「夫婦だけの世帯」27.5%が約３割、「核家族世帯」47.4%が約５割の比率となっています。

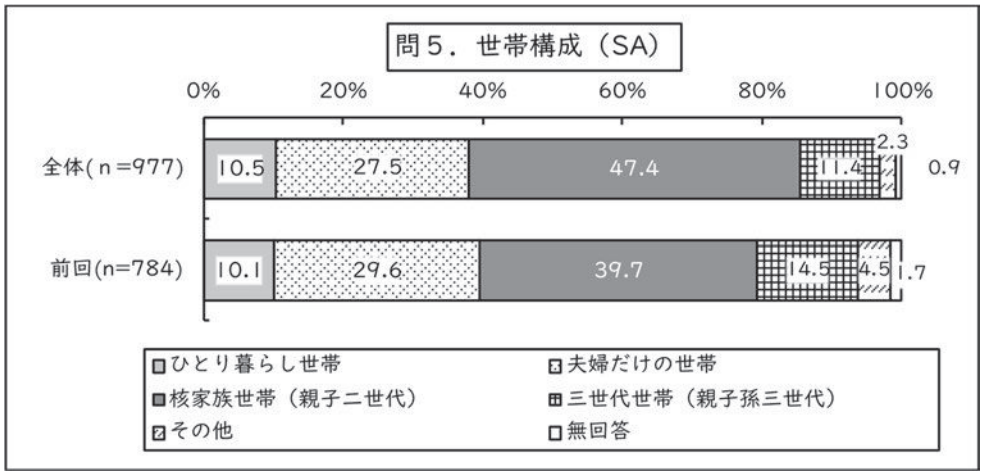
◯年齢別で見ると、年齢層が高くなるほど、「ひとり暮らし」「夫婦だけ」の世帯が多くなる傾向で、特に「60 歳代」から顕著な特徴になっています。



○地域別では、「勝沼地域」で「核家族世帯」が半数を超えていることと、「大和地域」で、「夫婦だけの世帯」が多いことが目立ちます。



○前回に比べ、「核家族世帯（親子二世代）」が増加し、「三世代世帯（親子孫三世代）」が減少しています。



Ⅲ．調査結果の概要

Ⅲ．調査結果の概要

１．地域に対する現状の評価

―甲州市出身は「男性 71.4%」「女性 46.4%」、住みよさには８割が肯定的―

◯居住経緯は、「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」33.2%、以下、「甲州市の出身ではなく、県内の他の市町村から転入してきた」26.2%、「甲州市の出身だが、市外での居住経験があって再び戻った」24.7%。

◯「男性」で「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」が多く、「女性」では、「甲州市の出身ではなく、県内の他の市町村から転入してきた」が多くなっている。

◯年齢別では、「18～29 歳」で「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」が６割を占める。

◯住みよさについての評価は、「住みよい」24.7%、「どちらかといえば住みよい」58.4%の「肯定的な評価」が８割。

「18～29 歳」で「住みやすい」32.9%の回答が最も多い一方で、「否定的な評価」も３割弱を占める。

「大和地域」で「住みよい」10.0%が特に少ない一方、「どちらかといえば住みにくい」23.3%が、他の２地域に比べて多い。

２．近隣関係の現状

―近隣関係は、「親しい付き合い」「世間話をする」など直接のコミュニケーションがあるのは約半数で近所付き合いには概ね肯定的―

◯近所づきあいは、「顔を合わせればあいさつをする」41.2%が最も多い。以下、「親しく付き合っていて、家族についても知っている」28.4%、「時々世間話をする」24.7%と続く。

「親しく付き合っていて、家族についても知っている」、「時々世間話をする」は、年齢層が高くなるほど多い。「顔をあわせればあいさつをする」は、年齢層が低いほど多くなる。

◯近所づきあいへの満足度は、「肯定的な意見」が７割で「否定的な意見」は５%に満たない。「18～29 歳」で「満足している」39.2%が多い。

３．近隣関係の考え方

―近隣関係は必要だが、関係はより淡白になる傾向―

◯住民相互の助け合いの必要性については、「必要だと思う」76.9%が８割弱を占め、「必要だと思わない」3.7%は５%に満たない。

年齢が高くなるに従って「必要だと思う」が増加する傾向である一方、「30～39 歳」

で、「必要だと思う」58.0%の割合が目立って少なく、「必要だと思わない」10.2%が1割を占める。

◯近所づきあいについては、「わずらわしい事もあるが、生活していくうえで大切にすべきことである」59.6%が6割を占める。以下、「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」19.6%と「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」16.4%が続く。

年齢別では、「18～29歳」と「70歳以上」で「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」が多い。また、「30～39歳」で「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」、「付き合いがなくても困らないので、したくない」が多い。

「大和地域」で、「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」43.3%が目立って多い。

前回と比べ、「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」が大幅に減少し、「わずらわしい事もあるが、生活していく上で大切にすべき事である」と「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」が増加傾向。

4．地域行事への参加

―行事参加意向は約6割―

◯地域行事などへの参加状況ついては、「都合がつけば、参加するようにしている」62.6%が最も多く約6割を占める。

一方、「これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」9.3%という考え方も1割。

◯「18～29歳」、「30～39歳」で、「これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」が多くなる。

5．生活課題への対応

―不安は「老後」と「健康」問題、相談先は「家族や血縁者」―

◯生活での悩みや不安については、「自分や家族の老後のこと」56.9%、「自分や家族の健康のこと」52.9%がともに半数を超える。

以下、「災害時の備えに関すること」31.5%、「経済的な問題」31.1%、「介護のこと」28.7%が約3割を占める。「特にない」11.8%が1割。

◯福祉に関する情報源は、「市の広報」64.8%が目立って多く、以下、「地区の回覧」26.3%、「新聞、雑誌」24.9%、「テレビ、ラジオ」21.8%。

年齢別では、「インターネットやSNS」を「18～29歳」で35.4%、「30～39歳」で27.3%があげている。

前回と比べると、「地区の回覧板」「新聞、雑誌」「テレビ、ラジオ」など自分から能動的に接触しなくても入手できる情報源が多い。

◯生活上の問題についての相談先は、「同居の家族」73.1％が７割。以下、「知人、友人」42.2％、「別居の家族」38.5％、「親戚」26.9％と続き、血縁関係者が多い。
性別では、女性で「知人、友人」45.8％、「別居の家族」44.8％が多い。
前回と比べると、「知人・友人」以外については、減少傾向。

６．福祉サービスの利用について
―福祉サービス利用の際は、事前情報の提供が重要―

◯福祉サービスを安心して利用できる状況をつくるためには、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」77.5％が約８割、以下、「相談できる場所や相談員の情報」57.5％、「福祉サービスを提供する事業者の情報」46.0％の３項目に回答が集中。
◯福祉サービスの利用意向については、「すでに利用している」13.4％、「必要があればすぐに利用する」45.1％の利用意向が高い層が約６割、「内容や料金を検討してから利用する」32.0％とした条件検討後が約３割。

７．民生委員・児童委員、社会福祉協議会の認知
―年齢層が高いほど認知率も向上―

◯民生委員・児童委員の認知については、活動や地域の担当委員など何らかの認知がある人が約７割。「活動内容も地区の委員も知らない」30.1％が約３割。
年齢層が高くなるほど、認知も高い。
前回と比べると、認知は低下傾向。
◯甲州市社会福祉協議会の認知は、「名前も活動も知っている」31.8％が３割、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよくわからない」57.4％が６割、「名前も活動内容も知らない」9.5％が１割。
年齢層が高くなるほど、認知も高い。

８．ボランティア参加について
―参加意向はあるが、参加に至るのは１割前後―

◯ボランティア経験については、「活動したことがない」75.3％が最も多く全体の 3/4。
「現在活動している」6.1％、「以前活動したことがある」16.2％の活動経験は全体の２割程度。
「18～29 歳」で「以前活動したことがある」43.0％が特に多い。
◯「現在活動している」と回答した 60 人にその内容を聞いた所、「行事・レクレーション活動の支援」23.3％、「資金援助（募金・寄付も含む）」23.3％、「子育て支援」21.7％が多い。

前回と比べると、「行事・レクリエーション活動の支援」、「文化・芸術活動支援」、「福祉啓発」が大きく減少。一方、「資金援助(募金、寄付も含む)」、「子育て支援」、「介護・介助」は増加。

◯福祉分野のボランティア活動への参加意向については、「ボランティア活動への興味はあるが、参加できない」44.8%が最も多い。「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」16.1%、「ボランティア活動への興味はあるが、参加しようとは思わない」17.8%、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」17.3%の３項目が同程度の割合。

◯年齢別では、「18～29 歳」と「40～49 歳」で「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」の意見が多く、一方、「30～39 歳」では、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」31.8%が３割を超えて目立つ。

前回と比べると、「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」が減少し、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」が増加。

◯「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」と回答した 157 人に参加意向活動について聞いた所、「子どもに関する活動（子ども食堂、育児ボランティアなど)」67.5%が最も多く、以下、「高齢者に関する活動（食事の支度、散歩の付き添い、話し相手など)」45.9%、「障害のある人への地域での支援活動」28.7%が続く。

前回と比べると、「子どもに関する活動（子ども食堂、育児ボランティアなど)」が増加し、それ以外の項目は減少傾向。

９．社協活動の認知

―社協だよりの認知は６割、コロナ禍の休止もありイベント等は認知が低下―

◯社会福祉協議会の活動として知られているものは、「社協だより(すまいる)(広報誌)」58.1%が半数を超えて最も多く、以下、「社協お知らせ版（広報誌)」36.9%、「こうしゅう福祉まつり」34.2%、「訪問介護事業」25.8%、「ふれあい・いきいきサロン事業」25.5%、「子育てサロン事業」25.0%。「知っているものはない」13.0%の回答も１割超。

全般的に、年齢層が高くなるほど認知が高くなる傾向。「30～39 歳」で「子育てサロン」40.9%の認知が４割超。

前回と比べると、全般に減少傾向。特に、イベントや集まり、対面での事業に関わるものの減少が目立つ。

◯社会福祉協議会の今後の活動への期待は、「お年寄りの介護や見守りなどに関すること」38.5%が最も多く、以下、「福祉に関する情報の発信」26.0%、「地域福祉活動や住民参加を支援すること」25.1%、「子どもの育成に関すること」22.2%が続く。「子どもの育成に関すること」については「18～49 歳」の年齢層で多い。

10．福祉全般について

―困ったときの相談先と情報提供の要望が多い―

◯困ったときに助けあえるまちのイメージとしては、「困ったときにどんな問題でも相談できるところがある」61.3%、「困ったときの相談先や有償無償サービスなどの情報提供が充実している」49.6%の２項目に回答が集まる。
前回と比べて、「困ったときの相談先や有償無償サービスなどの情報提供が充実している」が増加した一方、「隣近所の交流や助け合いが活発である」が減少。

◯福祉に関連する用語の認知では、「E.DV（ドメスティック・ バイオレンス）」71.1%、「H.ケアラー、ヤングケアラー」56.3%、「I.LGBT（性的少数者）」54.1%の３項目が 50%を超える。
「D.災害時避難行動要支援者」、「F.配偶者暴力相談支援センター」、「G.困難な問題を抱える女性への支援(女性支援新法)」、「A.甲州市生活支援センターぶりっじ」の各項目は「知らない」が５割超。

◯今後重視すべき福祉分野としては、「高齢者福祉」59.5%が最も多く６割を占め、以下、「児童福祉」40.1%、「低所得者福祉」25.%、「障害者(児)福祉」23.0%、「母子(父子)福祉」13.3%と続く。
回答者の年齢層と対応する福祉分野が多くなる傾向。「障害者(児)福祉」は各年齢層とも 25%程度で一定、「低所得者福祉」は「70 歳以上」で３割超。

◯生活困窮者への支援については、「食料、衣類など生活物資の提供・支援」66.7%、「就労に向けた相談・支援」63.3%、「困窮家庭の子どもへの学習支援や生活支援」51.4%が半数以上。

11．再犯防止推進計画の認知

―認知は５割以下、今後の情報提供が必要―

◯再犯防止推進計画については、「知っている」6.3%、「聞いたことがある」34.0%、「知らない」57.3%で、認知は５割以下。
年齢別で見ても、若干の差があるものの「知らない」が半数超。

◯再犯防止活動に協力する民間協力者の認知について聞いたところ、「保護司」61.0%が最も多く、以下、「更生保護施設」31.4%、「少年補導員」24.8%と続く。
また、「わからない」30.0%の回答も多い。

◯年齢層が高いほど、認知も高くなる傾向。「18～39 歳」の層では「わからない」が半数となっている。

Ⅳ．調査結果

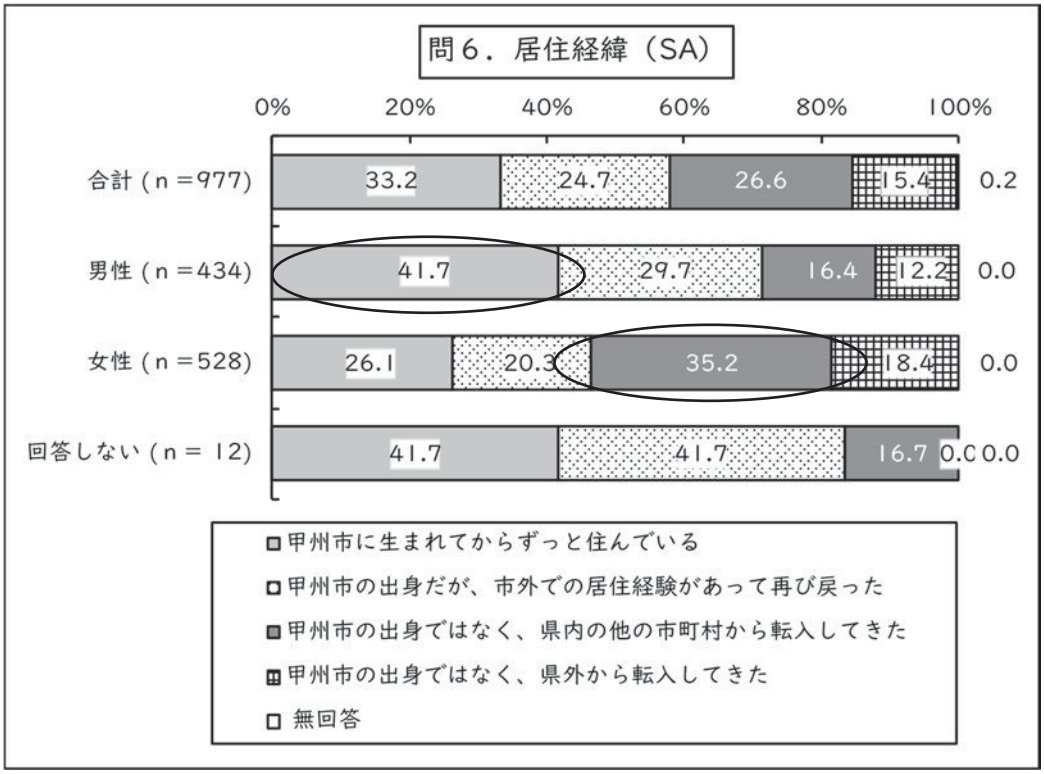
Ⅳ．調査結果

１．居住経緯

問６．あなたが現在、甲州市にお住まいになる経緯としてあてはまるものはどれですか。

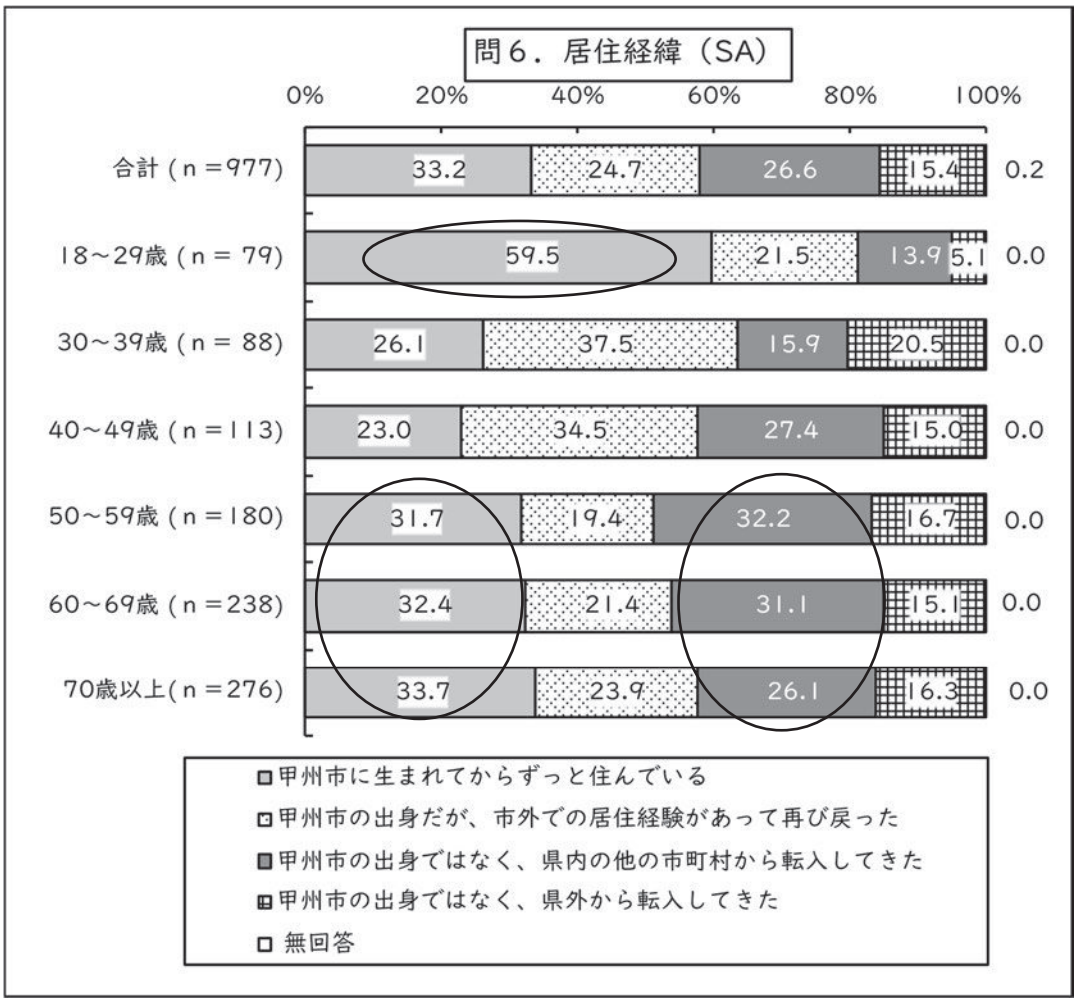
◯市に住むようになった経緯については、「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」33.2%が最も多く、以下、「甲州市の出身ではなく、県内の他の市町村から転入してきた」26.2%、「甲州市の出身だが、市外での居住経験があって再び戻った」24.7%と続きます。

◯性別では、「男性」で「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」が多く、「女性」では、「甲州市の出身ではなく、県内の他の市町村から転入してきた」が多くなっています。



○年齢別では、「18～29 歳」で「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」が６割を占めています。また、「50 歳以上」の年代では、「甲州市に生まれてからずっと住んでいる」「甲州市の出身ではなく、県内の他の市町村から転入してきた」が各々約３割となっています。

○居住地域別では大きな差は見られませんでした。

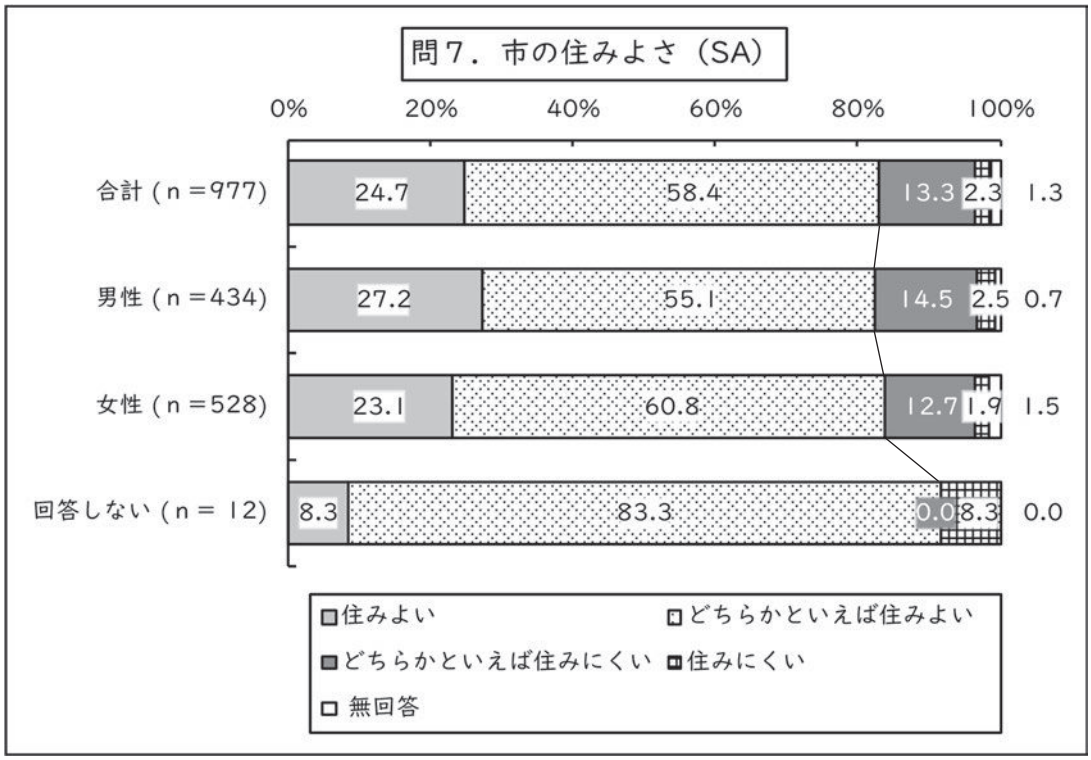


２．市の住みよさ

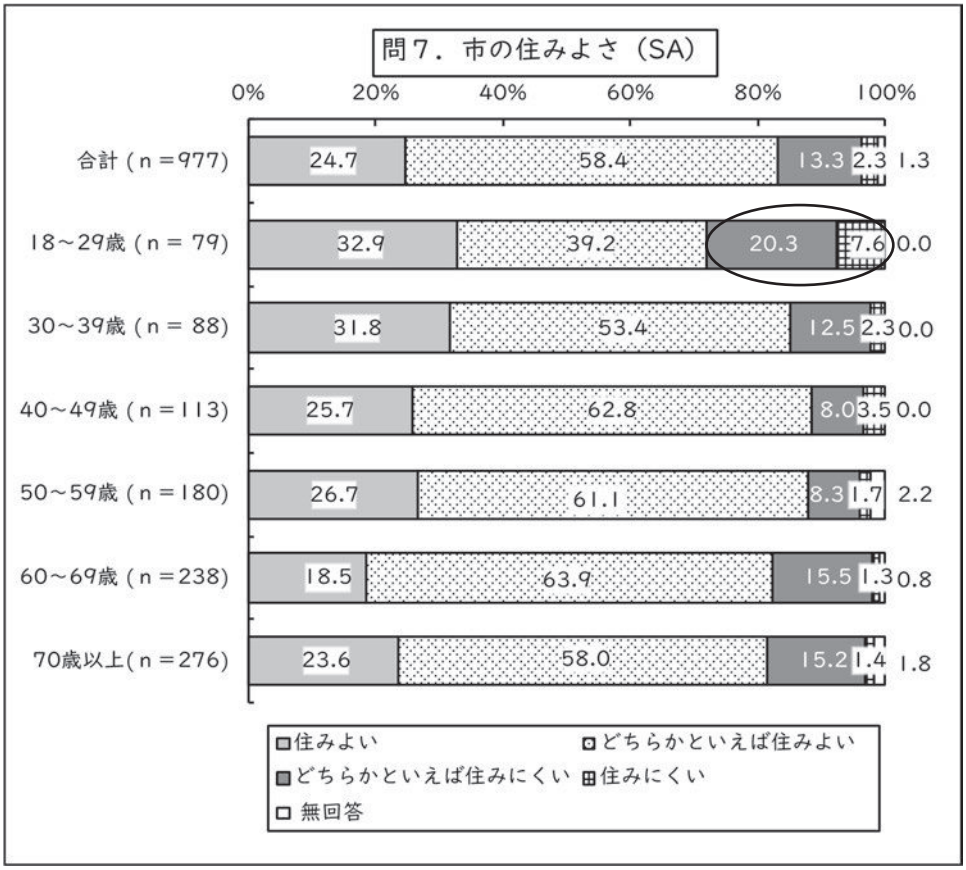
問７．あなたは、現在の甲州市の住みよさをどのようにお感じですか。（１つに○）

○市の住みよさについての評価は、「住みよい」24.7%、「どちらかといえば住みよい」58.4%の「肯定的な評価」が８割を超えています。一方、「住みにくい」2.3%、「どちらかといえば住みにくい」13.3%の「否定的な評価」が15%程度となっています。

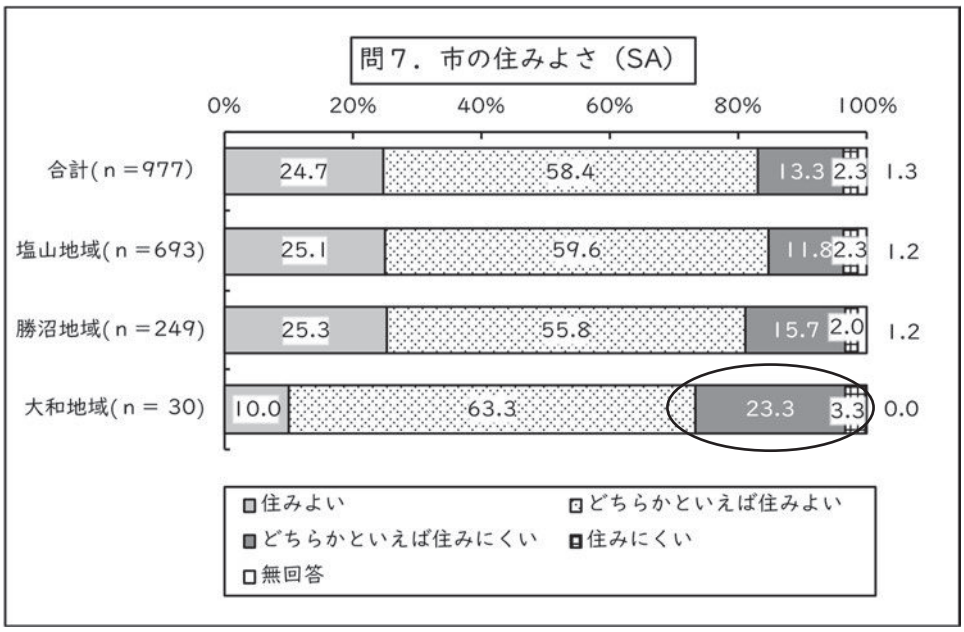
○性別による、大きな違いは見られません。



○年齢別では「18～29 歳」で「住みやすい」32.9%の回答が最も多い一方で、「否定的な評価」も３割弱を占めています。



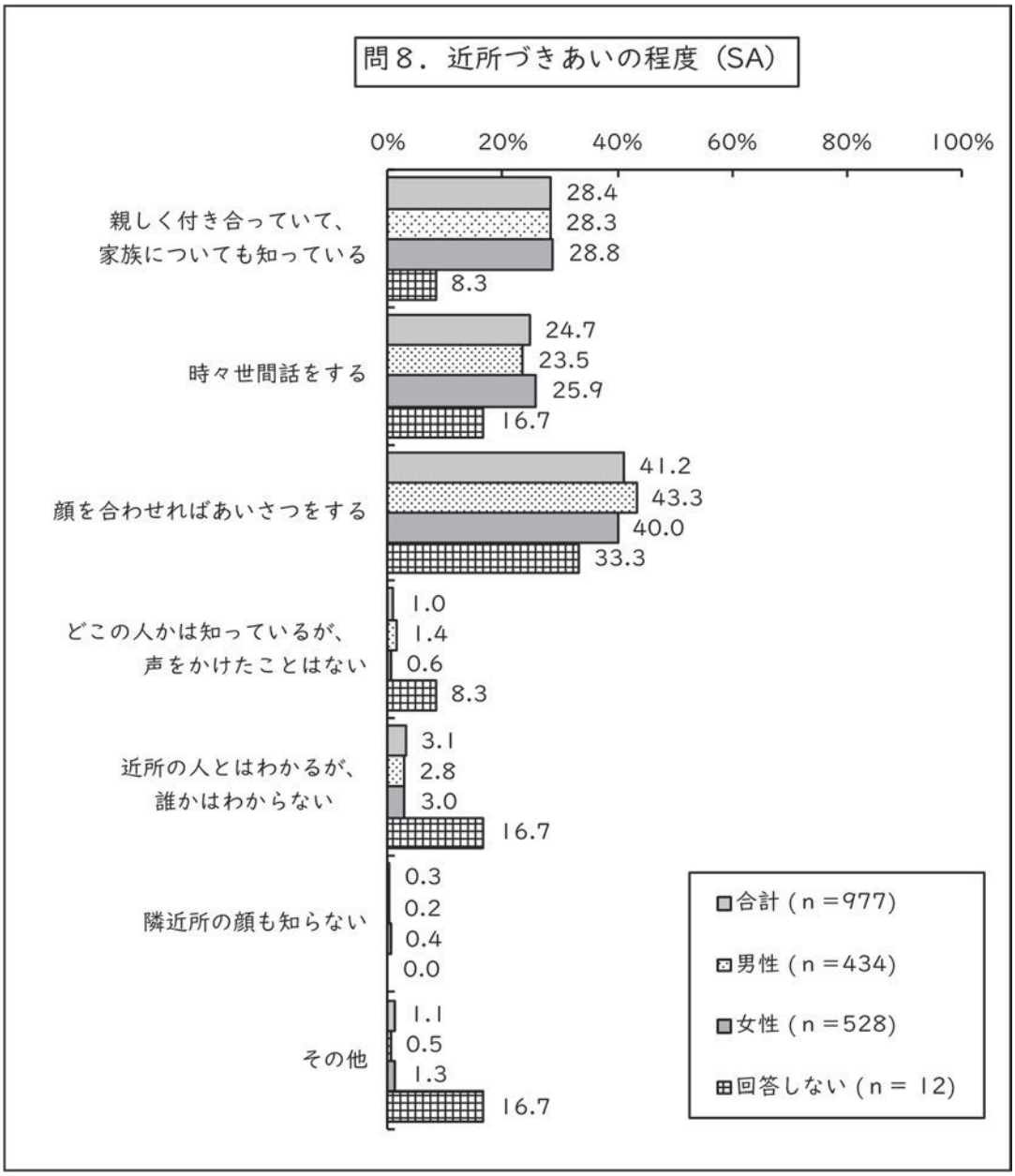
○地域別では、「大和地域」で「住みよい」10.0%が特に少ない一方、「どちらかといえば住みにくい」23.3%が、他の２地域に比べて多くなっています。



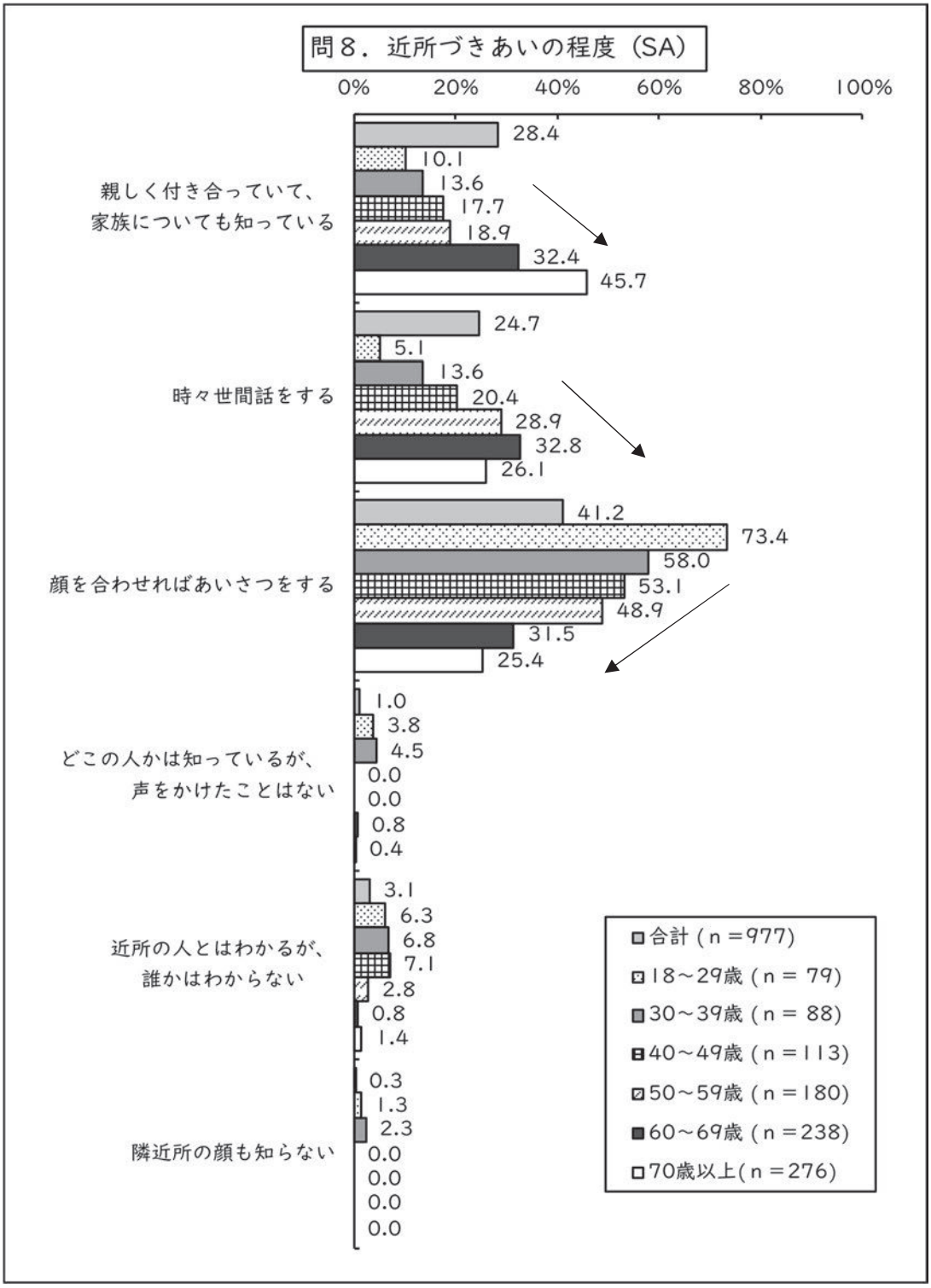
３．近所づきあいの程度

問８．あなたは、普段近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。
（１つに○）

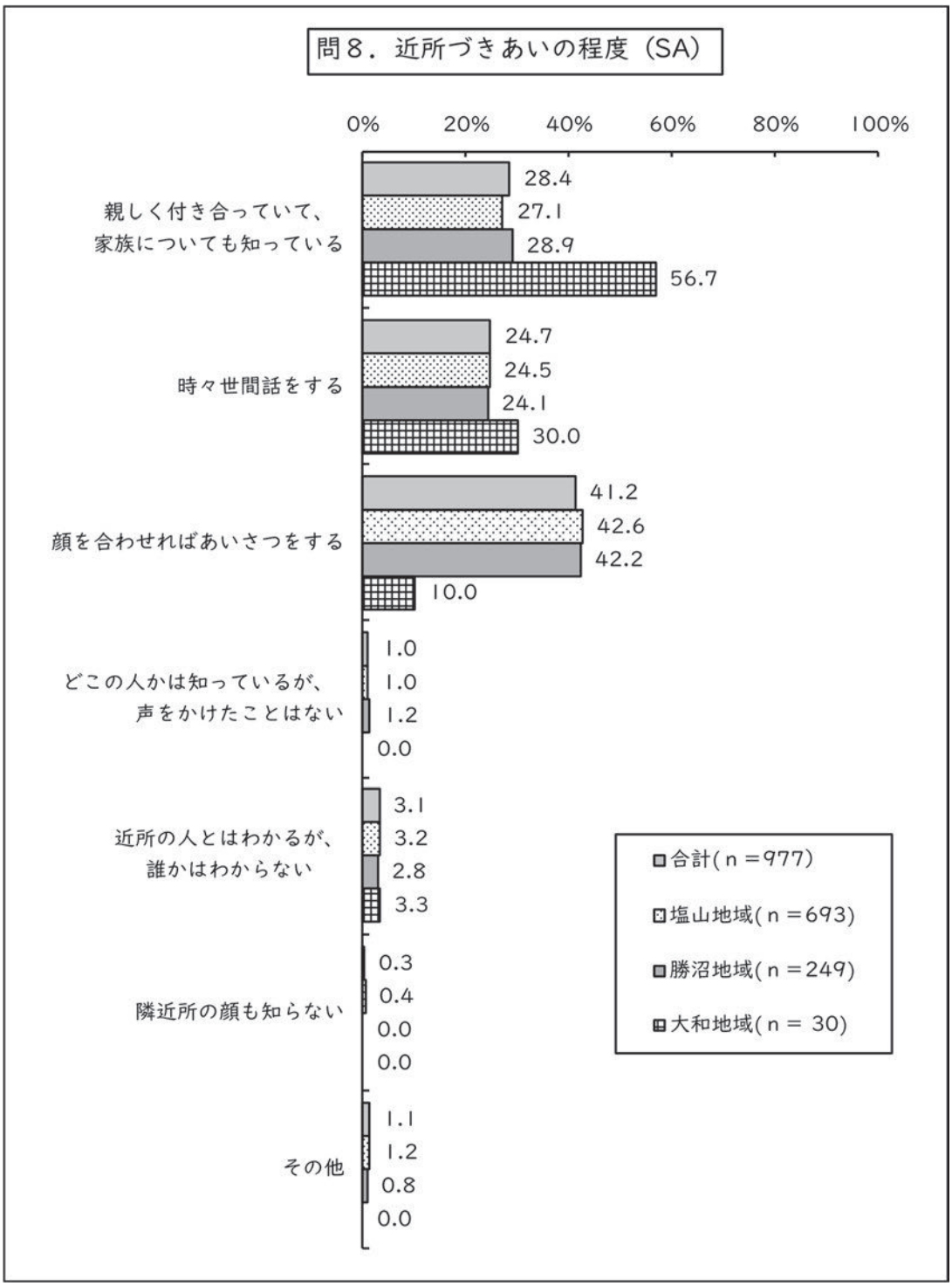
○近所づきあいの程度については、「顔を合わせればあいさつをする」41.2%が最も多く、以下、「親しく付き合っていて、家族についても知っている」28.4%、「時々世間話をする」24.7%と続いています。
○性別による違いは見られません。



○年齢別では、「親しく付き合っていて、家族についても知っている」、「時々世間話をする」は、年齢層が高くなるほど多くなり、「顔をあわせればあいさつをする」は、年齢層が低いほど多くなる傾向があります。



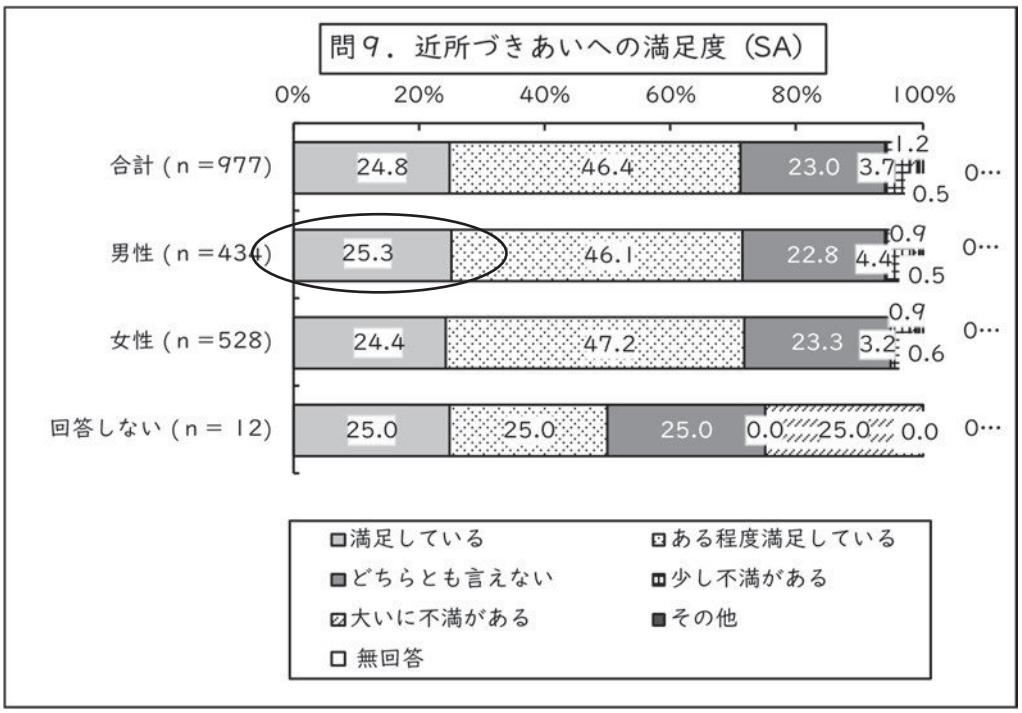
○地域別では、「大和地域」で「親しく付き合っていて、家族についても知っている」56.7%が半数を超えています。



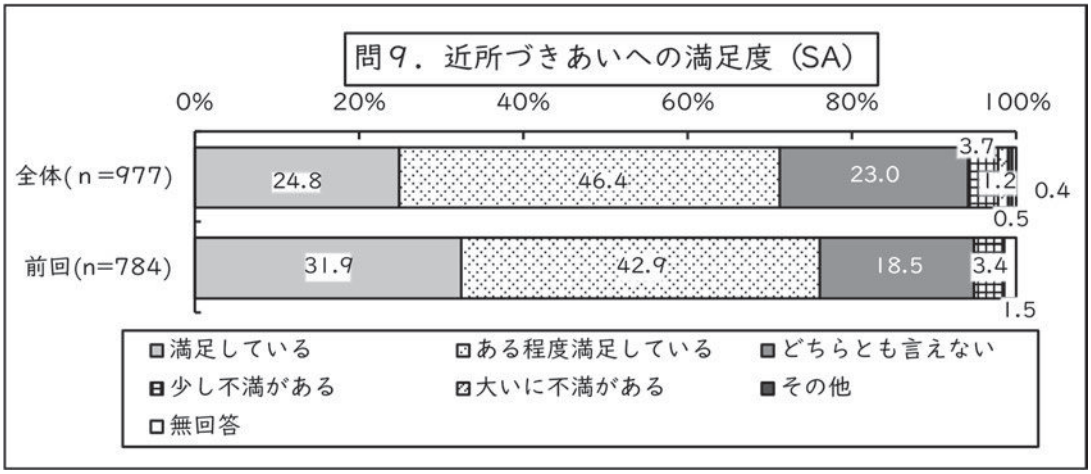
４．近所づきあいへの満足度

問９．現在の近所づきあいに満足していますか。（１つに○）

○近所づきあいへの満足度については、「満足している」24.8%、「ある程度満足している」46.4%の「肯定的な意見」が７割となっています。「少し不満がある」3.8%、「大いに不満がある」1.4%の「否定的な意見」は５%に満たない結果です。
○年齢別では、「18～29 歳」で「満足している」39.2%が多いことが目立ちます。
○性別や地区別での大きな差は見られませんでした。



○前回に比べ「満足している」が減少し、「どちらとも言えない」が増えています。



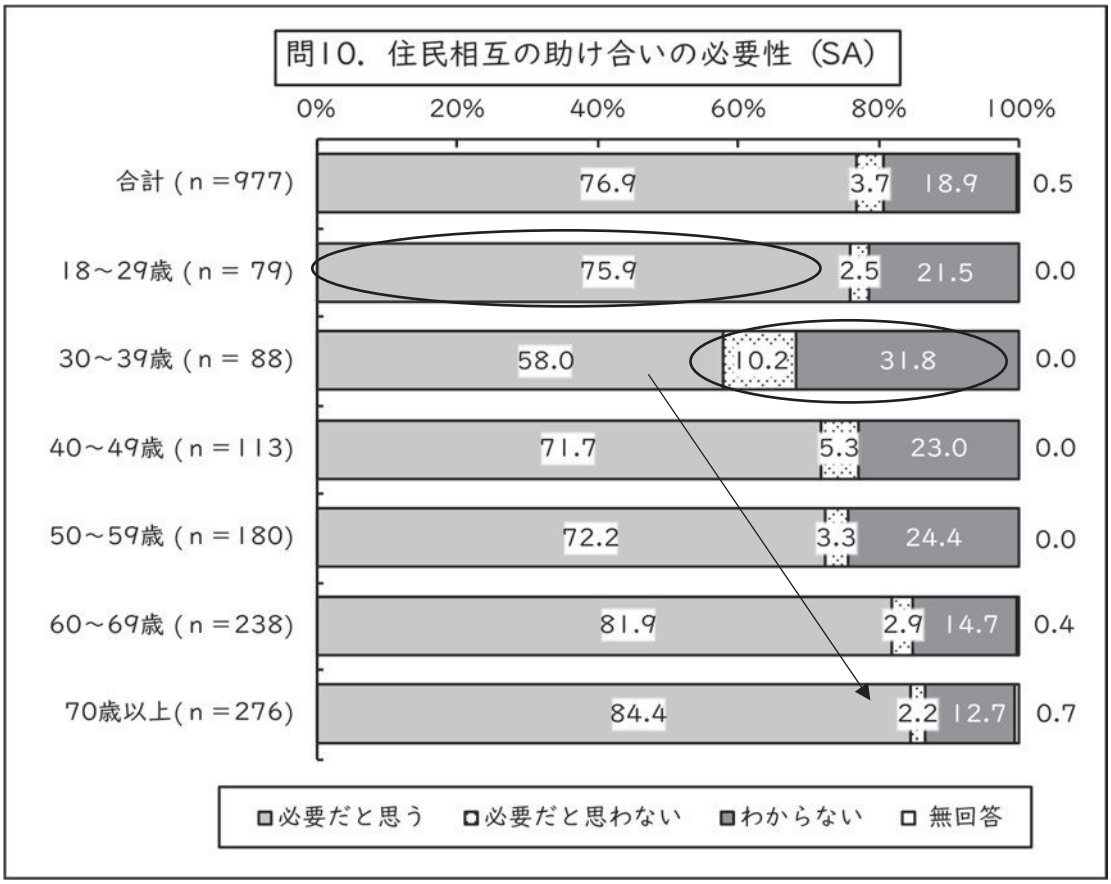
５．住民相互の助け合いの必要性

問 10．あなたは、「地域」の中で起きる問題に対して、住民相互の自主的な助け合いの関係（協力関係）が必要だと思いますか。（１つに○）

○住民相互の助け合いの必要性については、「必要だと思う」76.9%が８割弱を占め、「必要だと思わない」3.7%は５%に満たない結果です。

○年齢別では、年齢が高くなるに従って「必要だと思う」が増加する傾向ですが、「30～39 歳」で、「必要だと思う」58.0%の割合が目立って少なく、「必要だと思わない」10.2%が１割を占めています。

○地域別では、「大和地域」で「必要だと思う」90.0%が特に多くなっています。

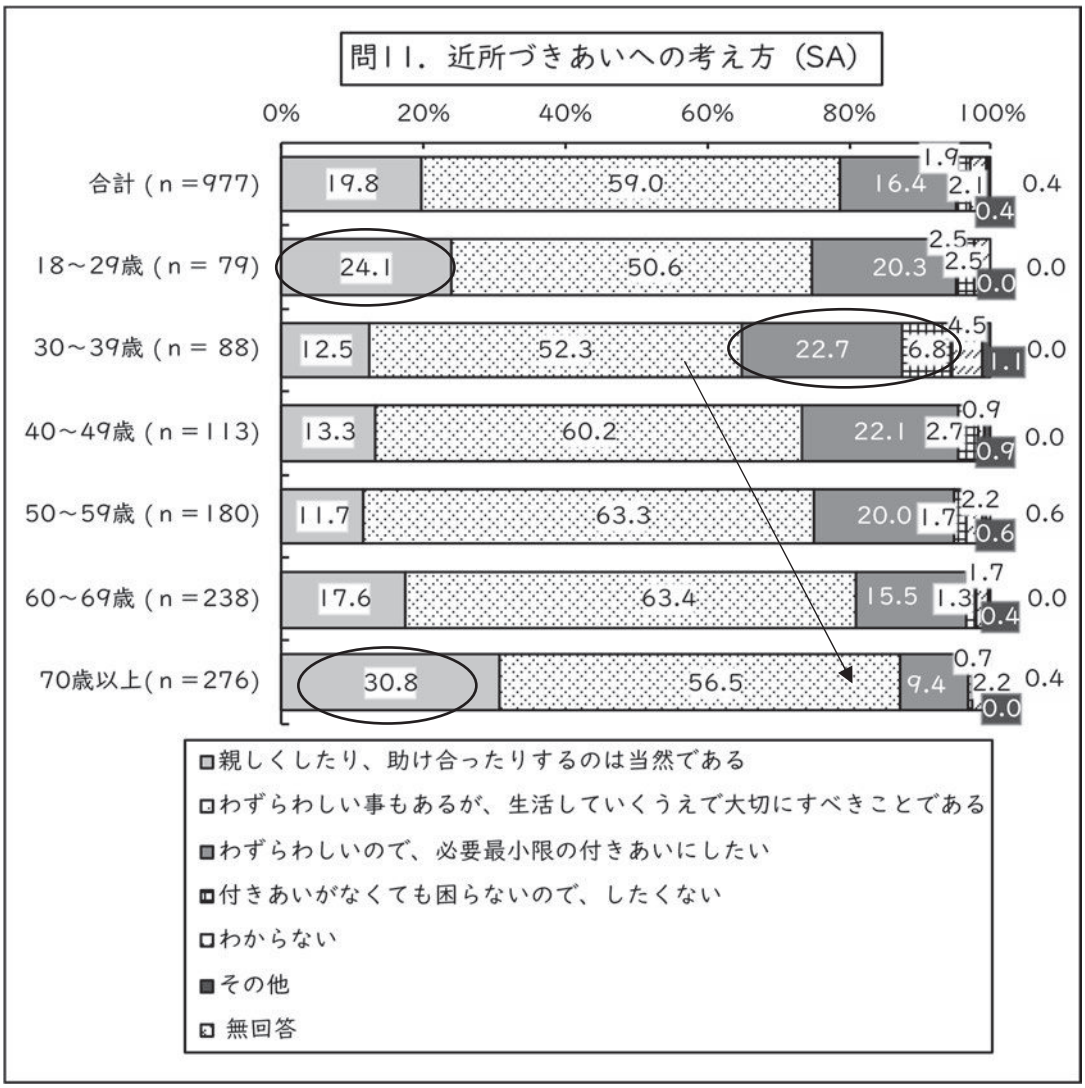


6．近所づきあいへの考え方

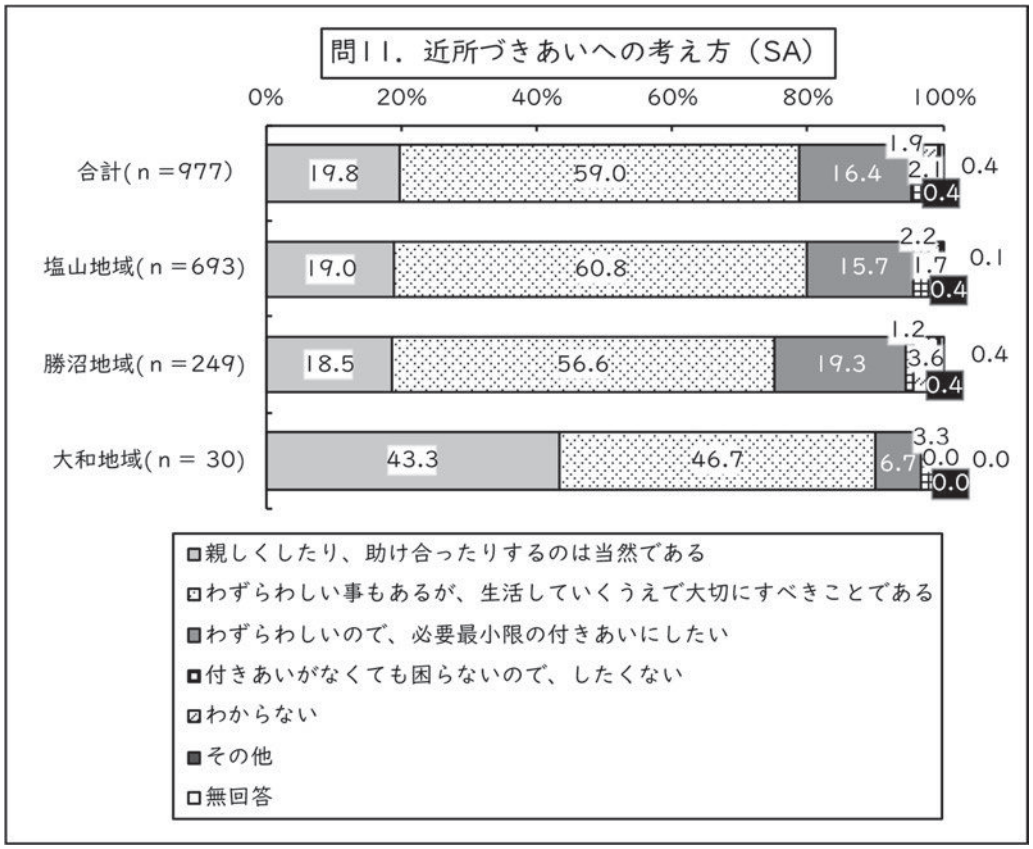
問 11．あなたの近所づきあいに対する考え方は、次のどれに近いですか。
（１つに○）

○近所づきあいについては、「わずらわしい事もあるが、生活していくうえで大切にすべきことである」59.6%が６割を占めて最も多く、次いで「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」19.6%と「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」16.4%が続きます。

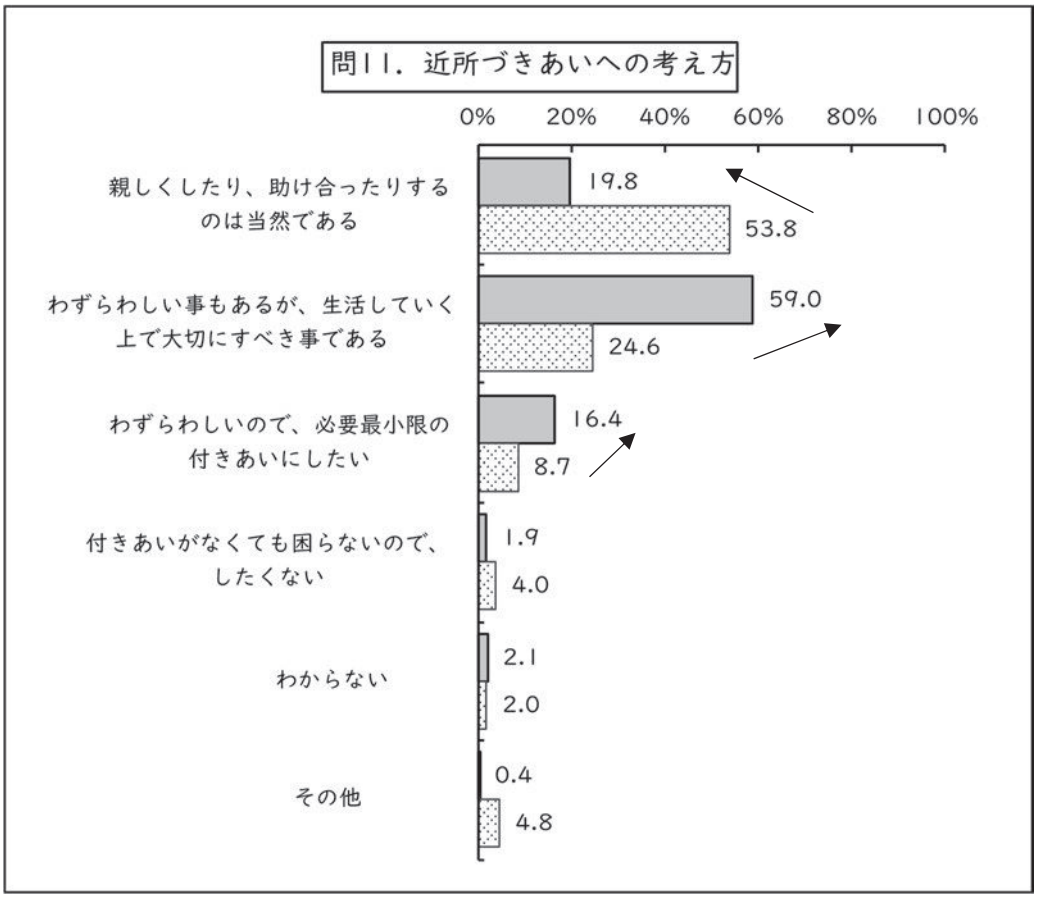
○年齢別では、「18～29 歳」と「70 歳以上」で「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」が多いことが目立ちます。また、「30～39 歳」で「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」、「付き合いがなくても困らないので、したくない」が多いことが目立ちます。



○地域別では、「大和地域」で、「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」43.3%が目立って多くなっています。



○前回と比べ、「親しくしたり、助け合ったりするのは当然である」が大幅に減少し、「わずらわしい事もあるが、生活していく上で大切にすべき事である」が増加しています。また、「わずらわしいので、必要最小限の付き合いにしたい」も増加傾向となっています。

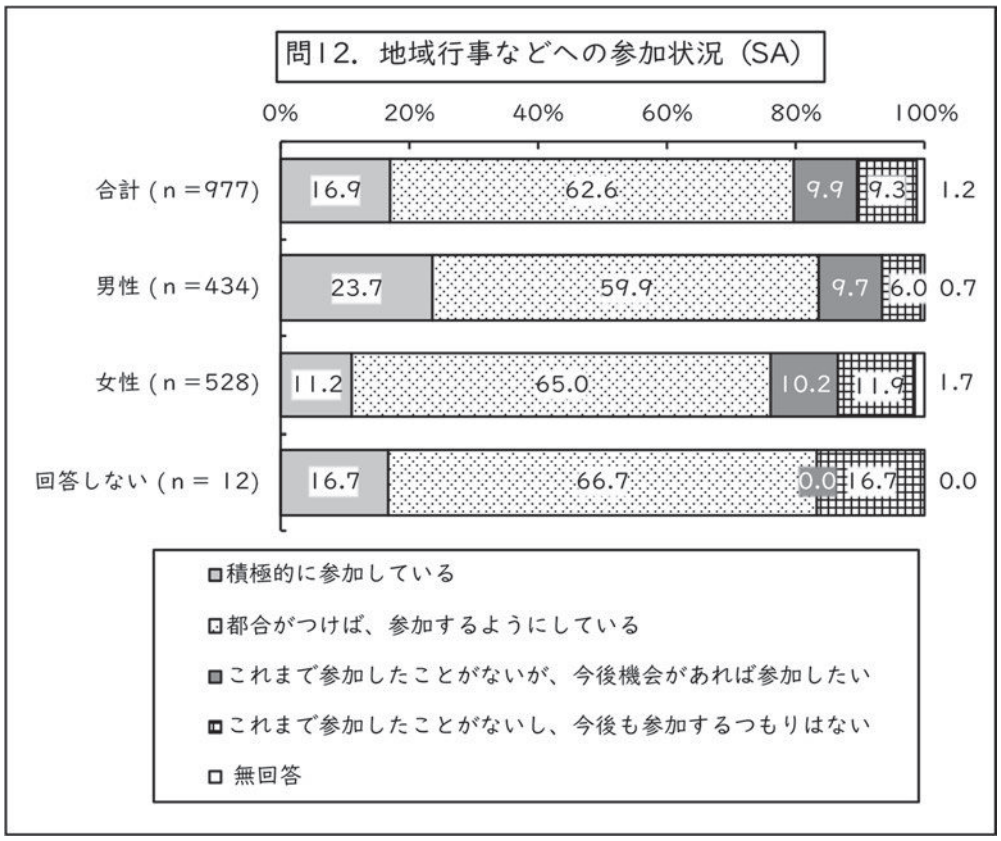


7．地域行事などへの参加状況

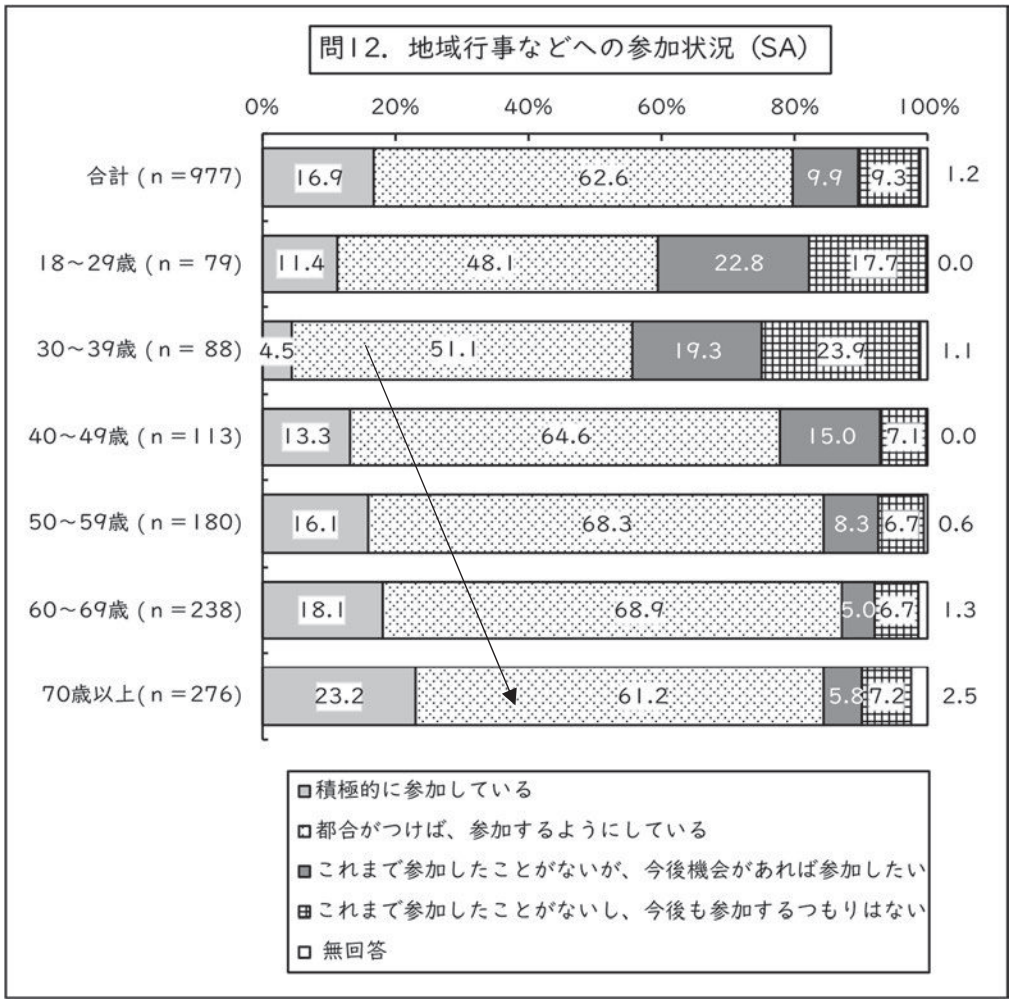
問 12．あなたはお住まいの地域の自治会行事など地域活動に参加していますか。
（１つに○）

○地域行事などへの参加状況ついては、「都合がつけば、参加するようにしている」62.6%が最も多く約６割を占めています。
一方、「これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」9.3%という考え方も１割となっています。

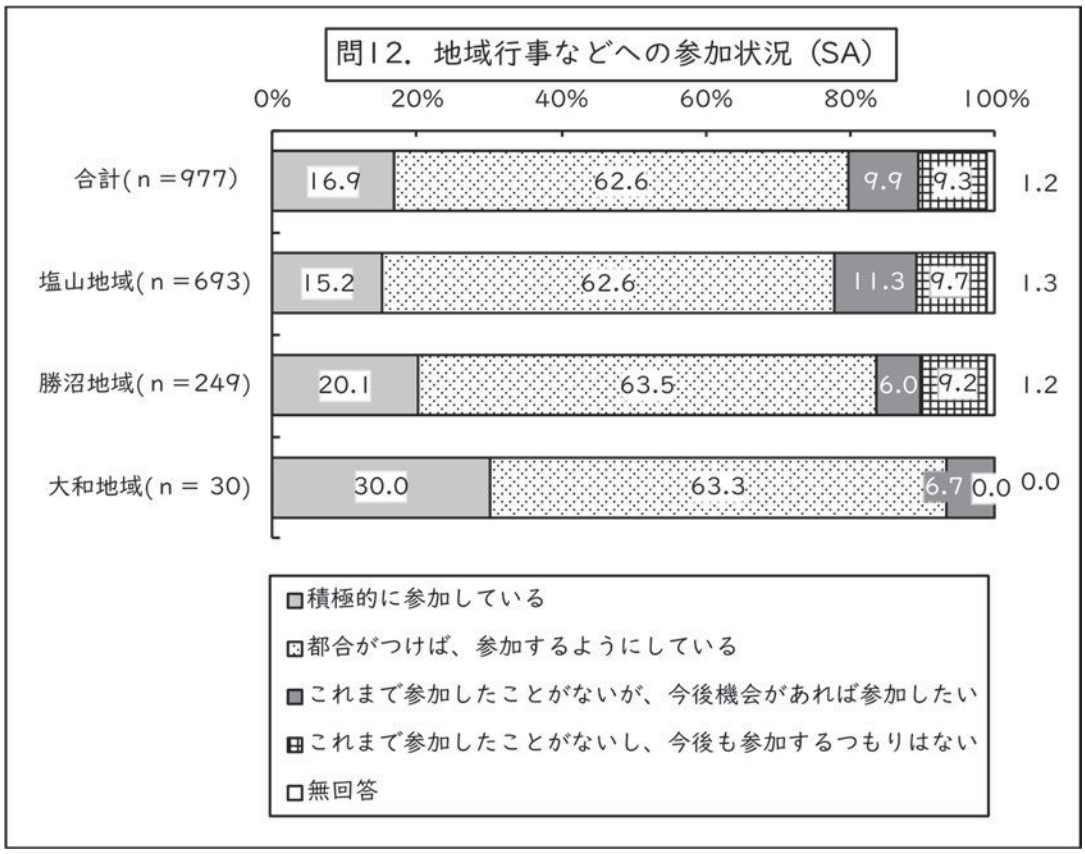
○性別では、「男性」で「積極的に参加している」23.7%が 1/4 を占めます。



○年齢別では、年齢層が高くなるほど、「積極的に参加している」が増加しています。また、「18～29 歳」、「30～39 歳」では、「これまで参加したことがないし、今後も参加するつもりはない」が多くなっています。



○地域別では、「大和地域」で「積極的に参加している」が 30%を占めています。

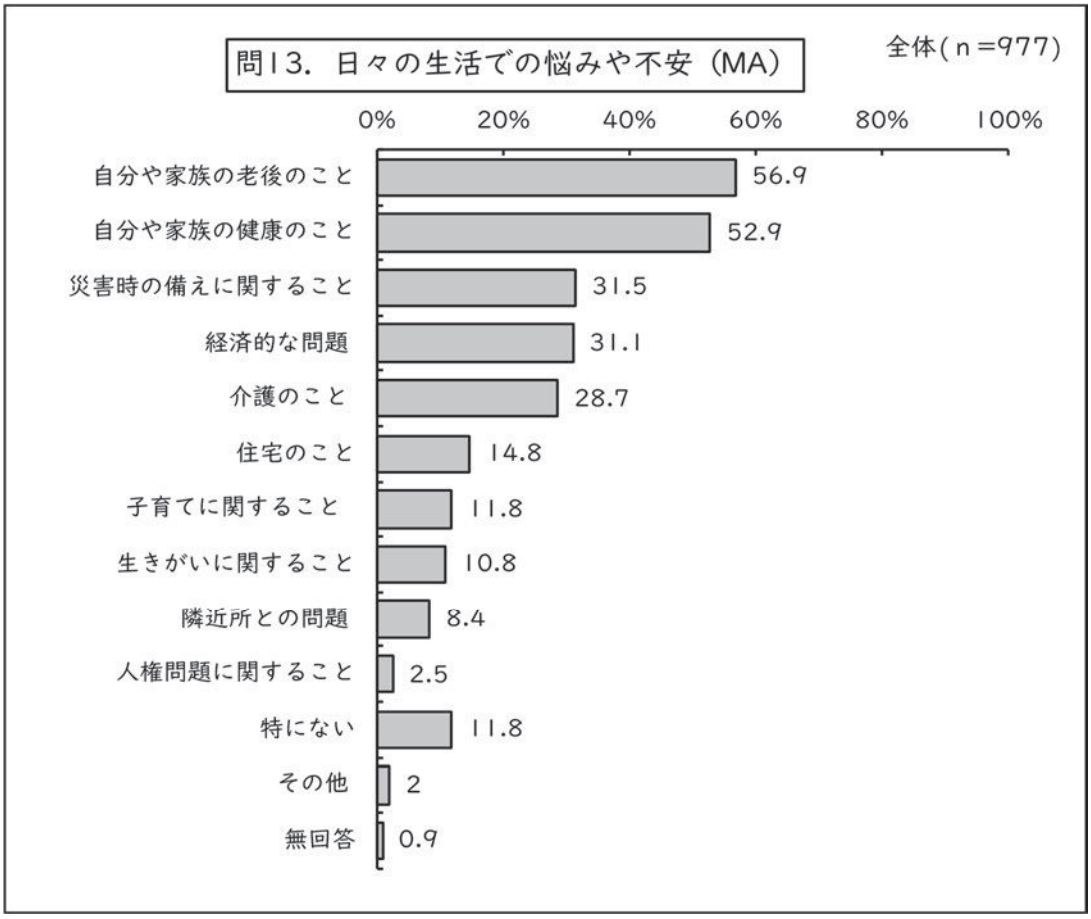


８．日々の生活での悩みや不安

問 13．あなたは日々の生活で悩みや不安を感じていることがありますか。
（あてはまるものすべてに◯）

◯「自分や家族の老後のこと」56.9%、「自分や家族の健康のこと」52.9%がともに半数を超えています。以下、「災害時の備えに関すること」31.5%、「経済的な問題」31.1%、「介護のこと」28.7%が約３割を占めています。
また、「特にない」11.8%が１割となっています。

◯性別による大きな違いは見られませんでした。



◯年齢別で見ると、どの年齢層でも、自分や家族の「健康」と「老後」が上位になっています。

「18～49 歳」までの各年齢層では「経済的な問題」があげられ、「50～59 歳」「70 歳以上」では「介護のこと」が、また、「60～69 歳」で「災害時の備えに関すること」があげられています。

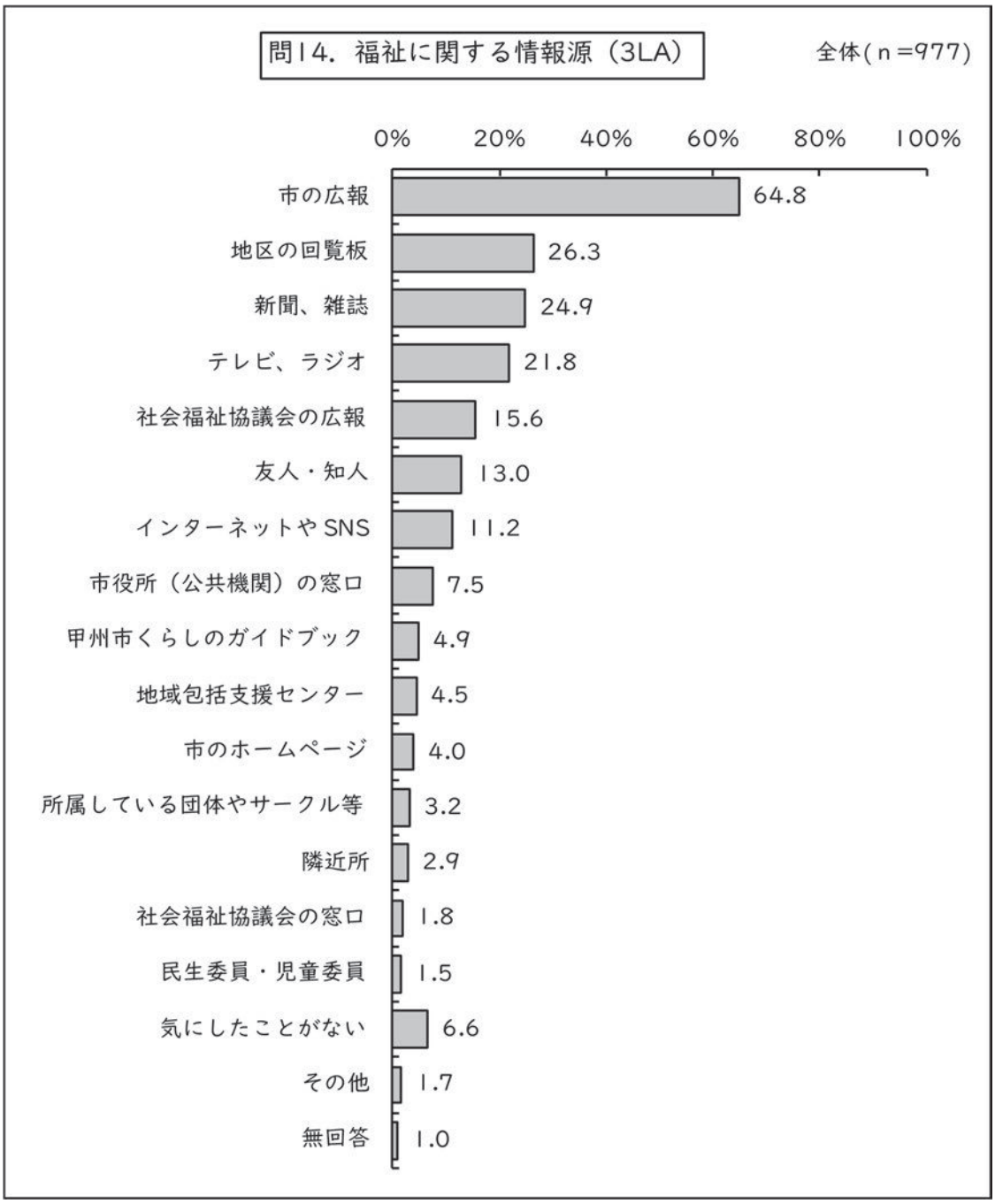
合計	1	2	3
18～29 歳	経済的な問題	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと
30～39 歳	自分や家族の老後のこと	経済的な問題	自分や家族の健康のこと
40～49 歳	自分や家族の老後のこと	自分や家族の健康のこと	経済的な問題
50～59 歳	自分や家族の老後のこと	自分や家族の健康のこと	介護のこと
60～69 歳	自分や家族の老後のこと	自分や家族の健康のこと	災害時の備えに関すること
70 歳以上	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	介護のこと

９．福祉に関する情報源

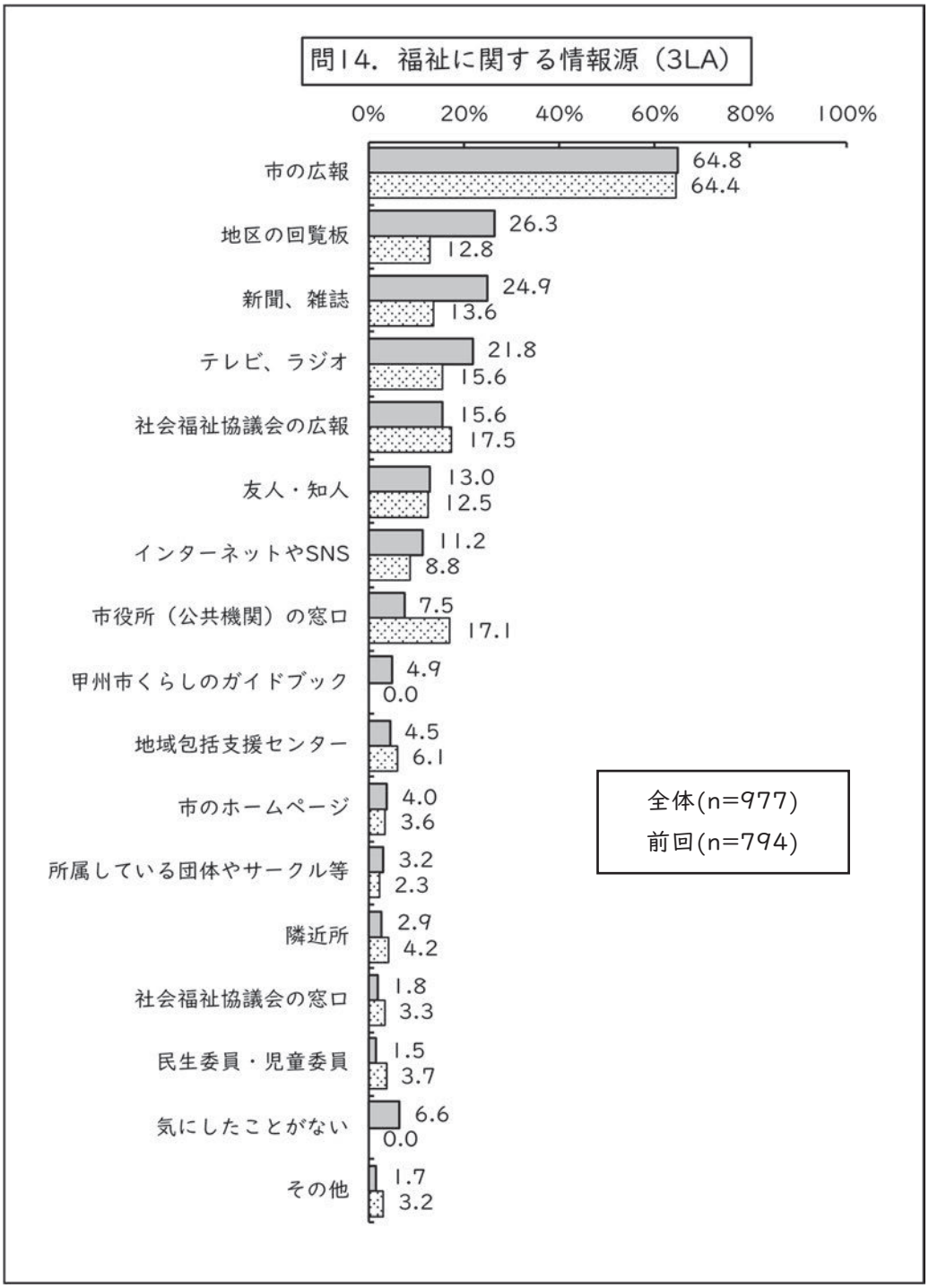
問 14．あなたが、福祉に関する情報に接する機会が多いものに◯をつけてください。（３つまで◯）

◯福祉に関する情報源としては、「市の広報」64.8%が目立って多く、以下、「地区の回覧」26.3%、「新聞、雑誌」24.9%、「テレビ、ラジオ」21.8%と続いています。

◯性別での大きな違いはなく、年齢別では、「インターネットや SNS」を「18～29 歳」で 35.4%、「30～39 歳」で 27.3%があげていました。



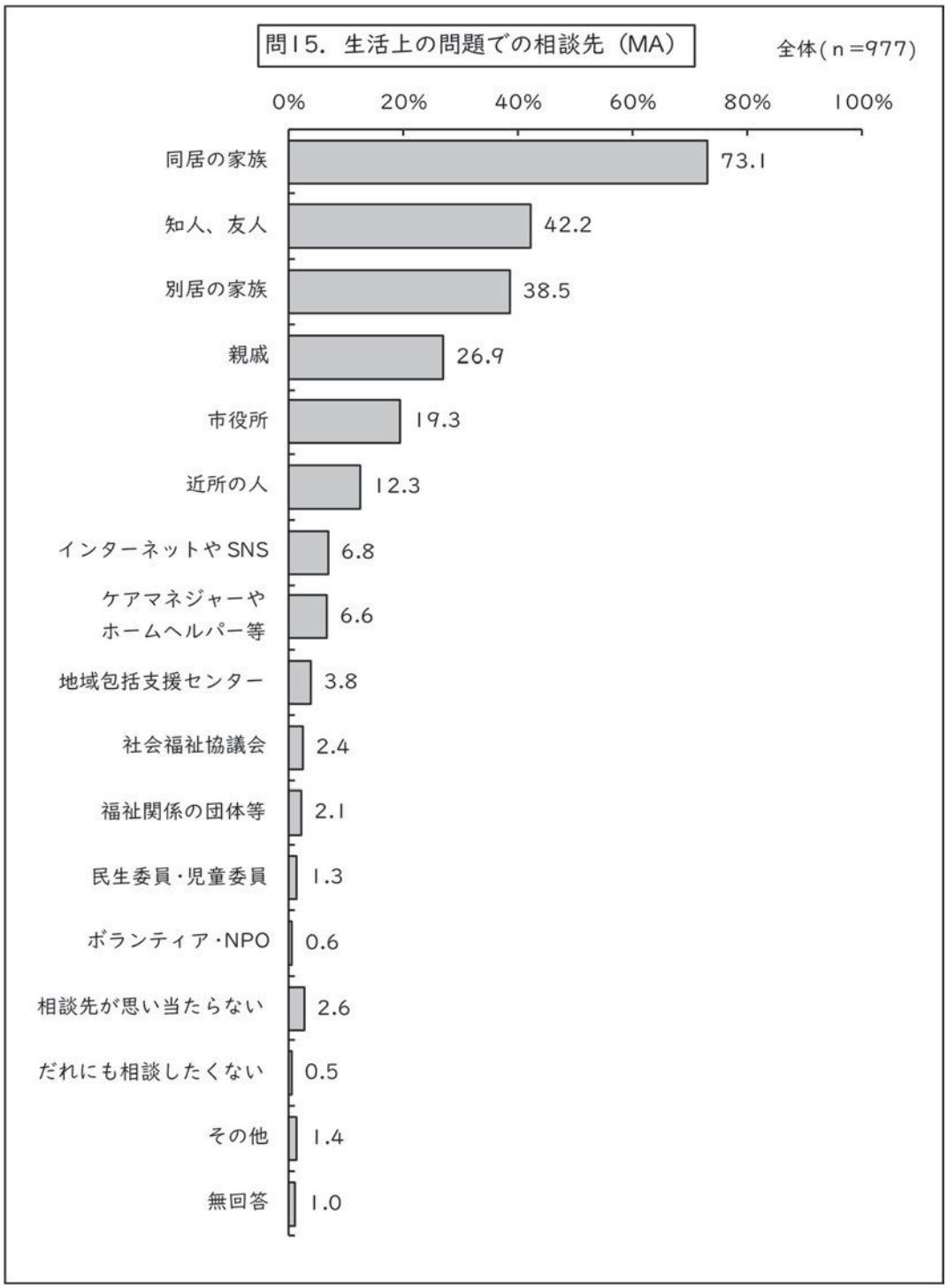
○前回と比べると、「地区の回覧板」「新聞、雑誌」「テレビ、ラジオ」など自分から能動的に接触しなくても入手できる情報源が多くなっています。



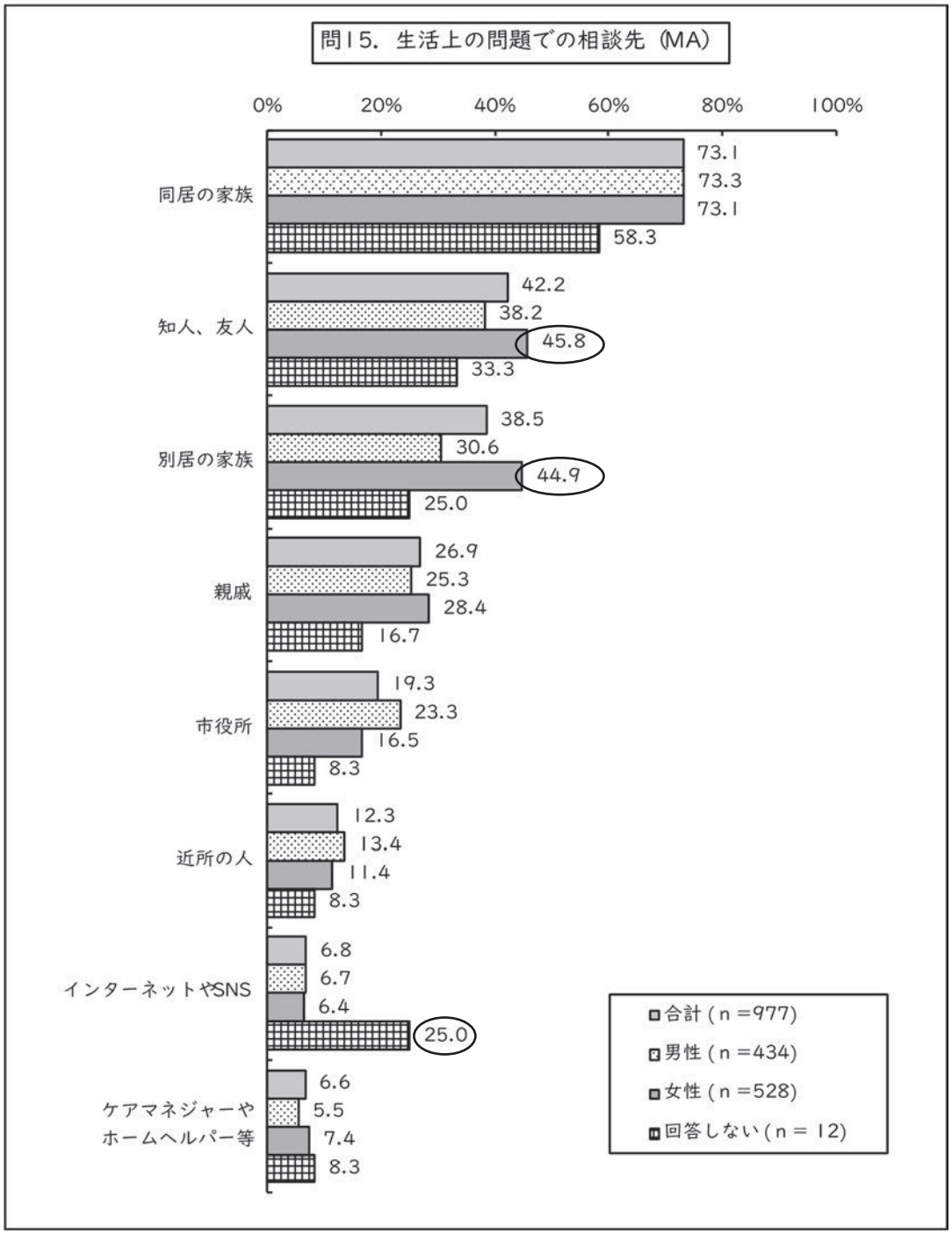
10．生活上の問題での相談先

問 15．あなたが生活上の問題で相談や助けを必要とするときの相談先はどれですか。（あてはまるものすべてに◯）

◯相談先については、「同居の家族」73.1％が最も多く、以下、「知人、友人」42.2％、「別居の家族」38.5％、「親戚」26.9％と続いています。



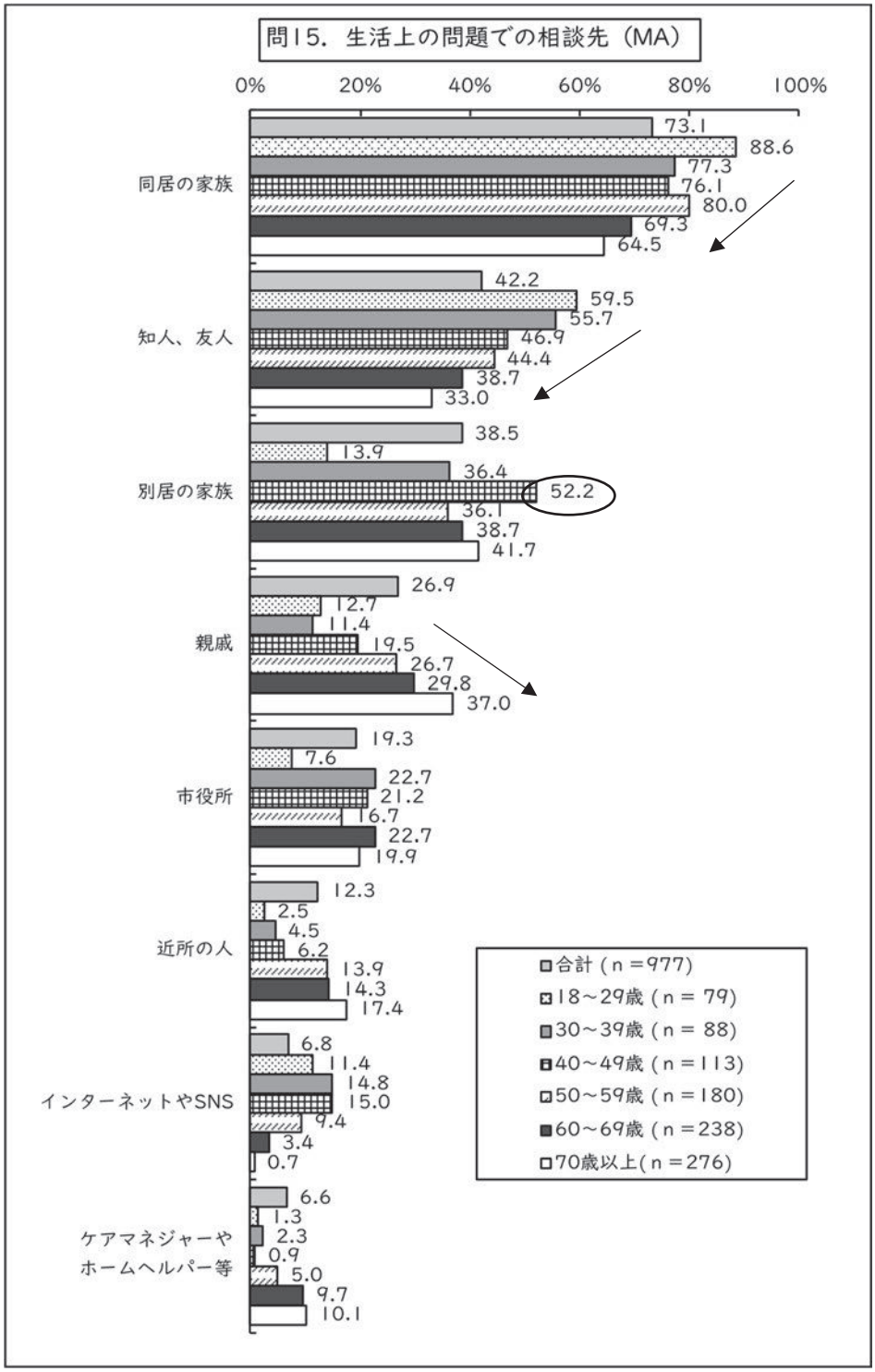
○性別では、女性で「知人、友人」45.8%、「別居の家族」44.8%が多く、「回答しない」で「インターネットや SNS」が 25.0%となっています。



※グラフは回答５%以上から抽出掲載

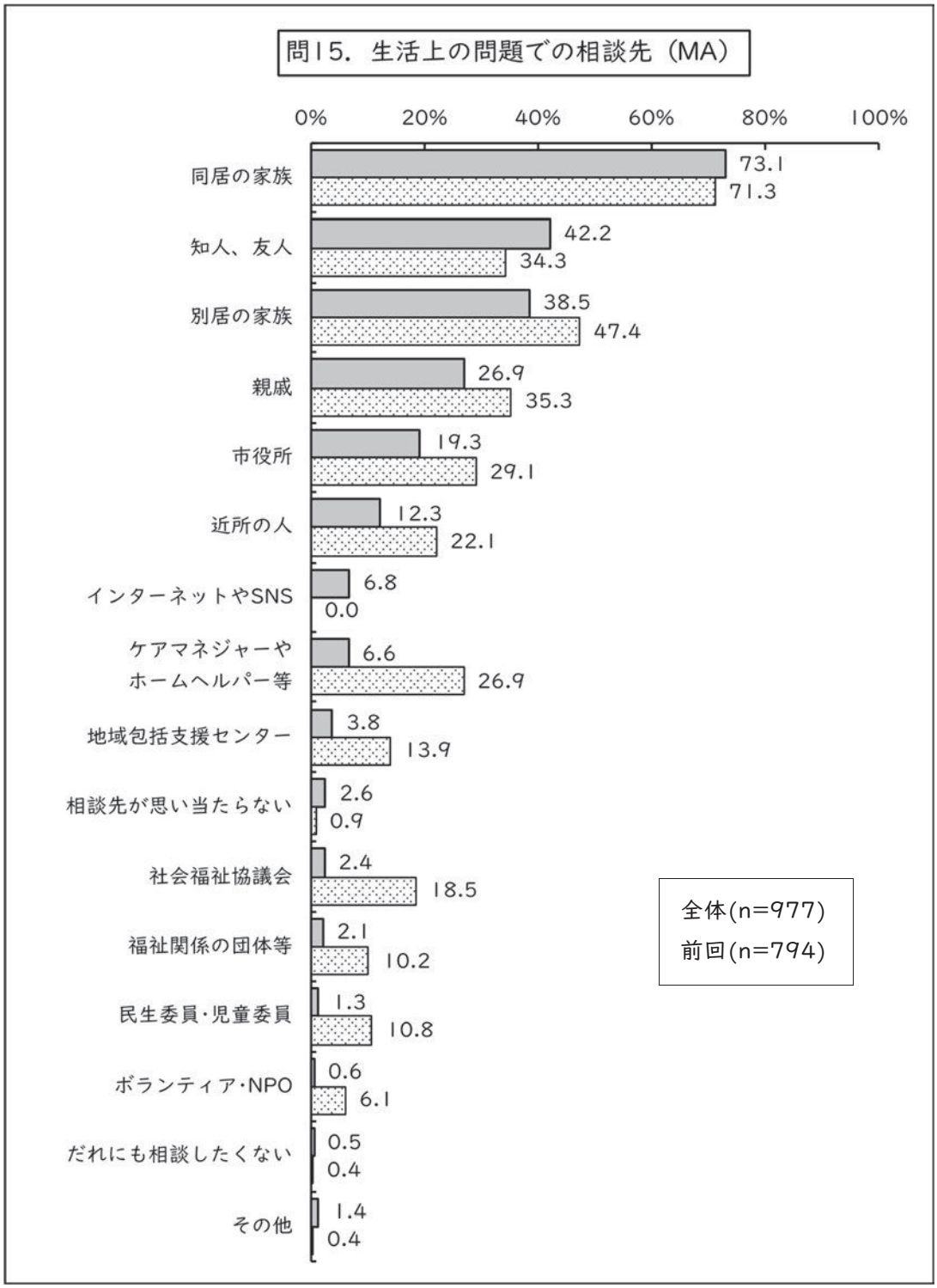
○年齢別では、年齢層が低いほど「同居の家族」「知人、友人」が多い傾向です。「別居の家族」については「40～49 歳」52.2%で半数を超え、60 歳以降で再度増加傾向になります。

年齢層が高くなるに従って、「親戚」「近所の人」「ケアマネジャーやホームヘルパー等」が増加する傾向が見られます。また、「30～39 歳」「40～49 歳」で「インターネットや SNS」が多くなっています。



※グラフは回答５％以上から抽出掲載

○前回と比べると、「知人・友人」以外については、減少傾向となっています。

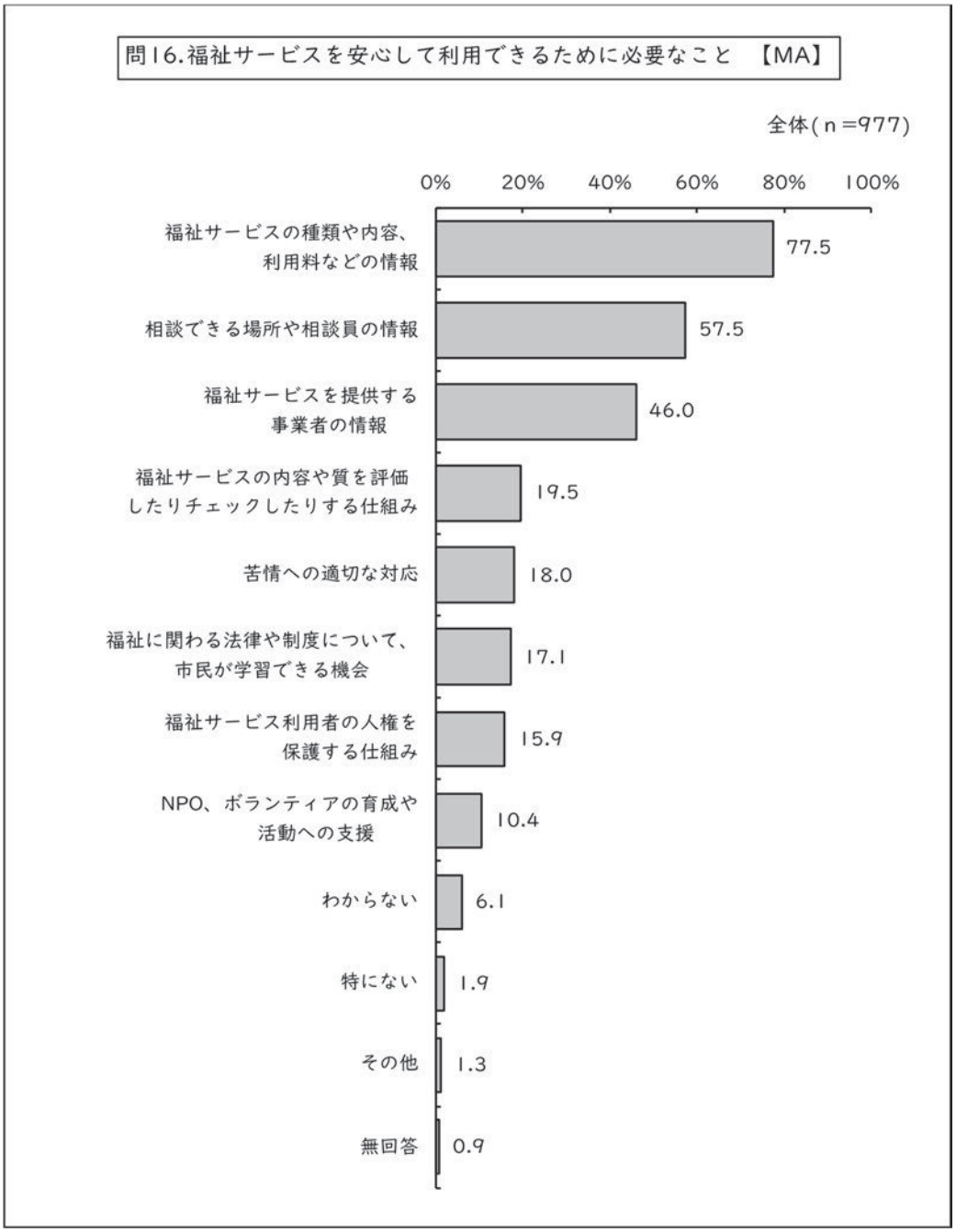


11. 福祉サービスを安心して利用できるために必要なこと

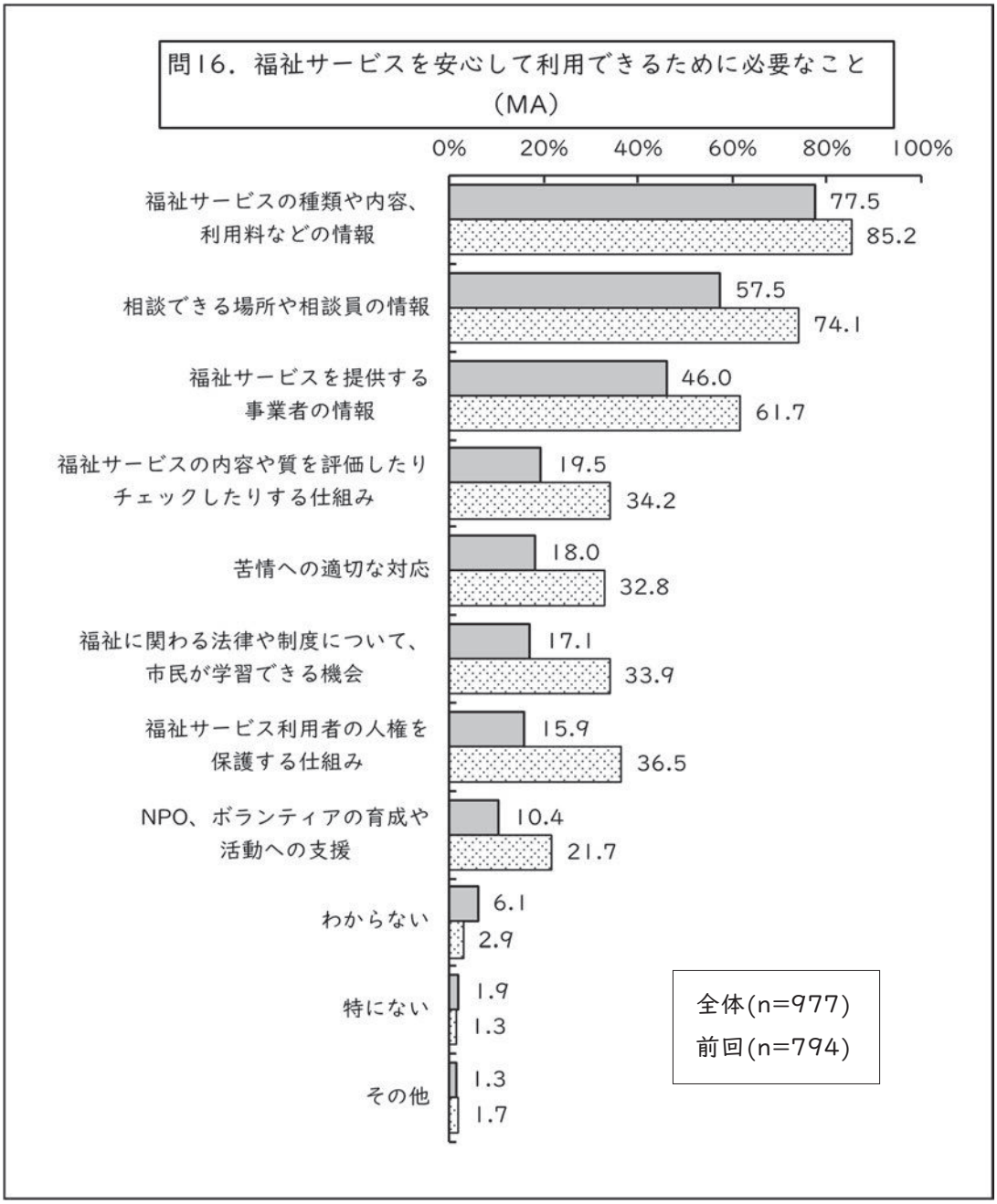
問 16. 福祉サービス*を安心して利用できる状況をつくるために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに◯）

◯福祉サービスを安心して利用できる状況をつくるために必要なことは、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」77.5%が最も多く、以下、「相談できる場所や相談員の情報」57.5%、「福祉サービスを提供する事業者の情報」46.0%と続き、この３項目に回答が集中しています。

◯性別や年齢別で、大きな違いは見られませんでした。



○前回と比べると、すべての項目で減少傾向となっています。

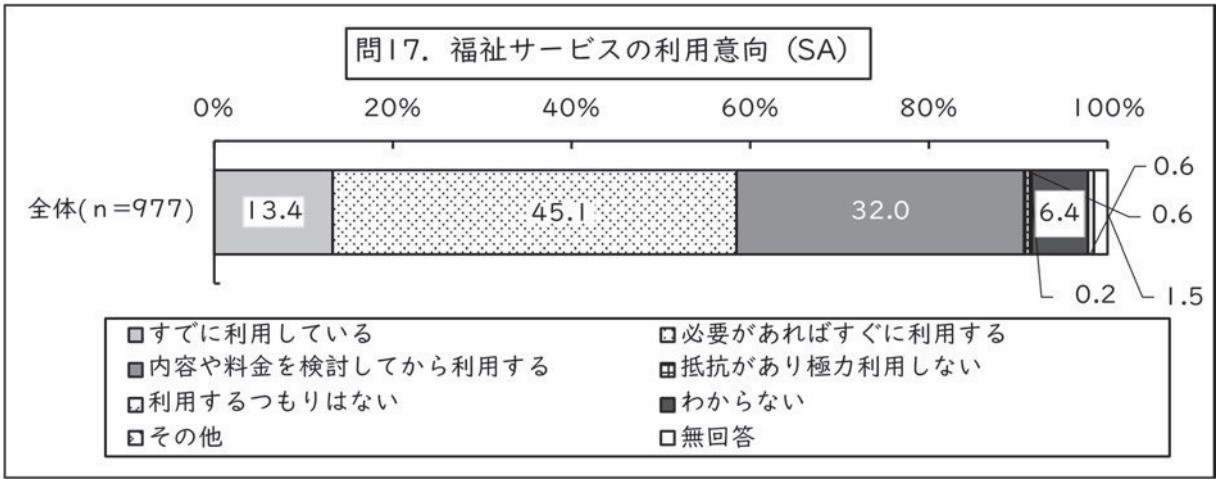


12. 福祉サービスの利用意向

問 17. あなた自身やあなたの家族に、福祉サービスが必要になったとき、すぐにサービスを利用しますか。（1つに○）

○福祉サービスの利用意向については、「すでに利用している」13.4%、「必要があればすぐに利用する」45.1%の利用意向が高い層が約6割、「内容や料金を検討してから利用する」32.0%とした条件検討後が約3割となっています。

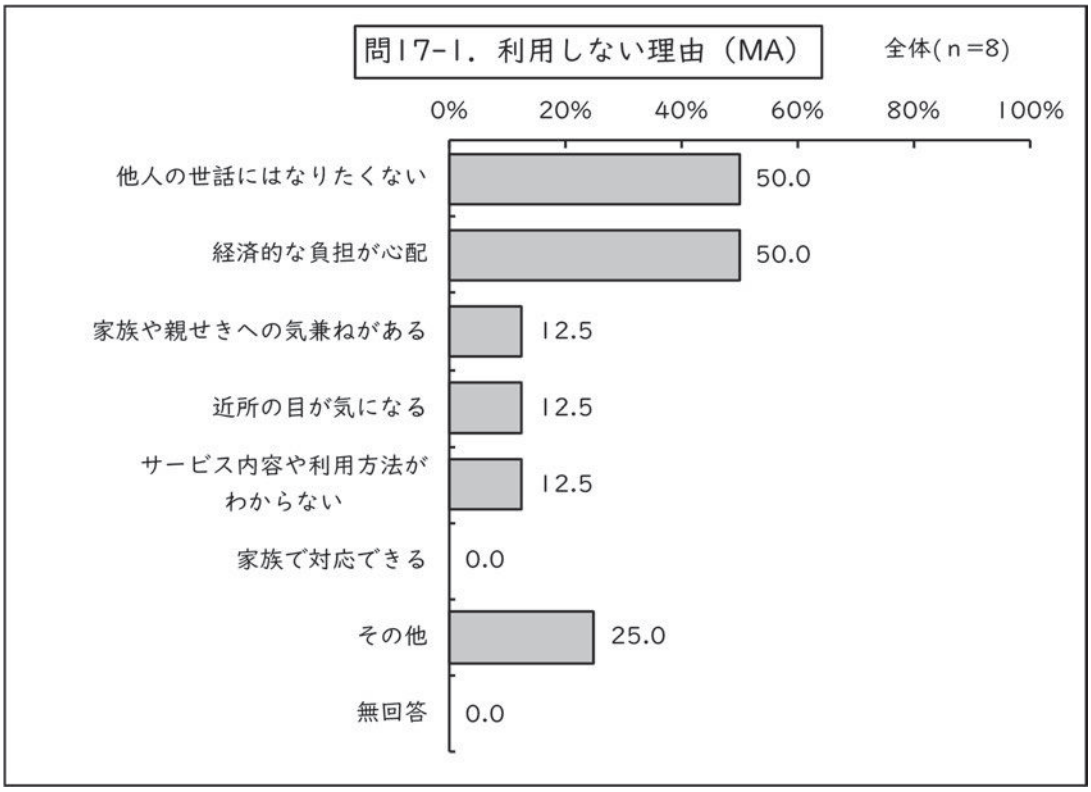
○性別や年齢での大きな違いは見られませんでした。



12-1. 利用しない理由

問 17-1. 前問で「4.抵抗があるので極力利用しない」「5.利用するつもりはない」と回答した方へ。サービスを利用したくない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに◯)

◯前問で、「利用するつもりはない」と回答した8名に、その理由を聞いたところ、「他人の世話にはなりたくない」50.0%、「経済的な負担が心配」50.0%と、考え方の問題と経済的な問題で半々となっています。

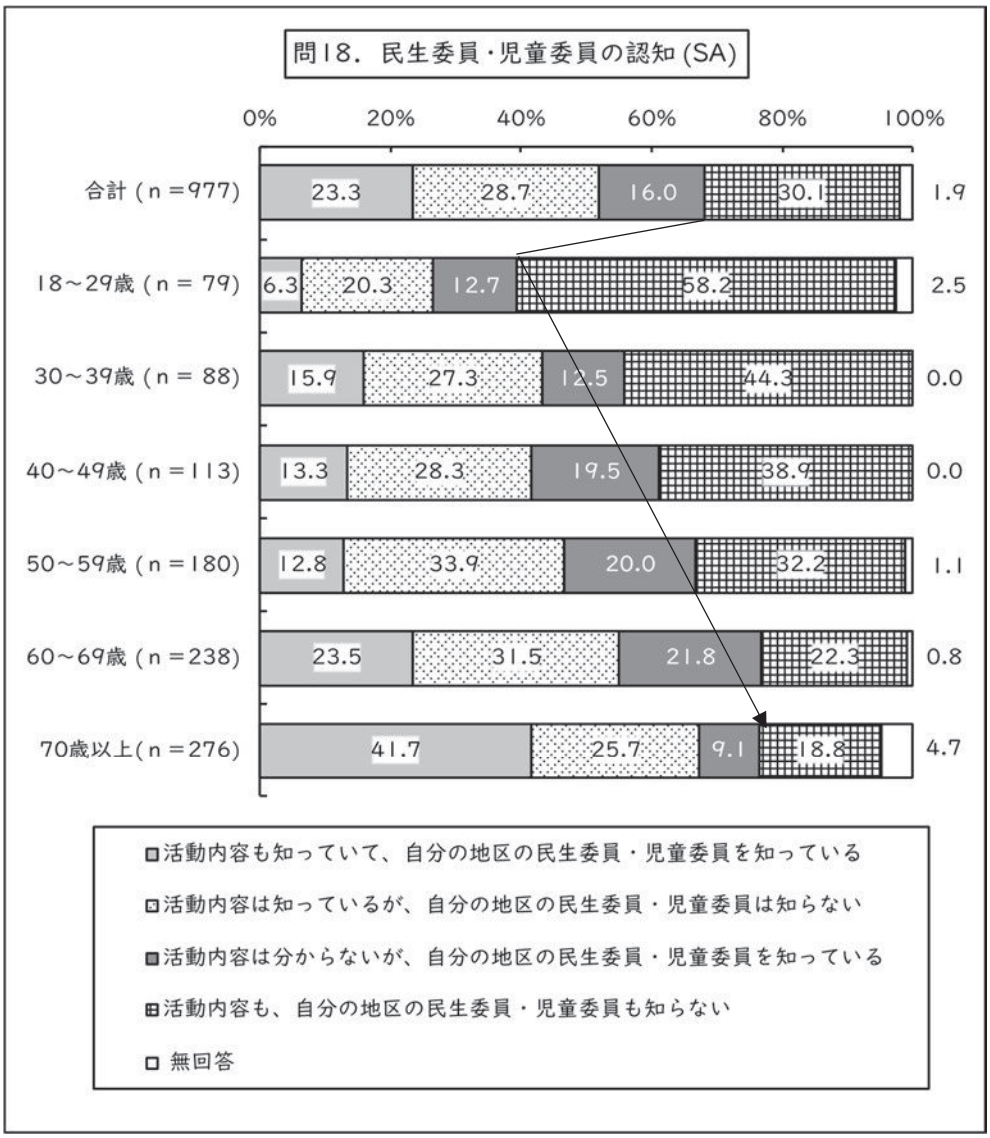


13. 民生委員・児童委員の認知

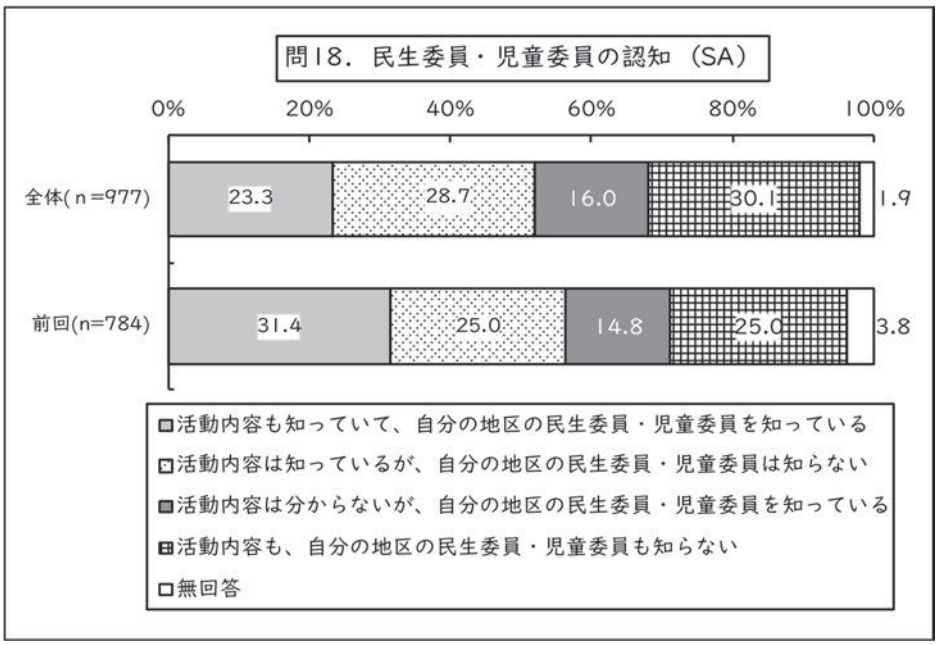
問 18. あなたは、民生委員・児童委員をご存知ですか。（１つに◯）

◯民生委員・児童委員の認知については、「活動内容も知っていて、自分の地区の民生委員・児童委員を知っている」23.3%、「活動内容は知っているが、自分の地区の民生委員・児童委員は知らない」28.7%、「活動内容は分からないが、自分の地区の民生委員・児童委員を知っている」16.0%と、活動や担当委員など何らかの認知がある人が約７割で、「活動内容も、自分の地区の民生委員・児童委員も知らない」30.1%が約３割となっています。

◯年齢層が高くなるほど、認知も高くなっています。



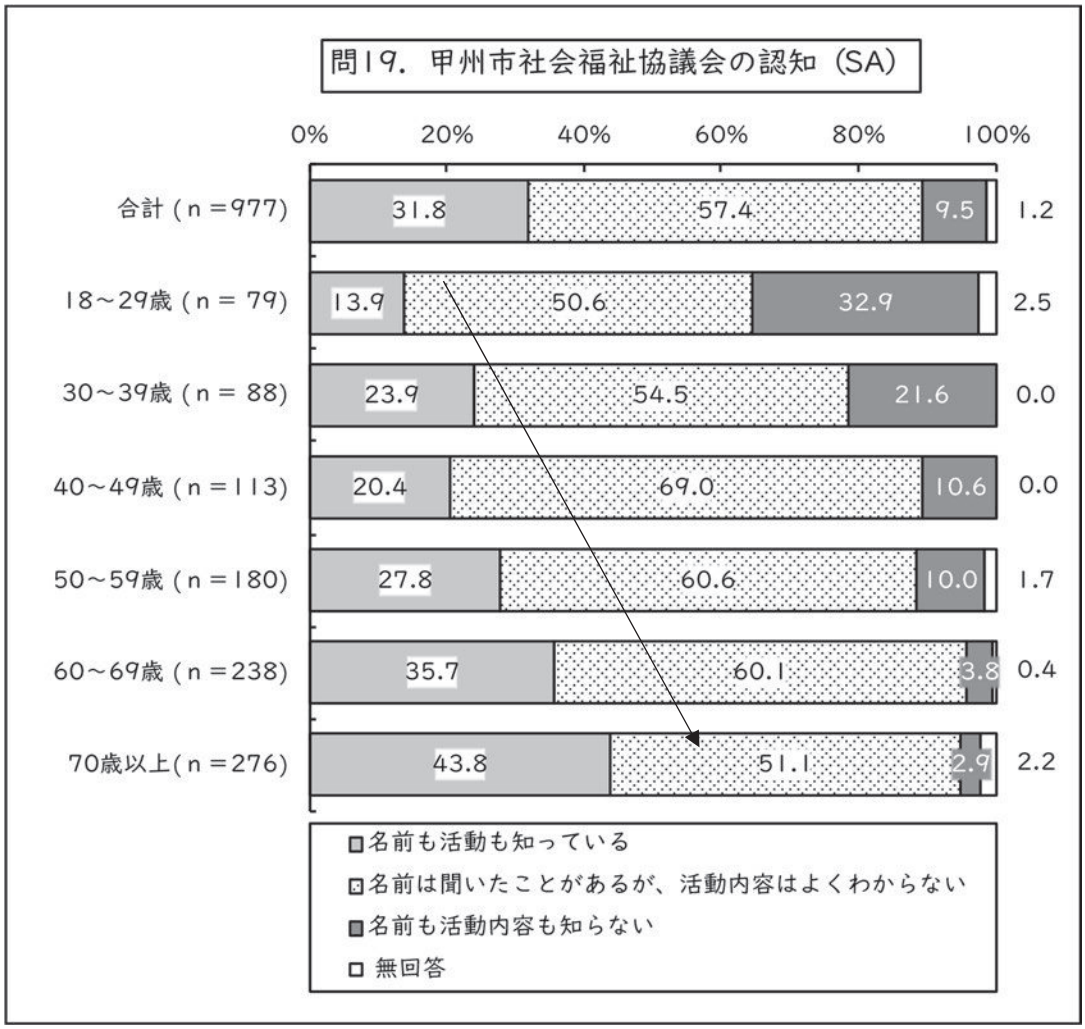
○前回と比べると、「活動内容も知っていて、自分の地区の民生委員・児童委員を知っている」が減少し、「活動内容は知っているが、自分の地区の民生委員・児童委員は知らない」が微増、「活動内容も、自分の地区の民生委員・児童委員も知らない」が増加し、認知については低下傾向といえます。



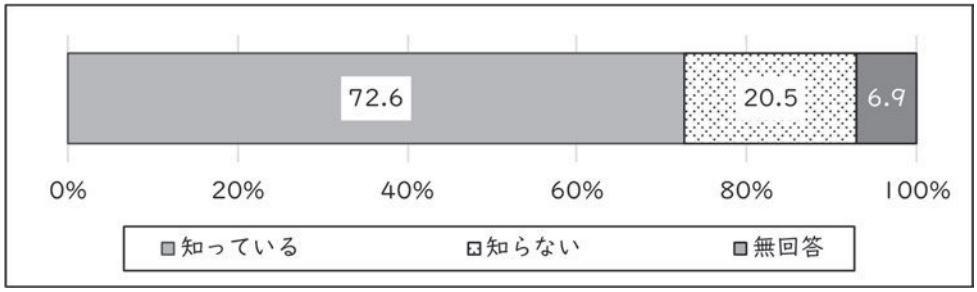
14. 甲州市社会福祉協議会の認知

問 19. あなたは、甲州市社会福祉協議会を知っていますか。（1つに○）

○甲州市社会福祉協議会の認知は、「名前も活動も知っている」31.8%が3割、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよくわからない」57.4%が6割、「名前も活動内容も知らない」9.5%が1割となっています。
年齢層が高くなるほど、認知も高くなっています。



※参考－前回は「知っている」「知らない」の2択での結果です。



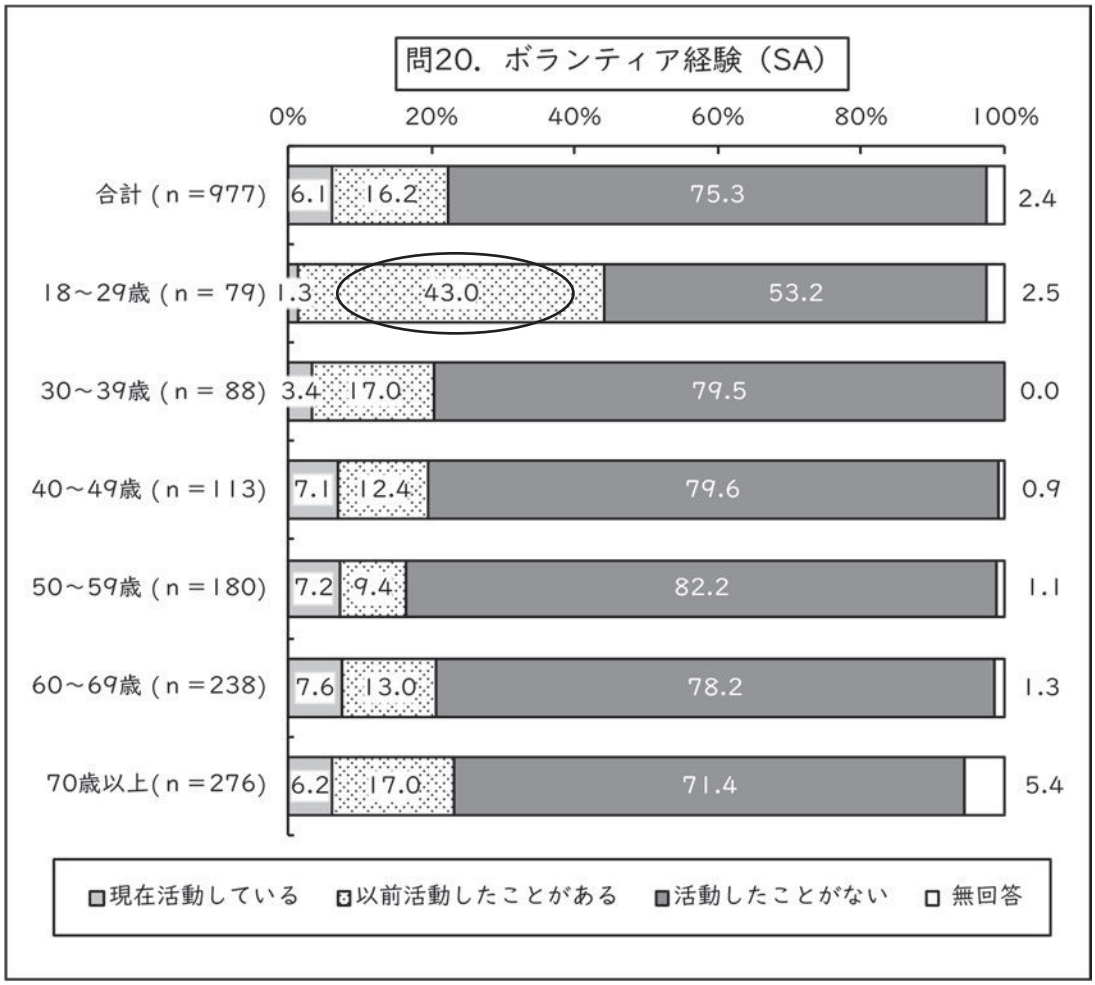
15．ボランティア経験

問 20．あなたは、福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがありますか。（１つに◯）

◯ボランティア経験については、「活動したことがない」75.3%が最も多く全体の 3/4 となっています。「現在活動している」6.1%、「以前活動したことがある」16.2%で、活動経験としては全体の２割程度です。

◯「18～29 歳」で「以前活動したことがある」43.0%が特に多くなっています。

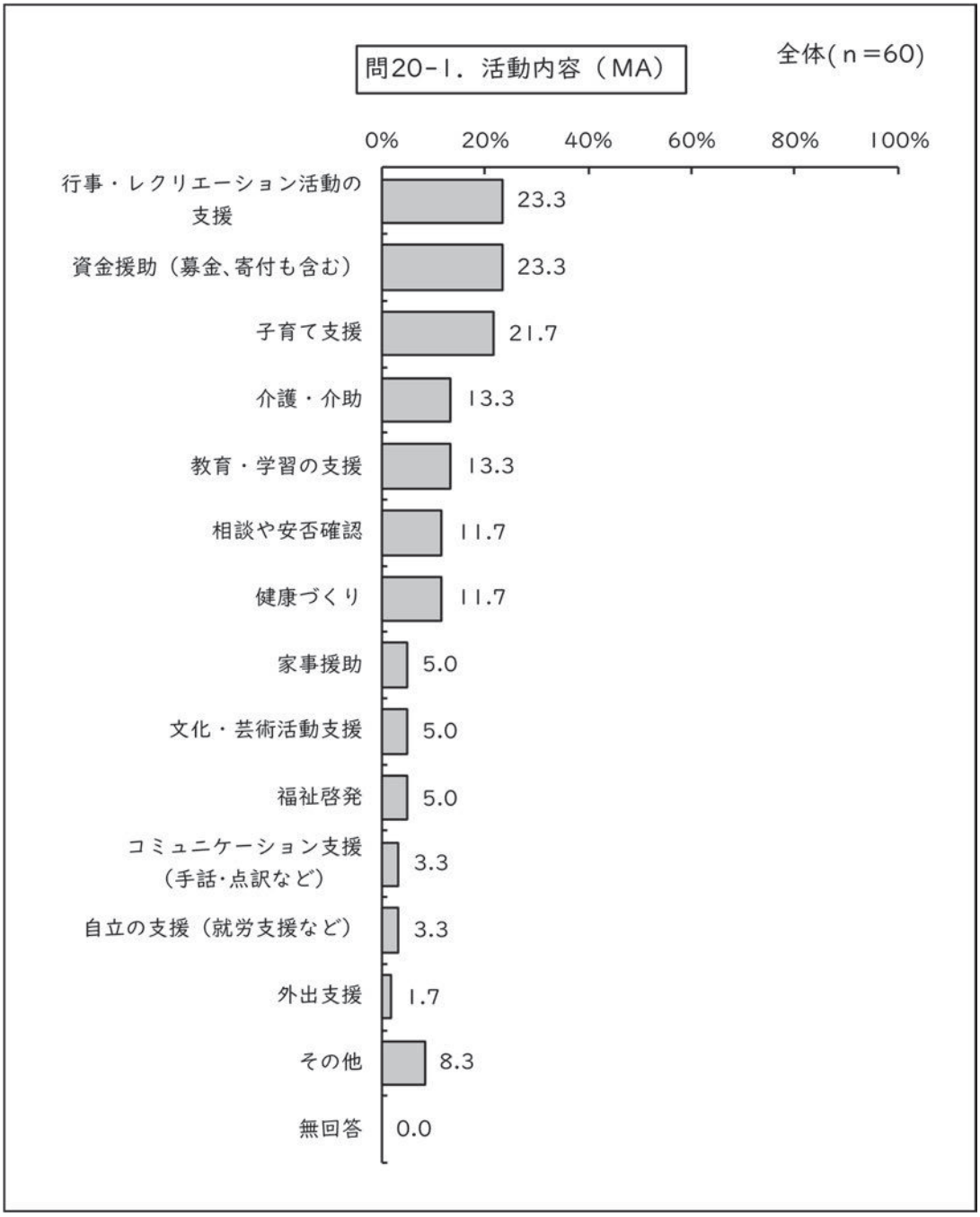
◯前回と大きな違いはありませんでした。



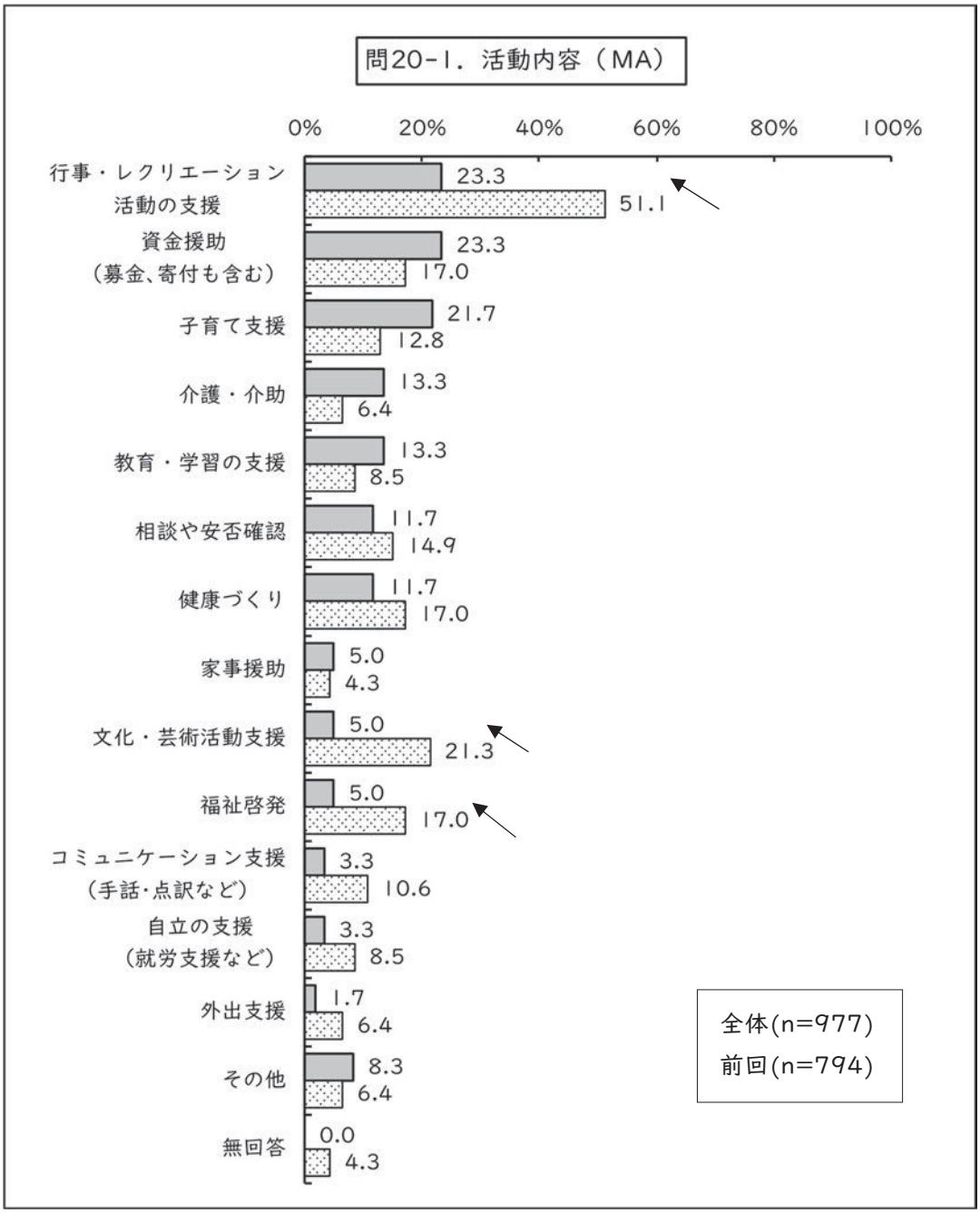
15-1．活動内容

問 20-1．あなたが現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のどれですか。（あてはまるものすべてに◯）

◯前問で、「現在活動している」と回答した 60 人にその内容を聞いた所、「行事・レクレーション活動の支援」23.3%、「資金援助（募金・寄付も含む）」23.3%、「子育て支援」21.7%が多くなっています。



○前回と比べると、「行事・レクリエーション活動の支援」、「文化・芸術活動支援」、「福祉啓発」が大きく減少していることが目立ちます。
一方、「資金援助(募金、寄付も含む)」、「子育て支援」、「介護・介助」は増加しました。

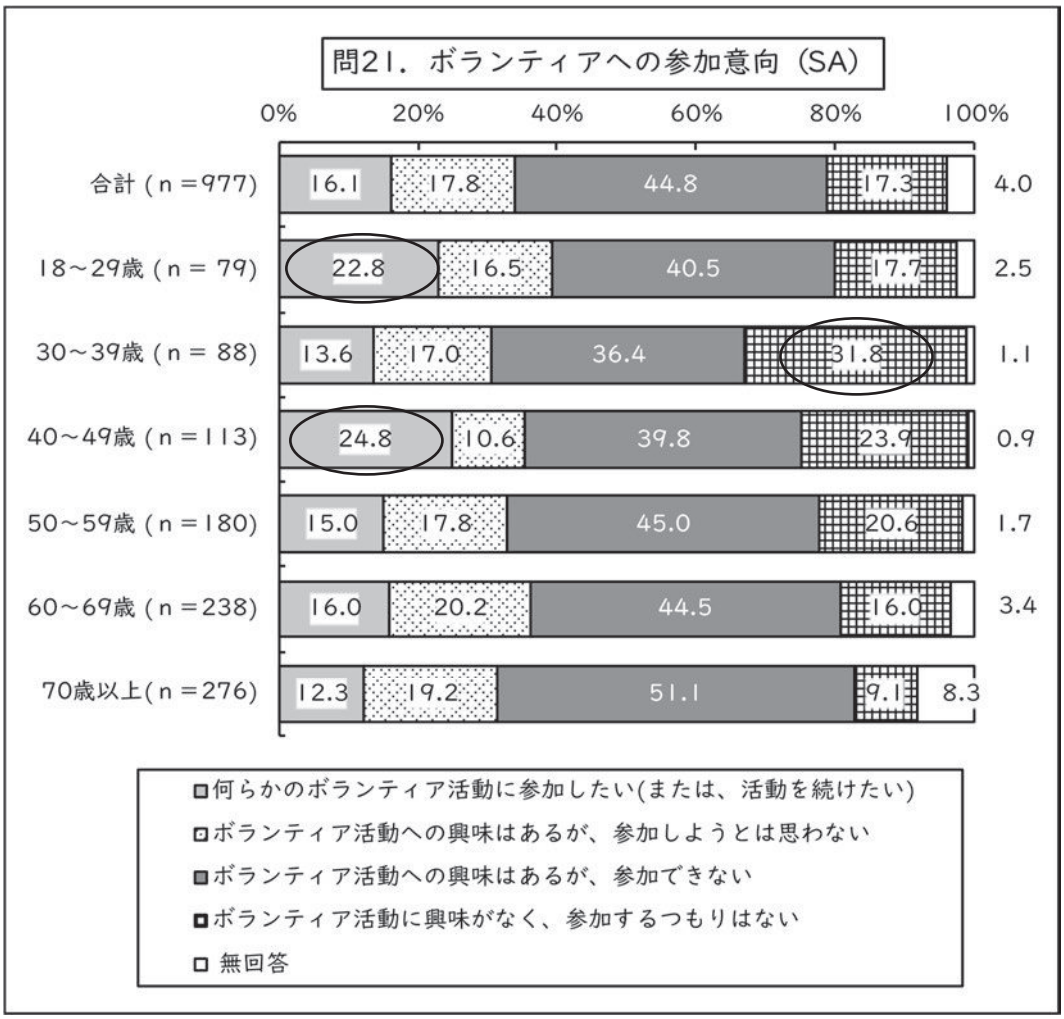


16．ボランティアへの参加意向

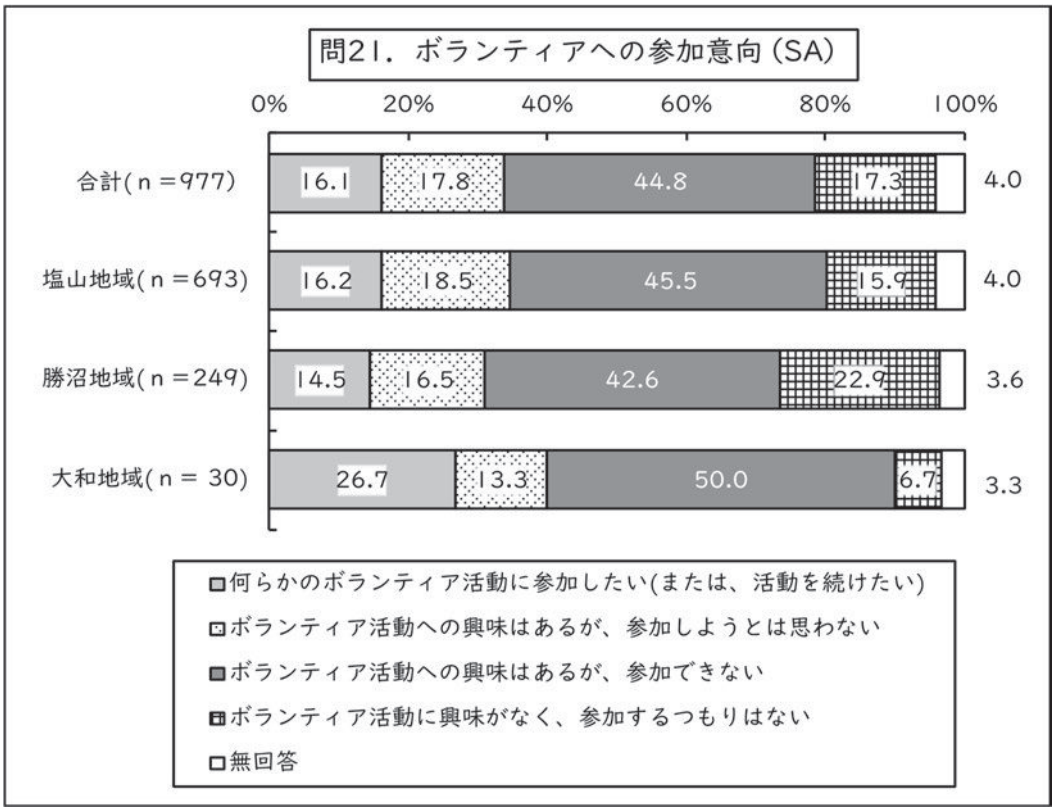
問 21．あなたは、福祉分野のボランティア活動に興味や参加の意向がありますか。
（１つに◯）

◯福祉分野のボランティア活動への参加意向については、「ボランティア活動への興味はあるが、参加できない」44.8%が最も多くなっています。「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」16.1%、「ボランティア活動への興味はあるが、参加しようとは思わない」17.8%、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」17.3%の３項目が同程度の割合となっています。

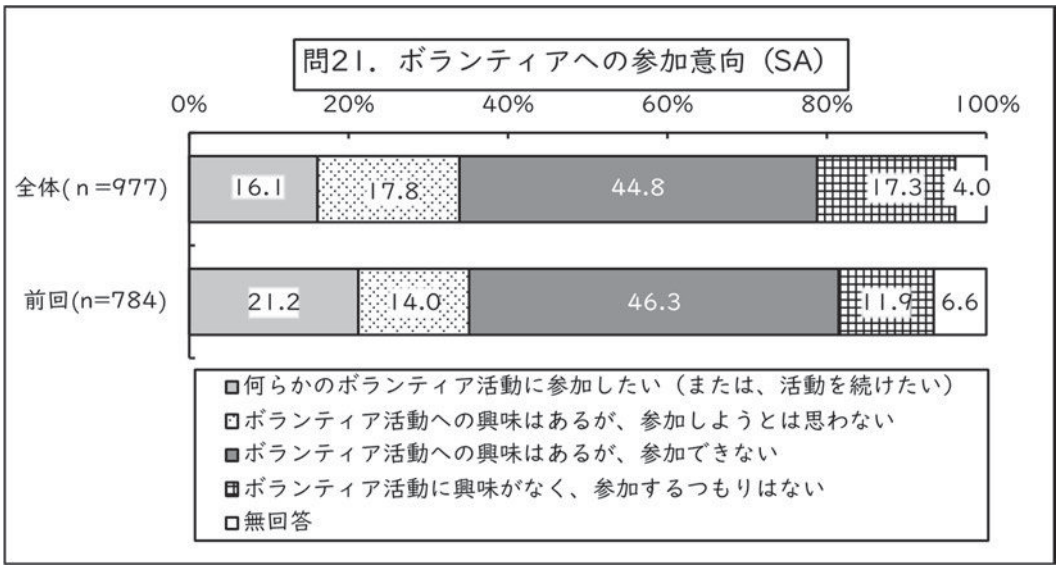
◯年齢別では、「18～29 歳」と「40～49 歳」で「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」の意見が多く、一方、「30～39 歳」では、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」31.8%が３割を超えて目立っています。



○地域別では、「大和地域」で「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」26.7%の参加意向が多くなっています。



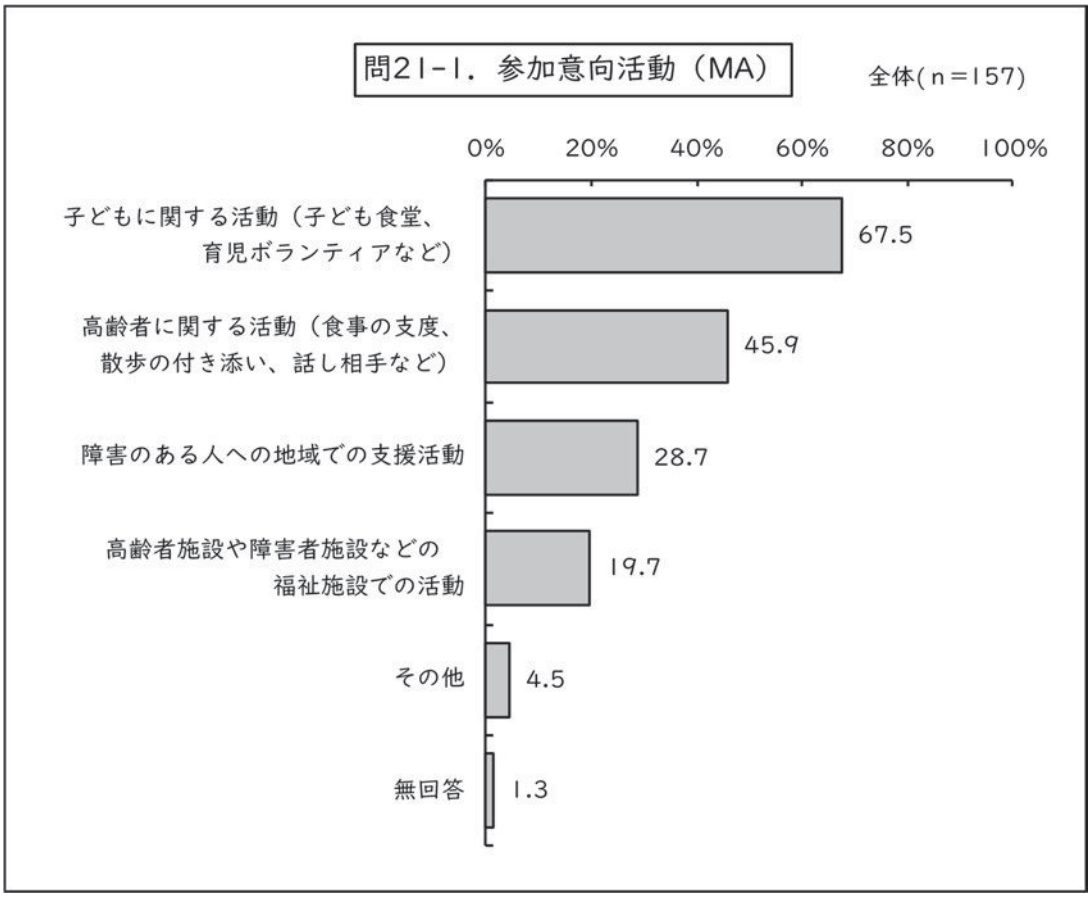
○前回と比べると、「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」が減少し、「ボランティア活動に興味がなく、参加するつもりはない」が増加しました。



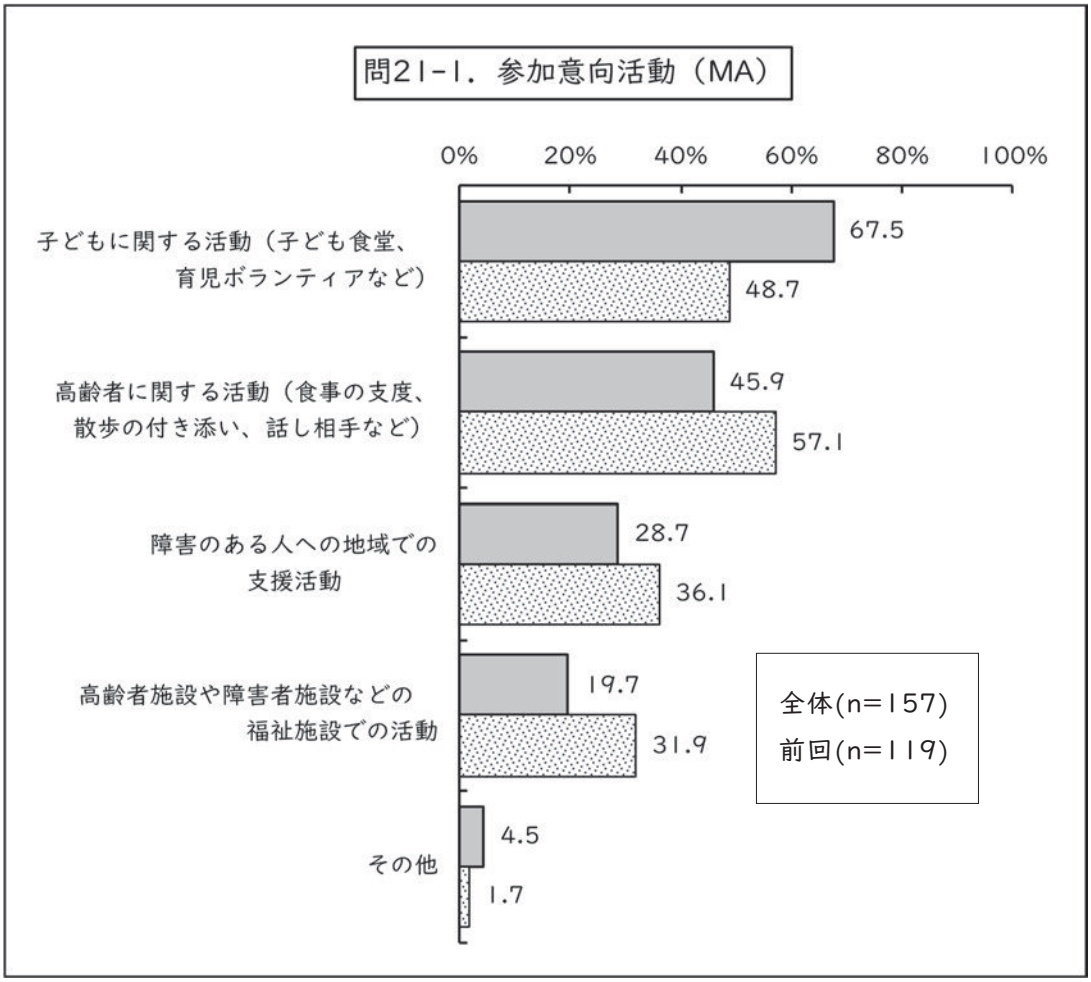
16-1．参加意向活動

問 21-1.どのような社会福祉活動に参加したいと思いますか。
（あてはまるものすべてに◯）

◯前問で「何らかのボランティア活動に参加したい(または、活動を続けたい)」と回答した 157 人に参加意向活動について聞いた所、「子どもに関する活動（子ども食堂、育児ボランティアなど)」67.5%が最も多く、以下、「高齢者に関する活動（食事の支度、散歩の付き添い、話し相手など)」45.9%、障害のある人への地域での支援活動」28.7%が続いています。



○前回と比べると、「子どもに関する活動（子ども食堂、育児ボランティアなど）」が増加し、それ以外の項目は減少傾向となっています。

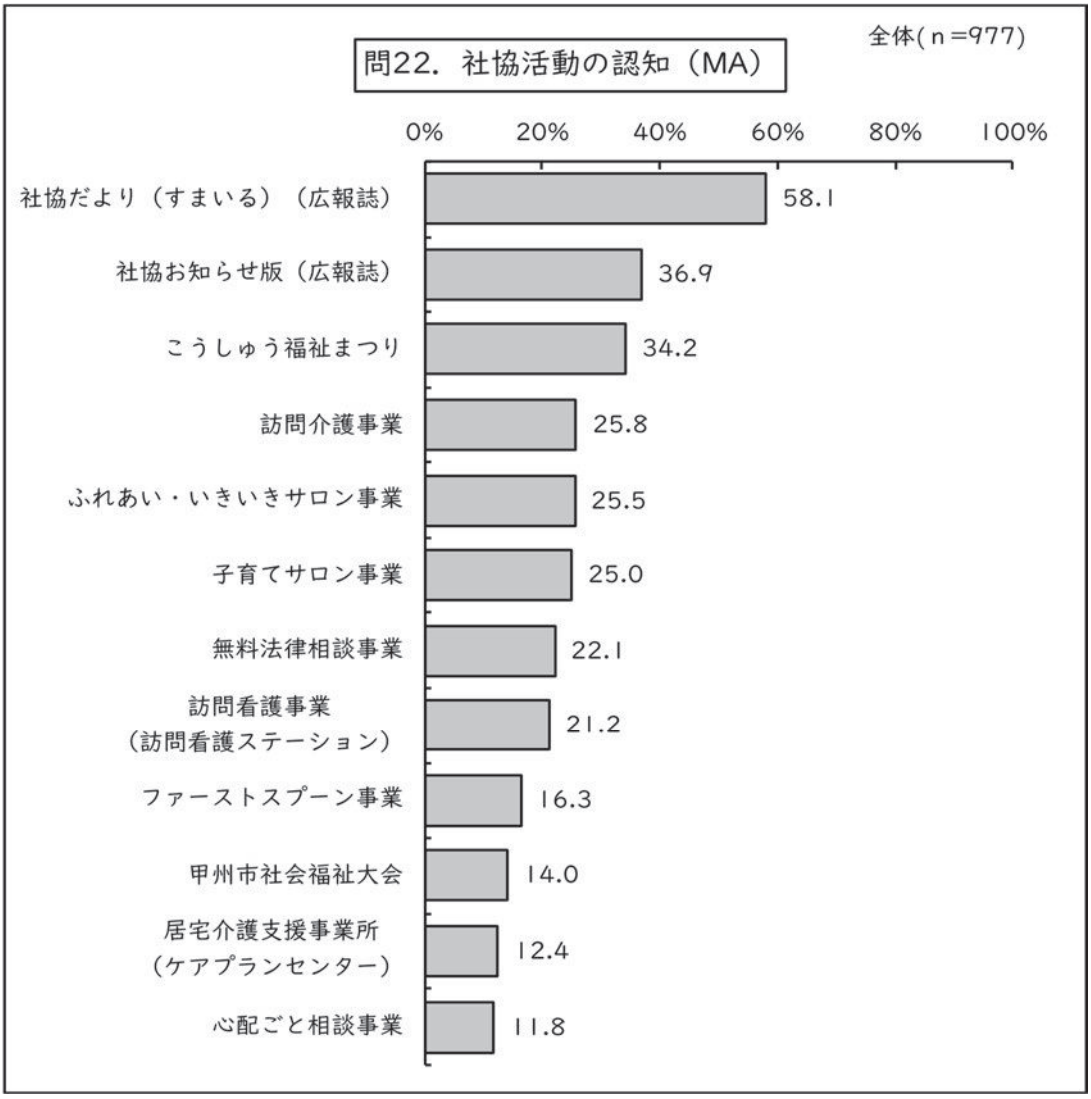


17. 社協活動の認知

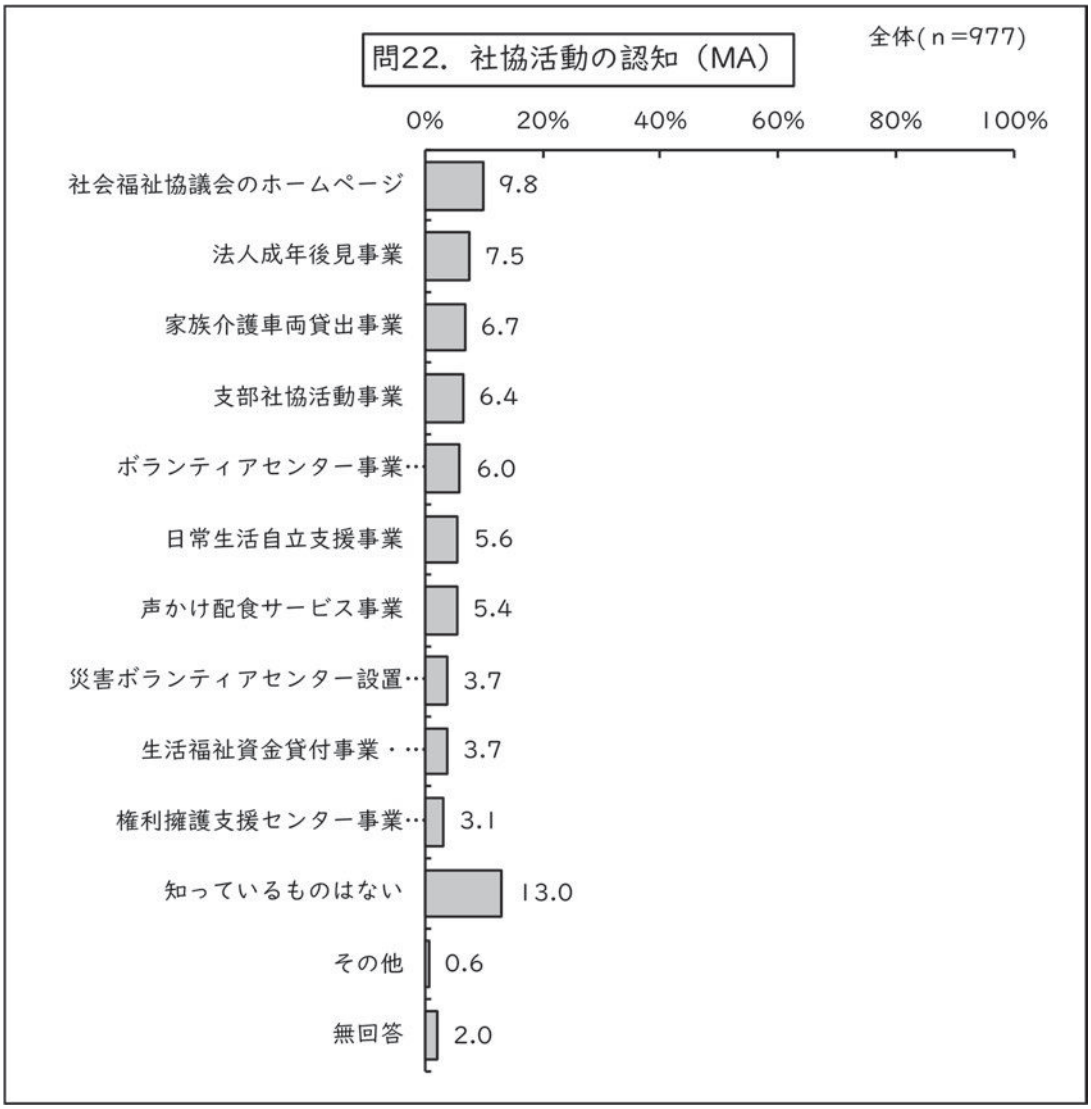
問 22. 社会福祉協議会の活動で知っているものを下記から選んでください。
（あてはまるものすべてに◯）

◯社会福祉協議会の活動として知られているものは、「社協だより(すまいる)(広報誌)」58.1%が半数を超えて最も多く、以下、「社協お知らせ版（広報誌)」36.9%、「こうしゅう福祉まつり」34.2%、「　　訪問介護事業」25.8%、「ふれあい・いきいきサロン事業」25.5%、「子育てサロン事業」25.0%と続いています。
また、「知っているものはない」13.0%の回答も１割を超えています。

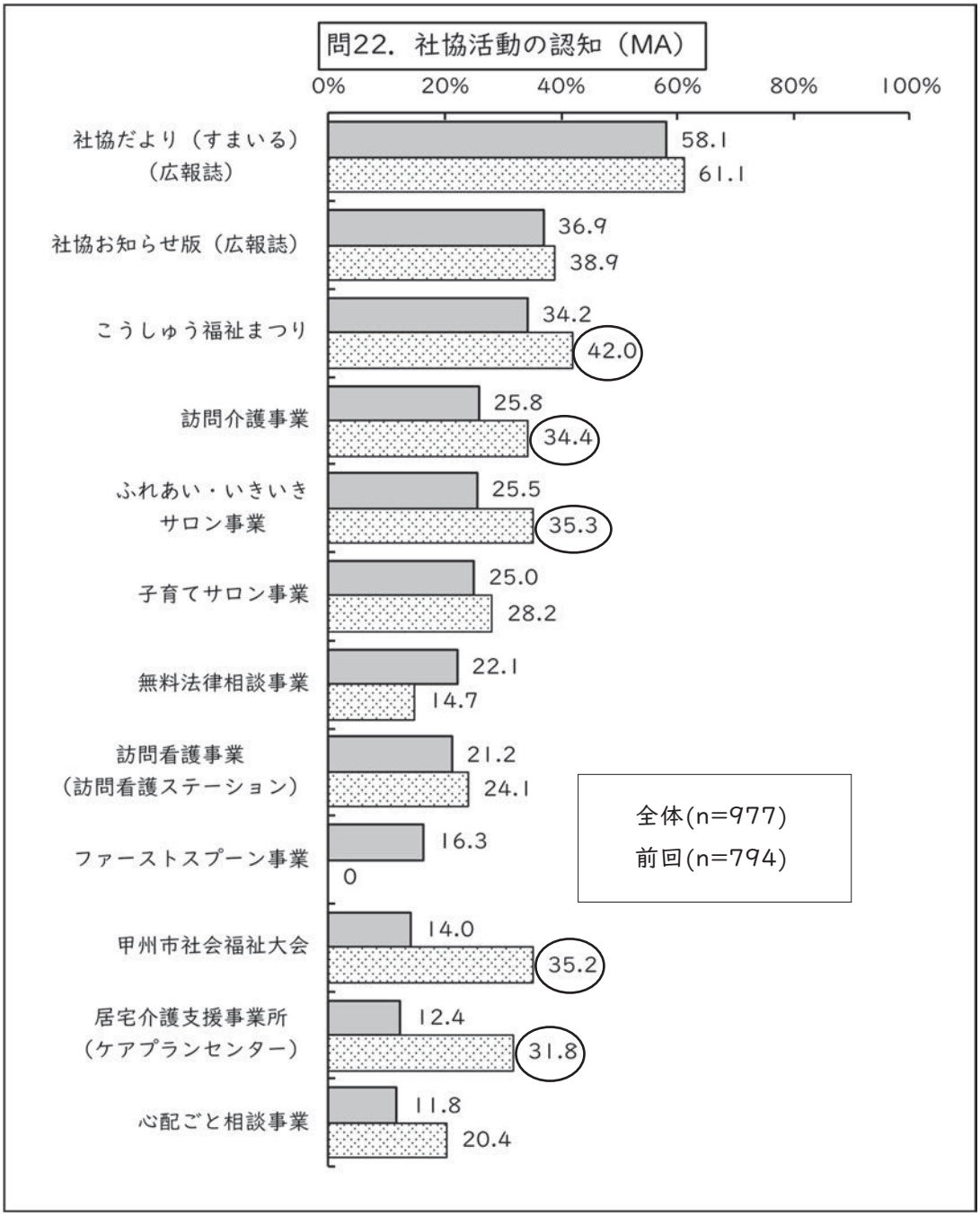
◯全般的に、年齢層が高くなるほど認知が高くなる傾向です。また、「30～39 歳」で「子育てサロン」40.9%の認知が４割を超えています。



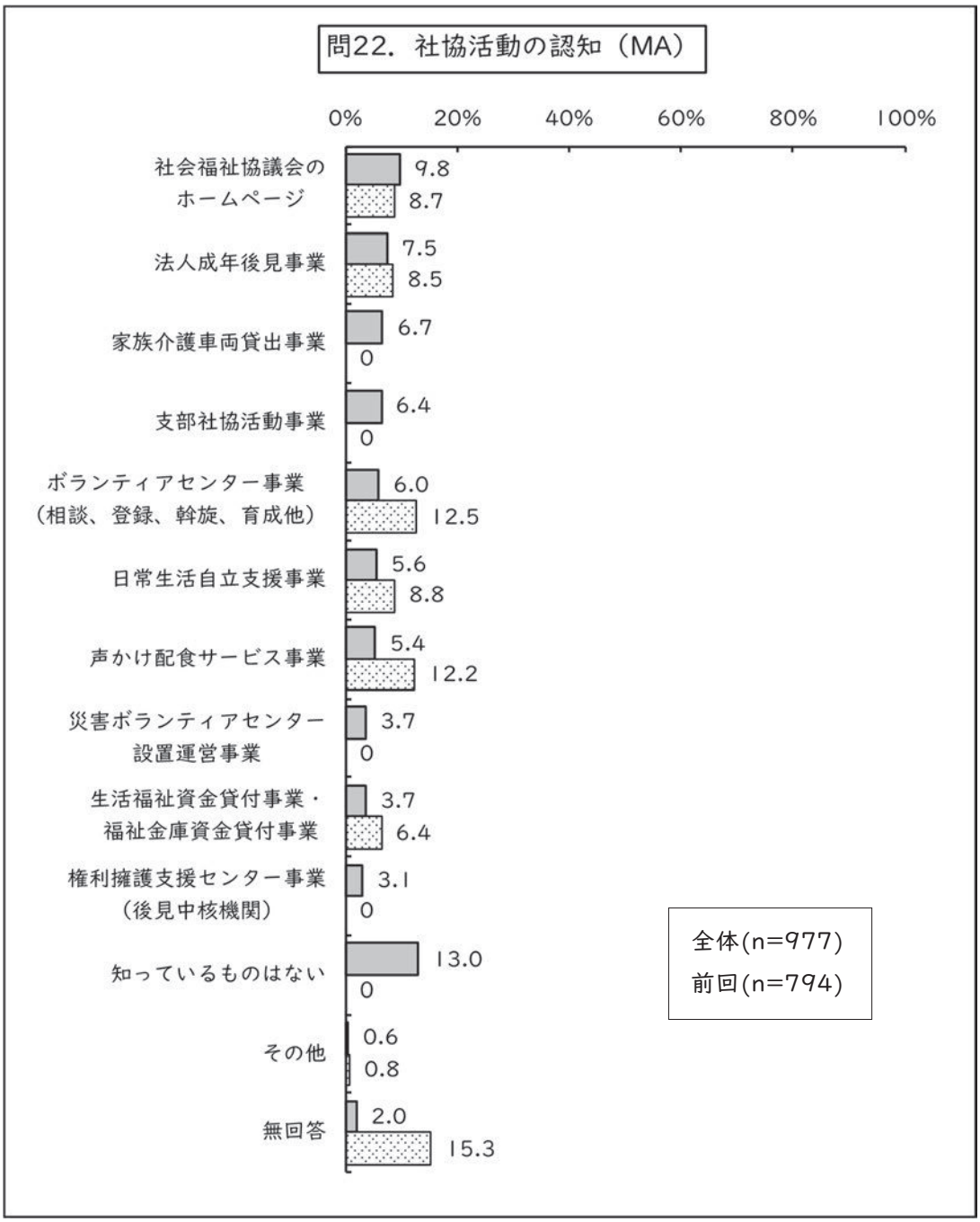
※グラフは次ページへ続く


問22. 社協活動の認知（MA）
全体(n=977)
0%
20%
40%
60%
80%
100%
社会福祉協議会のホームページ
9.8
法人成年後見事業
7.5
家族介護車両貸出事業
6.7
支部社協活動事業
6.4
ボランティアセンター事業…
6.0
日常生活自立支援事業
5.6
声かけ配食サービス事業
5.4
災害ボランティアセンター設置…
3.7
生活福祉資金貸付事業・…
3.7
権利擁護支援センター事業…
3.1
知っているものはない
13.0
その他
0.6
無回答
2.0

○前回と比べると、全般に減少傾向となっています。特に、イベントや集まり、対面での事業に関わるものの減少が目立ちます。



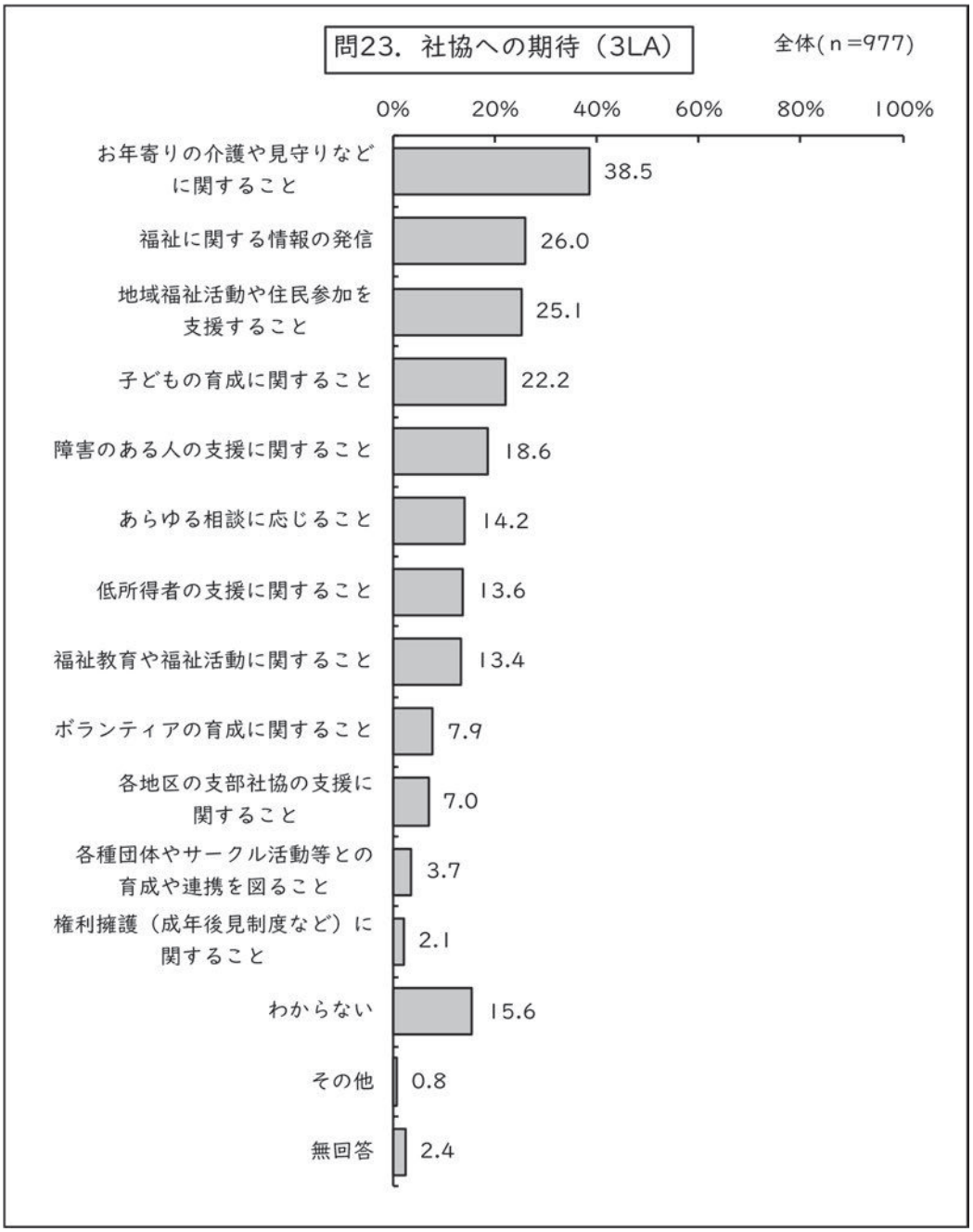
※グラフは次ページへ続く


問22. 社協活動の認知（MA）
0%
20%
40%
60%
80%
100%
社会福祉協議会のホームページ
9.8
8.7
法人成年後見事業
7.5
8.5
家族介護車両貸出事業
6.7
0
支部社協活動事業
6.4
0
ボランティアセンター事業（相談、登録、斡旋、育成他）
6.0
12.5
日常生活自立支援事業
5.6
8.8
声かけ配食サービス事業
5.4
12.2
災害ボランティアセンター設置運営事業
3.7
0
生活福祉資金貸付事業・福祉金庫資金貸付事業
3.7
6.4
権利擁護支援センター事業（後見中核機関）
3.1
0
知っているものはない
13.0
0
その他
0.6
0.8
無回答
2.0
15.3
全体(n=977)
前回(n=794)

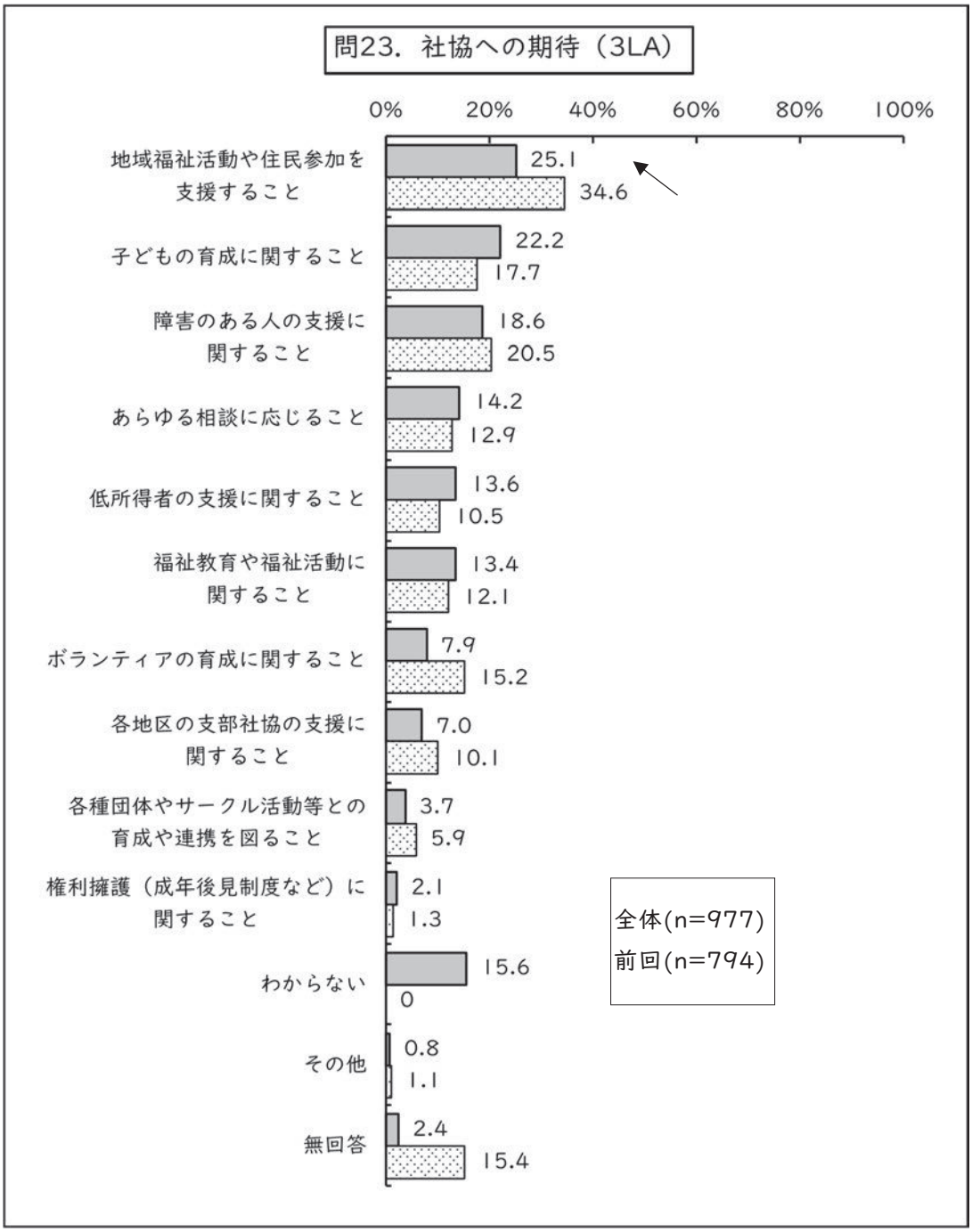
18．社協への期待

問 23．社会福祉協議会の活動で、今後どのような分野での役割を期待しますか。
（３つまで◯）

◯社会福祉協議会の今後の活動への期待は、「お年寄りの介護や見守りなどに関すること」38.5%が最も多く、以下、「福祉に関する情報の発信」26.0%、「地域福祉活動や住民参加を支援すること」25.1%、「子どもの育成に関すること」22.2%が続いています。「子どもの育成に関すること」については「18～49 歳」の年齢層で多くなっています。



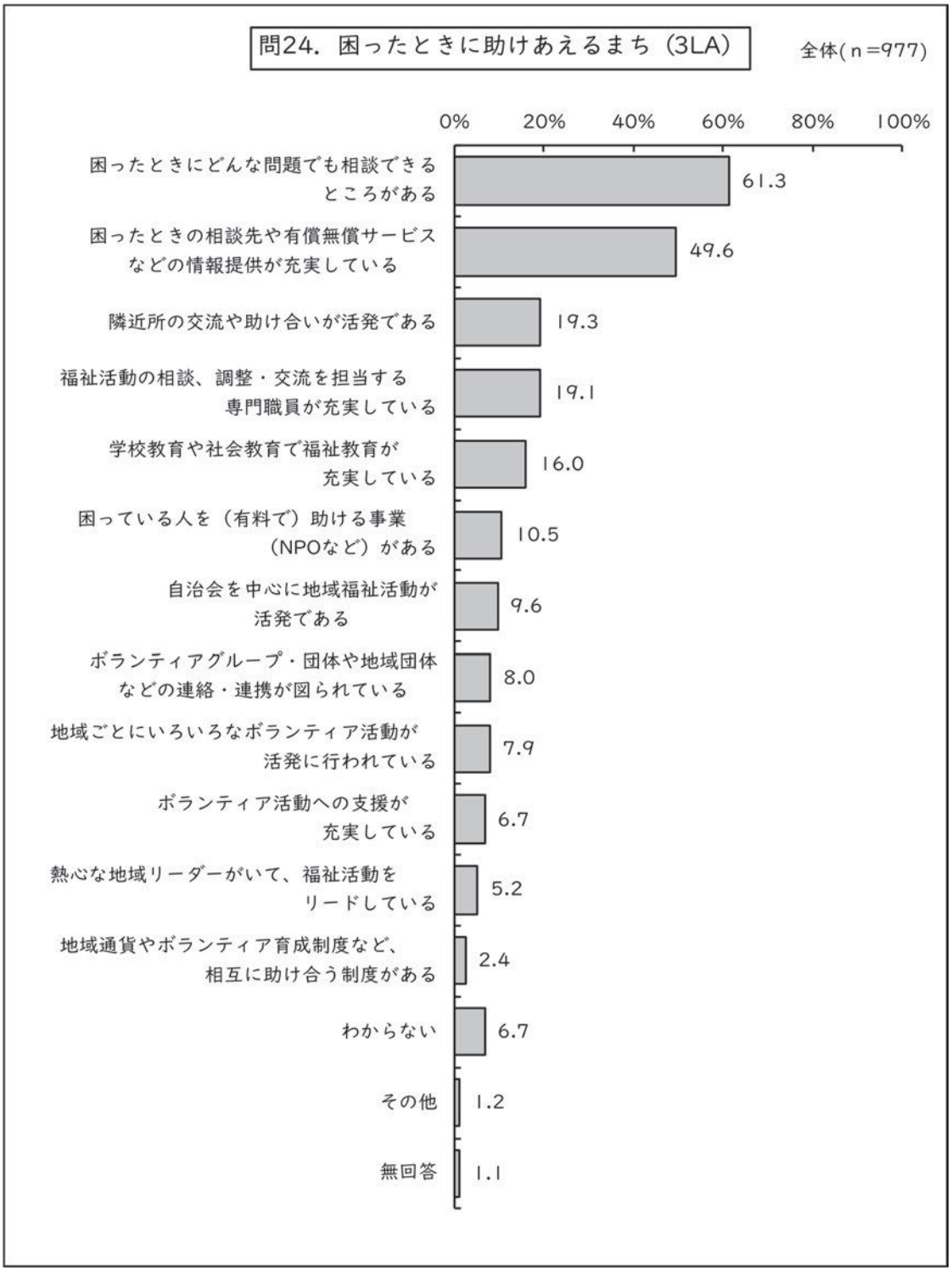
○前回に比べると、「地域福祉活動や住民参加を支援すること」の減少が目立ちます。



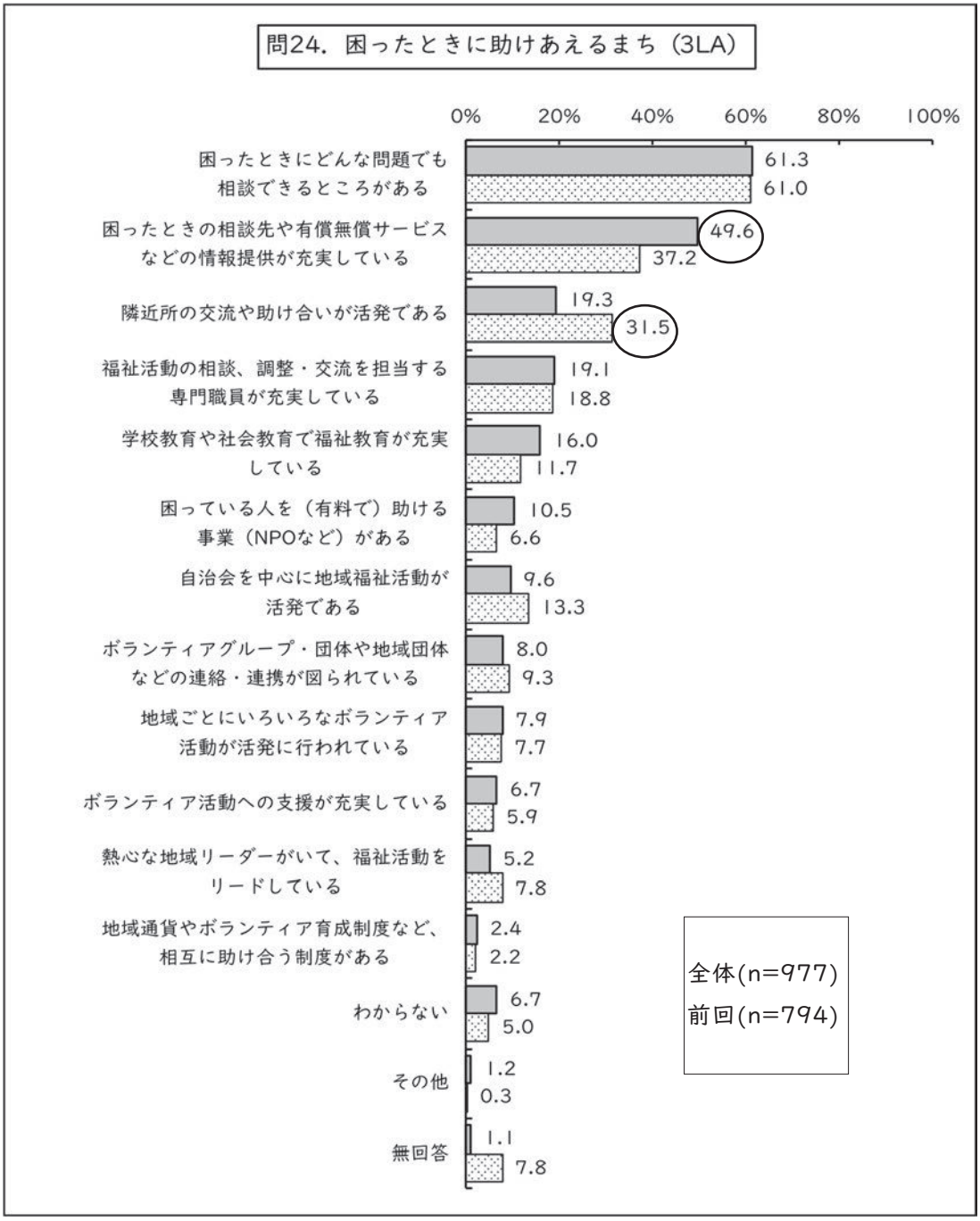
19. 困ったときに助けあえるまちとは

問 24. 困ったときに助けあえるまちとは、どのようなまちだと思いますか。
（３つまで）

○困ったときに助けあえるまちのイメージとしては、「困ったときにどんな問題でも相談できるところがある」61.3%、「困ったときの相談先や有償無償サービスなどの情報提供が充実している」49.6%の２項目に回答が集まっています。



○前回と比べて、「困ったときの相談先や有償無償サービスなどの情報提供が充実している」が増加した一方、「隣近所の交流や助け合いが活発である」が減少しています。その他の項目に大きな違いは見られません。

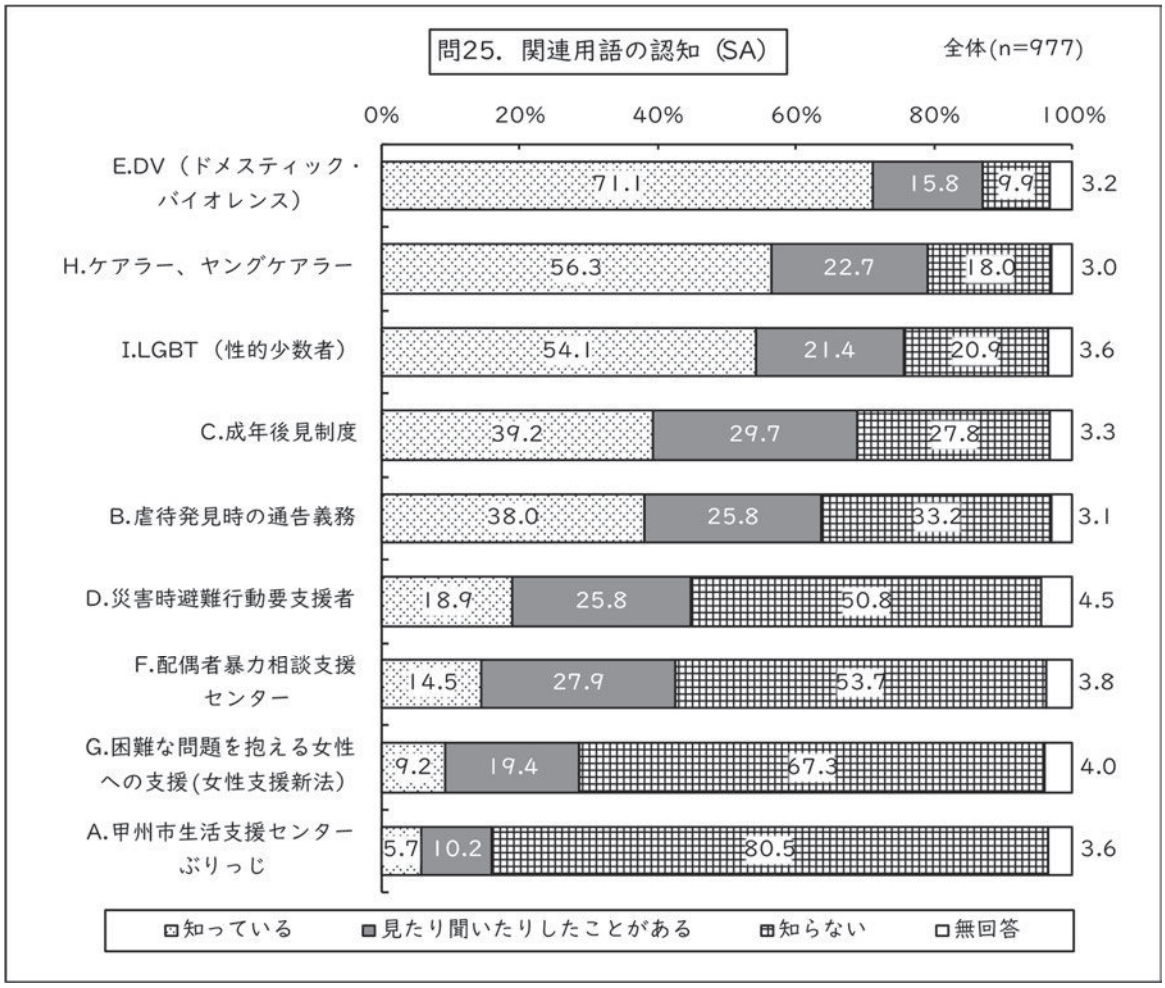


20．福祉用語の認知

問 25．次のＡからＩの言葉について、それぞれ１～3 のうち１つに○をつけてお選びください。（Ａ～Ｉのそれぞれの該当する数字１つに○）

○福祉に関連する用語の認知では、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」71.1％、「ケアラー、ヤングケアラー」56.3％、「LGBT（性的少数者）」54.1％の３項目が 50％を超えています。

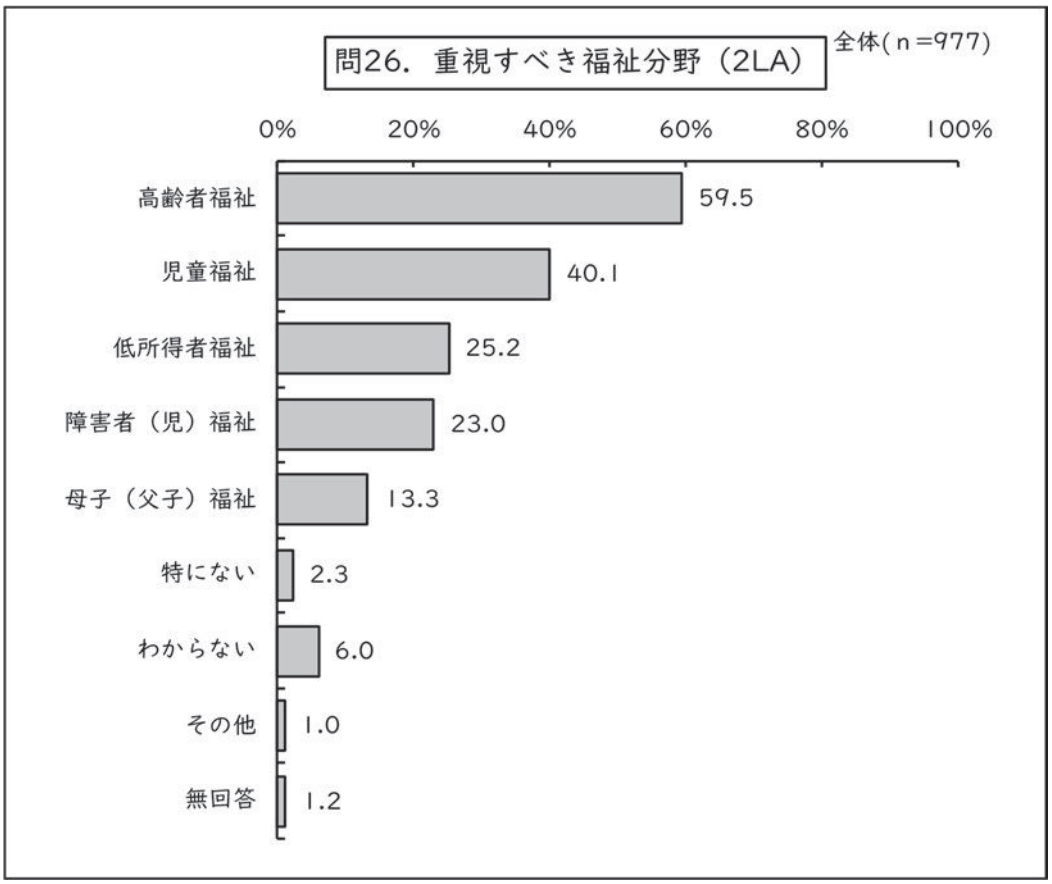
○一方、「災害時避難行動要支援者」、「配偶者暴力相談支援センター」、「困難な問題を抱える女性への支援(女性支援新法)」、「甲州市生活支援センターぶりっじ」の各項目は「知らない」が５割を超えています。



21．重視すべき福祉分野

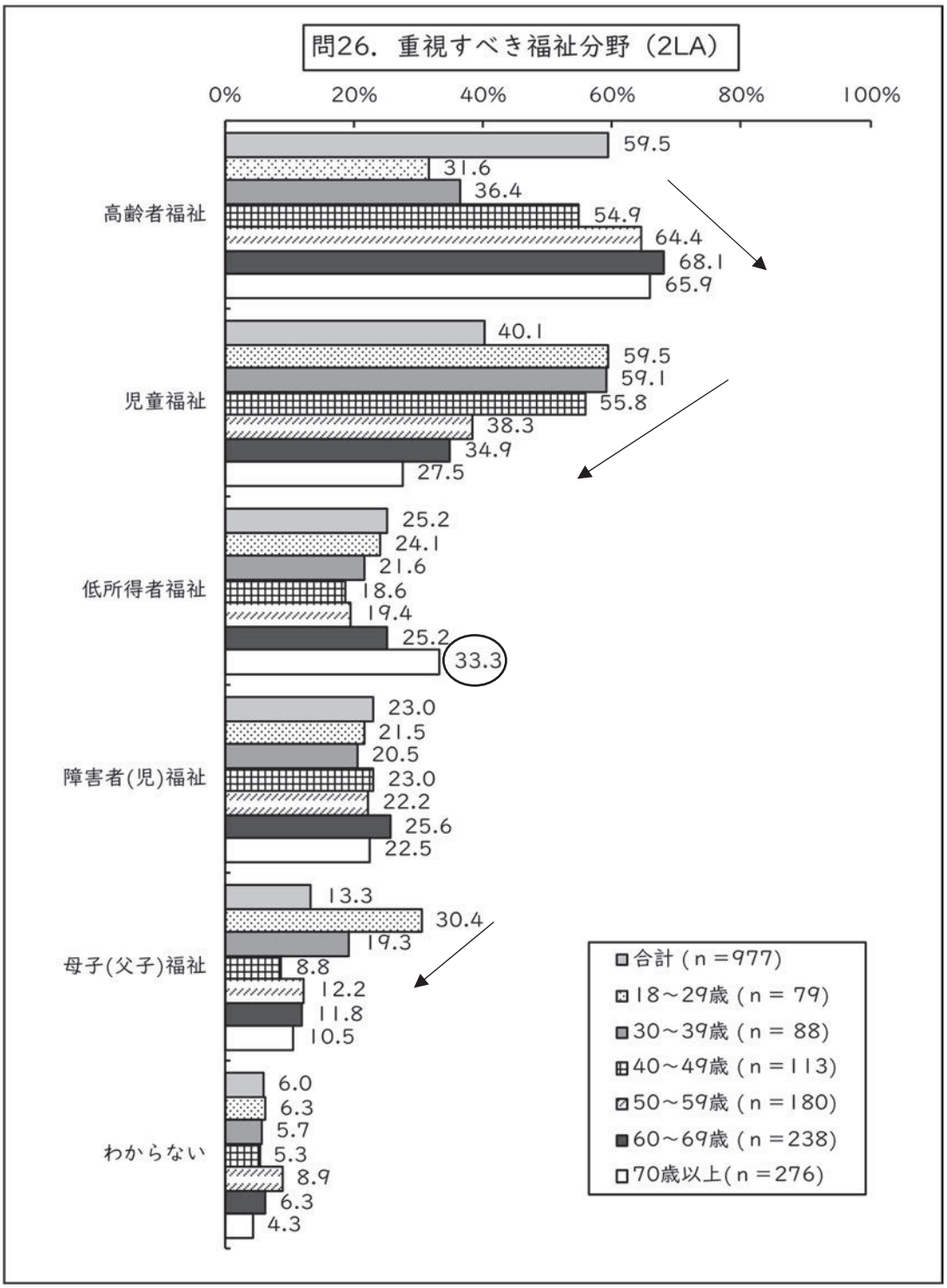
問 26．あなたは、限られた人員や財源のなかで、今後、特に重視していくことが望ましい福祉分野は次のどれだと思いますか。（2 つまで◯）

◯今後重視すべき福祉分野としては、「高齢者福祉」59.5%が最も多く６割を占め、以下、「児童福祉」40.1%、「低所得者福祉」25.%、「障害者(児)福祉」23.0%、「母子(父子)福祉」13.3%と続いています。



○年齢別で見ると、回答者の年齢層と対応する福祉分野が多くなる傾向です。また、「障害者(児)福祉」は各年齢層とも 25%程度で一定、「低所得者福祉」は「70 歳以上」で３割を超えています。

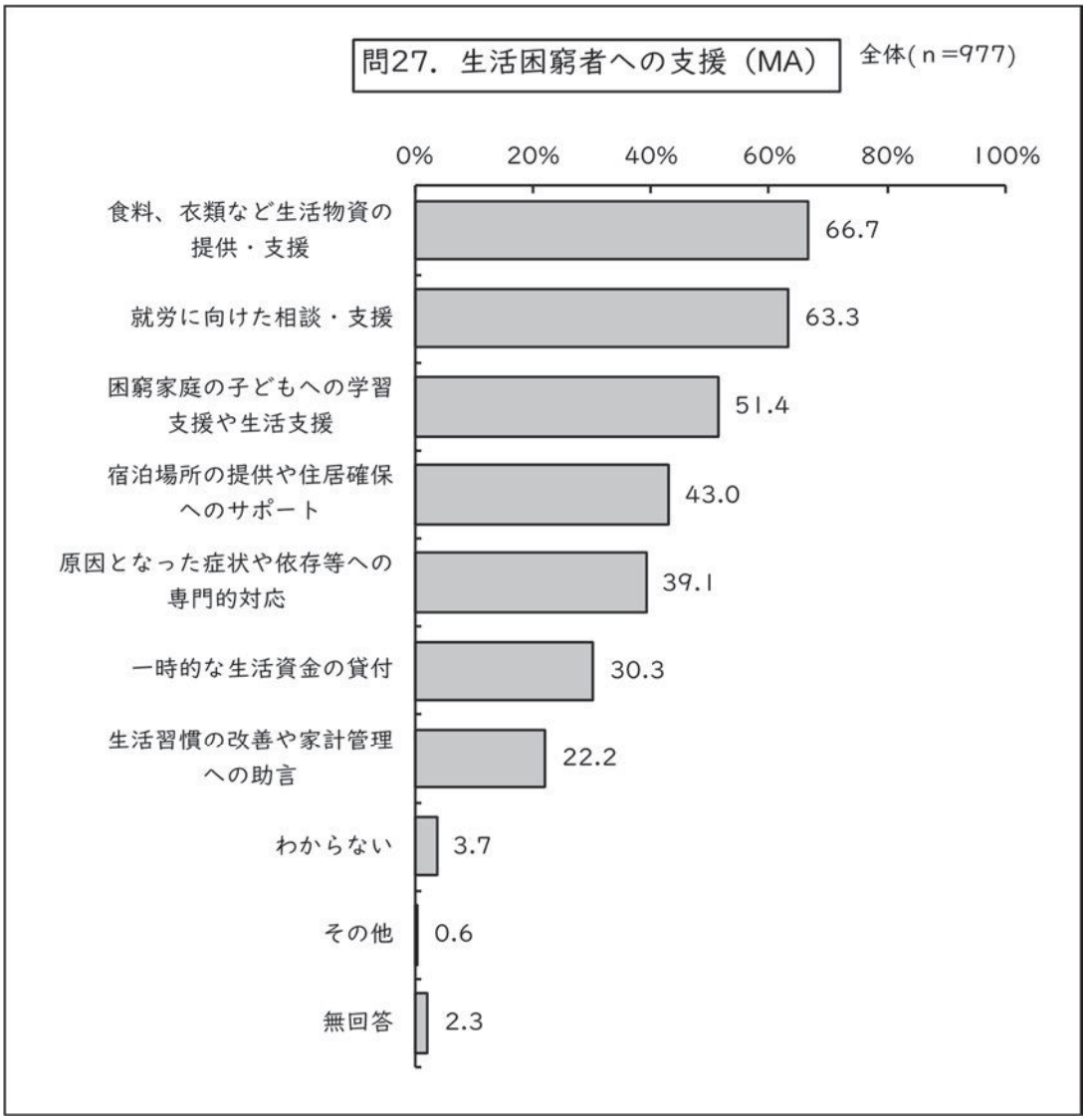
○各年齢層ともに「わからない」が５～6%の一定数います。



22. 生活困窮者への支援

問 27. 失業や病気、介護などにより、経済的に生活が立ち行かなくなった人（生活困窮者）への支援内容として必要と思われるものはどれだと思いますか。（あてはまるものすべてに◯）

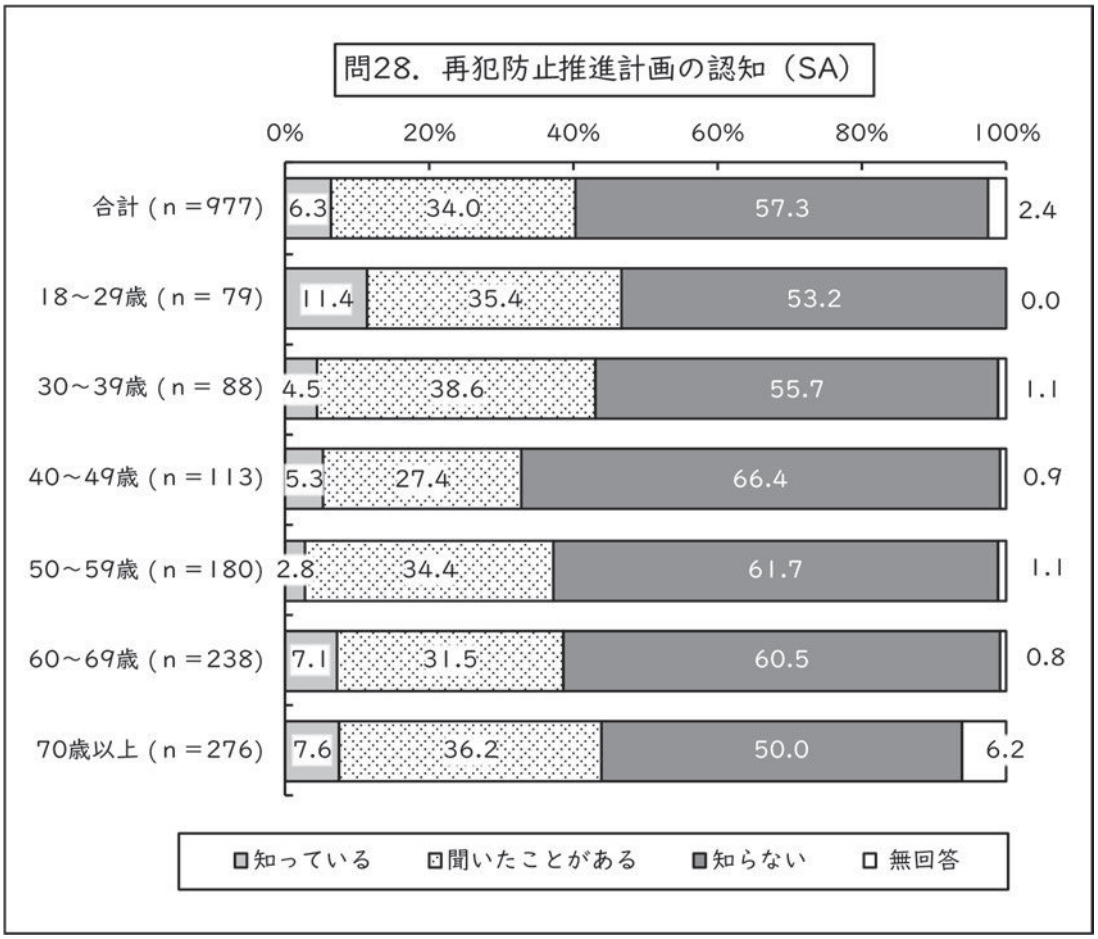
◯生活困窮者への支援については、「食料、衣類など生活物資の提供・支援」66.7%、「就労に向けた相談・支援」63.3%、「困窮家庭の子どもへの学習支援や生活支援」51.4%を半数以上があげています。



23．再犯防止推進計画の認知

問 28．再犯防止推進計画を知っていますか。（１つに◯）

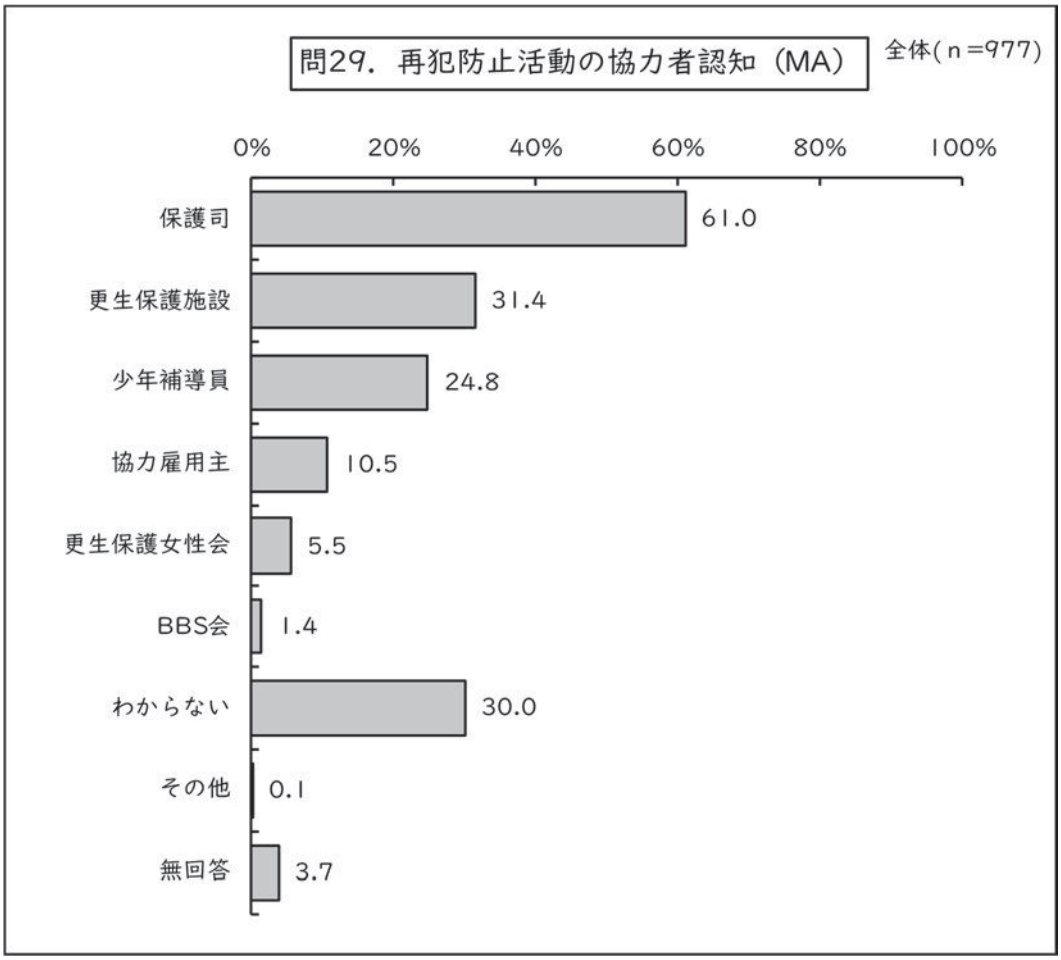
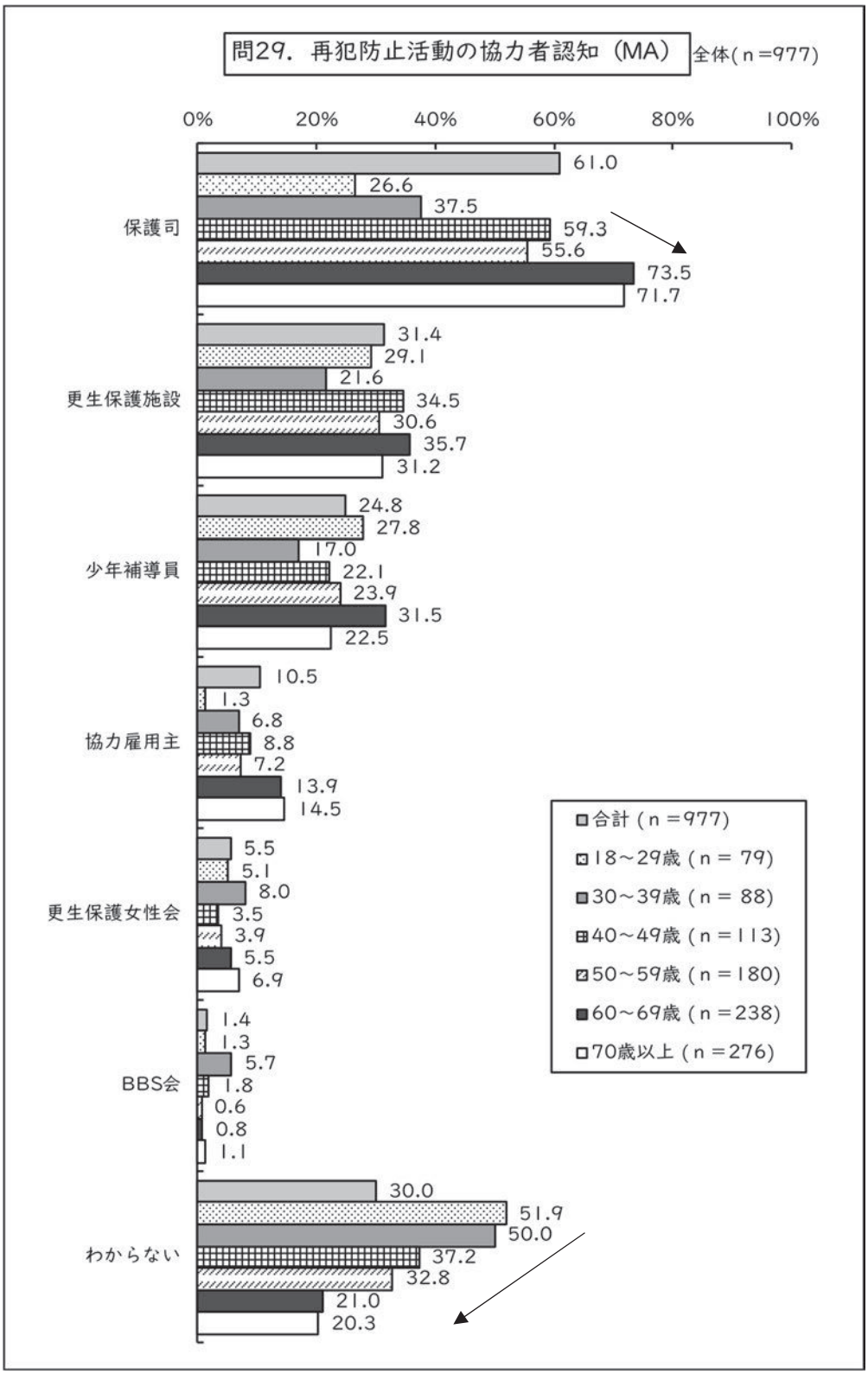
◯再犯防止推進計画については、全体では、「知っている」6.3%、「聞いたことがある」34.0%、「知らない」57.3%で、認知は５割以下となっています。
◯年齢別で見ても、若干の差があるものの「知らない」が半数を超えています。



24．再犯防止活動の協力者認知

問 29．再犯防止に協力する民間協力者について知っているものを選んでください。
（あてはまるものすべてに◯）

◯再犯防止活動に協力する民間協力者の認知について聞いたところ、「保護司」61.0%が最も多く、以下、「更生保護施設」31.4%、「少年補導員」24.8%と続いています。また、「わからない」30.0%の回答も多くなっています。



○年齢層が高いほど、認知も高くなる傾向です。「18～39 歳」の層では「わからない」が半数となっています。